

品名	單位	昭和八年		昭和七年		増減	増減額
		數量	價額	數量	價額		
鐵	噸	三九八〇九〇二	六五九三九九	※ 三五三〇四八七	四四九三〇二	△	一八六三六八
銅	噸	七四八七三	七五七三三	※ 八七〇六三	六八八九八	△	一六七五五
鉛	噸	一〇〇七九	三六四四	※ 九四八二六	一七八四八	△	四七六七
釘	噸	三八三〇九	六四四〇五	※ 七〇四六八	四四八八	△	一九一九九
家屋、橋梁、船舶、船渠等ノ建設材料							
絶緣電線							
工匠具、農具及同部分品							
鐵製							
蓄音器、同部分品及附屬品							
電信機、電話機及同部分品							
鐵道車輛及同部分品							
自動車、同部分品及附屬品							
自動車、同部分品及附屬品							
縫衣機、同部分品及附屬品							
木	立方尺	三五五八七六	二四三〇九七	四四三六六	二二七六四	△	三六九七
枕	箇	二〇四四三	一六四〇二	一八三六三	二五九七	△	三三三四
仕組板(各種)							
製帽原料							
らんぶ、提燈及同部分品							
玩具、遊戯具及運動具							
木製							
品							

※ 昭和八年ニ於テ數量單位ヲ改正シタルタメ舊單位ヨリ換算シタルモノナリ

○淡水

由來本港ノ内地貿易ハ其ノ港灣機能ノ廢頽ト一方近接地基隆港勢ノ發展ニ押サレ港運比年衰微シ移出貿易ノ如キハ已ニ大正十二年以降皆無ニ歸セル處ナルガ移入ニアリテハ近年同地ノ一商賈ガ内地木材ノ取扱ヲ開始スルニ及ビ復活ヲ見ルニ至レリ
殊ニ前年來輸入福州材ガ銀高ト排日トニ禍セラレテ激減ノ悲境ニ陥ルヤ一層内地材ノ販賣ニ傾注シ商權ヲ擴大スル所アリタル爲移入額頓ニ膨脹ヲ告ゲ本年ノ如キモ木材ノ進出ニ職由シ前年見タル礦油類ノ入荷杜絶セルニモ不拘尙一割一分ヲ増加シ七九八三〇三圓ノ移入額ヲ算セリ
當港貿易ノ通商地及主要品左ノ如シ

通商地別貿易額

品名	移入		移出	
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
小樽	1,000	1,000	1,000	1,000
大樽	1,000	1,000	1,000	1,000

移入重要品	昭和八年		昭和七年		移入	
	移	出	移	出	移	出
神						
其ノ他ノ各地						
計						
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
	移	出	移	出	移	出
	△減	△減	△減	△減	△減	△減
	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三
	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三
	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三

移入重要品	昭和八年		昭和七年		移入	
	移	出	移	出	移	出
燈油及輕油						
其ノ他ノ礦油						
木						
計						
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
	移	出	移	出	移	出
	△減	△減	△減	△減	△減	△減
	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三
	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三
	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三

○安平

本港ノ移出ハ從來食鹽ヲ唯一ノ重要品トシ其ノ消長ニヨリテ大勢ヲ決シ來リタルトコロ本年ハ之ニ出増ヲ見タル上故金物就中故あるみにゆうむノ移出激増シタルニ因リ前年ニ比シ二八七、六八五圓四割五分ヲ増進シ九二、二、九一〇圓ト大正六年以來ノ最高記録ヲ印セリ

又移入貿易ニ於テハ履物類ト鐵トガ他港ト趣ヲ異ニシ前者ニ増加シ後者ニ減少セル外尙海産物ガ特ニ振ハザル等一部商品ニ於テ當港特異ノ現象ヲ見タルモ其他ハ一般歩調ニ倣ヒ不況ヲ招キシモノハ味ノ素類、菓子類、麥酒等小範圍ニ止マリ絲類、自轉車同部分品及附屬品、石鹼、木材、こんですとみるく、自動

車同部分品及附屬品、礦水諸食料、紙等ニ好調ヲ呈シタル爲前年ニ比シ五五六、九二二圓(五分)ノ増加ヲ告ゲ一二、五二、三七五圓ヲ算シ更ニ改隸後ノ新紀元ヲ劃セリ之ガ爲移出入計モ一三、四四六、六六七圓ト最高記録ヲ作り前年ニ對スル増加額ハ八四四、六〇七圓(七分)ナリトス

當港貿易ノ通商地及重要品左ノ如シ

通商地別貿易額

移	昭和八年		昭和七年		移	
	移	出	移	出	移	出
小樽						
函館						
東京						
横濱						
名古屋						
大阪						
神戸						
廣島						
下關						
門司						
長崎						
鹿児島						
朝鮮						
其ノ他ノ各地						
計						
	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
	移	出	移	出	移	出
	△減	△減	△減	△減	△減	△減
	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三
	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三
	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三	二九三三

内地貿易 港別貿易 安平

一八四

食	單位	昭和八年		昭和七年		増	△減
		數量	價額	數量	價額		
鹽	單位	四五六二〇	六三三〇一	※ 三六三八五元	五四二八八	六三〇七二	一〇九五三

移入重要品

豆類	單位	昭和八年		昭和七年		増	△減
		數量	價額	數量	價額		
小麥	石	三九三五四	四七三〇九	※ (三〇九)	四八七三	?	一四三
椎茸	斤	四一八〇	三九〇九八	一三四四元	三九〇九八	△	三九八九
砂糖	斤	三三三四	五七九六	五七九六	九〇〇七	△	三三四
菜子	斤	三三三四	八八一五	三六〇四三	六七七〇	△	三〇四四
醬油	立	三三三四	三〇八六	※	三九六九	△	六八八
味素	斤	三三三四	二五三三	四三三五	三三三三	△	三三〇九
鹹魚	斤	一〇五三六	二九五五	一五八五二	二七〇四	△	一五〇七
乾魚	斤	八〇〇三	二九四九	九八七五	一七〇四	△	二四二
錫	斤	六三三〇〇	一九四九	九八七五	一七〇四	△	二七六二
乾貝	斤	一〇七〇	六二五〇	六三七八〇	七九〇九	△	一四〇三
其ノ他ノ魚介類及水産物	普通打	一三三〇〇	一〇三九四	一七三三〇	一六四六	△	六四九
こんでんすどみるく	打	七九七	八二二三	一七三三〇	一〇二二	△	二八八九

各種ノ雜詰食物	單位	昭和八年		昭和七年		増	△減
		數量	價額	數量	價額		
礦水其ノ他ノ諸飲料	箱	一〇三三八	一〇九四〇	※	二〇〇九三	△	三九六二
石類	箱	三三八四	三六八四	※	一三六七八	△	九二二六
絲織物及絹物	箱	七九八三	九〇四七	※	五〇〇四	△	三〇七四九
綿織物及絹物	箱	三三三五	三三三五	一五二五	二四〇五〇	△	六四二
毛織物	箱	三三三五	三三三五	二五九四〇	二五九四〇	△	三九〇五
めりやす肌衣	箱	三三三五	三三三五	二五九四〇	二五九四〇	△	八六四
履物	箱	三三三五	三三三五	二五九四〇	二五九四〇	△	六二五〇
紙類	箱	三三三五	三三三五	二五九四〇	二五九四〇	△	三九四〇
陶磁器	箱	三三三五	三三三五	二五九四〇	二五九四〇	△	一八五七
鐵釘	箱	三三三五	三三三五	二五九四〇	二五九四〇	△	五九五九
鐵製品	箱	三三三五	三三三五	二五九四〇	二五九四〇	△	三三三三
自轉車、同部分品及附屬品	箱	三三三五	三三三五	二五九四〇	二五九四〇	△	七九六
自動車、同部分品及附屬品	箱	三三三五	三三三五	二五九四〇	二五九四〇	△	一〇〇五
木材	立方尺	七五七三	七五七三	七五七三	六五四六	△	八九八

※ 昭和八年ニ於テ數量單位ヲ改正シタルタメ舊單位ヨリ換算シタルモノナリ

○高雄

本港ノ移出貿易ハ其ノ内容甚ダ單調ニシテ今之ヲ本年ノ實績ニ就テ觀ルニ主要品十一種ヲ以テ移出總額ノ九九%以上ヲ占ムルノ状態ナリ而シテ其ノ中減少セルモノトシテハ砂糖ノ約三百萬圓減ヲ舉

内地貿易 港別貿易 高雄

一八五

グレバ木材が産地ノ出材事情ニ阻マレ當港トシテハ逆勢ヲ餘儀ナクセラレ鮮魚が數量増加セルニモ不拘魚種ノ關係ニ主配ナル本品亦當港ノミノ事象トシテ退嬰シタル外鳳梨罐詰モ不勢ニ終リタルガ之等ハ極メテ輕微ナル減退ニ止マリ自餘ノ七品ハ概ネ顯著ナル發展ヲ告ゲタリ即チ就中米ノ如キハ六百三十萬圓ヲ激増シ之ニ次イデ酒精切乾薯芭蕉實等般販ヲ極メ糖蜜モ數量減少セルニモ不拘市價ノ躍騰ニヨリ價額ヲ著増シ結局本貿易ハ前年ニ比シ七、一四六、六〇五圓(五分)ヲ増進シ一三八、八八〇、二七四圓ニ達セリ

次ニ移入貿易ハ銅ニ激減ヲ招キタルガ其他ニ於テハ前年ノ移入額特ニ多額ナリシ自轉車同部分品及附屬品ガ當港ノミノ現象トシテ反動的退嬰ヲ示セル外不勢ノモノトシテ味ノ素類、電柱、小麥粉及麥酒ヲ數ヘタルニ過ギズ而モソノ減退ノ程度何レモ輕微ニ止マリタリ斯クテ反面ニ於テ伸張ヲ遂ゲタルモノ多カリシガ特ニ硫安、調合肥料及ビ過燐酸ノ三大肥料ハ一躍三百萬圓ヲ増進シ之ニ亞イデ鐵ハ相場ノ暴騰ニ因リ數量ノ入減ニ反シ價額ヲ著増シ木材ハ特ニ本港ニ於テ入津活況ヲ呈シ家屋橋梁等ノ建設材料モ南部ノ需要寧ロ旺盛ニシテ當港獨特ノ増加ヲ告ゲ尙ガんに一囊鐵製品、せめん、機械用油等盛況ヲ呈シタルバ移入額三五、四一一、一〇四圓ト更ニ新記録ヲ印シ前年ニ比シ六、〇二三、九〇五圓(二割)ノ増加トナレリ爰ニ於テ移出入計モ最高記録トシテ一七四、二九一、三七八圓ヲ算シ前年ニ較ベテ一三、一七〇、五一〇圓(八分)ヲ増大シ出超額亦僅少ナガラ遞増シ一〇三、四六九、一七〇圓ニ上レリ當港貿易ノ通商地及重要品左ノ如シ

通商地別貿易額

Table with columns for '小樽', '昭和八年', '昭和七年', and '移入'/'移出'.

Main trade table with columns for locations (函館, 東京, 大阪, etc.), '移入', '移出', and '増減'.

移出重要品

Table for '移出重要品' with columns for '米', '乾', '切', '乾', '薯', '籾', '共', '斤', '袋', '昭和八年', '昭和七年', '増', '減'.

品名	單位	昭和八年		昭和七年		増減
		數量	金額	數量	金額	
木	立方尺	三七四四	五九五一	三九二九七	六八一七	△
鐵	噸	二七〇三〇九	一五〇四二	一〇六三三	一八二三五	△
酒	升	一〇八五七〇〇	四七五二七三	三〇六八六一	一五九八六〇	△
鳳梨	打	三二〇五三	四六五〇三	四七三七九三	七六八六	△
鮮魚	斤	二八七七六〇	四六五五四	四九一〇五	三三五	△
糖	斤	四四九七〇八	七〇〇六三	三六五八七	一三三三九	△
砂糖	斤	八六八〇八〇二	九〇七〇〇	一〇七〇五〇九	三三六七六六九	△
芭蕉	籠	一〇四九三	三七四三八	九〇一六七	三〇一三五	△
小麥	袋	二七三六七	九七二四八	三〇八四三	一〇三三二九	△
菓子	斤	五五三〇	九〇七	九七七九	一七〇九五	△
醬油	立	五三二九五	一五〇六	一八二九	一八二九	△
味噌	立	一四七七五	一四七七	一六二六〇	一三三三	△
鹹魚	斤	一〇八八四	一〇八八	八八四九	四九六四	△
乾魚	斤	三三三〇	九四九	八四八	五九七	△
乾鰻	斤	七六三	三三六	七六三	三三六	△

移入重要品

品名	單位	昭和八年		昭和七年		増減
		數量	金額	數量	金額	
貝柱	打	四〇四〇	三七五一	七六〇	五〇一七	△
其ノ他ノ魚介類水産物	普通打	三九七〇	一七四二	三〇三三	三〇三三	△
各種ノ罐詰食物	箱	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
麥酒	立	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
清酒	立	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
葡萄酒	立	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
紙捲煙	千箇	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
豆油	ガロン	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
燈油	ガロン	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
蠟燭	斤	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
石鹼	箱	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
鱗寸	箱	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
絲綢	箱	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
綿織物及絹織物	箱	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
がんに、囊(故共)	箇	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
履物	類	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
紙類	類	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
石灰	噸	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
磁器	噸	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△
鐵器	噸	三三六六	三五六六	三三六六	三五六六	△

品名	單位	昭和八年		昭和七年		増減
		數量	價額	數量	價額	
銅	疋	二四八六六	三三三三五	※ 二〇六二五	八四〇七一	△ 五二六六
釘	疋	二九七七五	七四八八〇	※ 一八三六六	三九七三四	△ 六二四六
家屋、橋梁、船舶、船渠等ノ建設材料			一三五六〇		九四一八一	△ 二二五二
鐵道車輛及同部分品			三三六四		六五五七	△ 四一八三
自動車、同部分品及附屬品			四九三三		六六六三	△ 一五五七
汽罐、同部分品及附屬品			二八一四		三三三三	△ 三六〇四
鐵道機關車、同炭水車及同部分品			九六六三		七四九三	△ 二一七〇
製糖用機械及同部分品			三九三六		四八五九	△ 九二三
木材	立方尺	二七二七七	二四一六六	三〇五三〇	一六八五〇	△ 四一三三
電柱	箇	八四六	五二〇	三八五	二六五七	△ 五三三
枕木	箇	四二五	三九六八	五三三三	三九八九	△ 一五〇
仕組板(各種)			三六四九		三〇四〇	△ 一〇五〇
木製肥料			二二四七		一〇六一	△ 七六
過磷酸肥料			一三三三		一〇八五九	△ 九四七
硫酸あむにも(粗製)			一三三三		一〇八五九	△ 九四七
硫酸あむにも(粗製)			四〇五二		二五三六六	△ 一五七六八
調合肥料			二四七九		一七〇四六	△ 一三九八〇
其ノ他ノ肥料			七九七五		一〇八五五	△ 一〇〇〇

※昭和八年ニ於テ數量單位ヲ改正シタルタメ舊單位ヨリ換算シタルモノナリ

○後龍

當港ハ日本石油會社產出ニ係ル揮發油ノ積出港トシテ已ニ過去二年之ガ移出額ヲ計上シタル外其ノ初年ニハ本船積込用解船ノ移入ヲモ見タルトコロ本年ニ於テハ揮發油減産ヲ告グ剩ヘ島内地元ニ於ケル消費増加シ對内地供給力ノ激減ヲ來シタル爲終ニ當港ノ利用ヲ見ルニ至ラズ貿易額皆無ニ歸セリ參考トシテ前年ノ移出ヲ左ニ掲グ

品名	單位	昭和八年		昭和七年		増減
		數量	價額	數量	價額	
揮發油	ガロン			七七五三	三〇八五	△ 七七五三

○馬公

由來本港ノ貿易ハ其ノ背後ノ生産及消費地域狹隘ナルガ故ニ發展性乏シキノミナラズ直接移出貿易ノ如キハ船腹利用困難ノタメ到底爲シ能ハザルトコロニシテ連年皆無ナルヲ示シ又移入貿易ニ於テモ同島内ノ需要ニ係ル内地産品ハ之ヲ擧ゲテ内地ニ直接需ムルニアラズシテ一部臺灣本土ニ對シ間接ニ之ガ供給ヲ仰ギツ、アルノ状態ナルヲ以テ進歩ノ状態ト謂ハンヨリモ寧ロ近年ノ如キハ衰微ノ傾向ニアルモノナルガ本年ハ麥酒、木材、生果等二三稍不勢ナリシモノヲ除キ燐寸ト燈油及輕油ガ仲繼輸出ノ好況ニ助長セラレ相當進境ヲ示シタル外鐵、小麥粉(相場高ニ因リ、紙、絹綿織物、鐵製品以下一般雜貨ノ入増ヲ見類勢ヲ幾分挽回セリ、即チ本年ノ移入額ハ前年ニ比シ七二・二八〇圓(一割四分)ヲ増進シ五

内地貿易 港別貿易 馬公
 七三九六一圓ヲ算シタリ
 當港貿易ノ通商地及主要品ヲ掲グレバ左ノ如シ
 通商地別貿易額

移入重要品	昭和八年		昭和七年		昭和八年		昭和七年	
	移入	移出	移入	移出	移入	移出	移入	移出
東 京	16,330	9,556	16,330	9,556	16,330	9,556	16,330	9,556
横 濱	2,250	9,200	2,250	9,200	2,250	9,200	2,250	9,200
名 古 屋	15,990	9,331	15,990	9,331	15,990	9,331	15,990	9,331
大 阪	3,400	3,300	3,400	3,300	3,400	3,300	3,400	3,300
神 戸	2,370	7,763	2,370	7,763	2,370	7,763	2,370	7,763
廣 島	3,387	3,400	3,387	3,400	3,387	3,400	3,387	3,400
下 關	6,401	8,200	6,401	8,200	6,401	8,200	6,401	8,200
門 司	8,690	5,300	8,690	5,300	8,690	5,300	8,690	5,300
長 崎	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100
朝 鮮	10,800	9,400	10,800	9,400	10,800	9,400	10,800	9,400
其ノ他ノ各地	7,300	5,000	7,300	5,000	7,300	5,000	7,300	5,000
計	108,000	73,000	108,000	73,000	108,000	73,000	108,000	73,000

移入重要品	昭和八年	昭和七年	増減
生 果	3,400	2,700	△ 700
醬 油	2,300	2,100	△ 200
各種ノ雜詰食物	1,000	1,500	△ 500
麥 酒	1,000	1,500	△ 500
燈 油	1,500	1,100	△ 400
石 鹼	7,600	7,700	△ 100
燐 寸	8,800	4,000	△ 4,800
綿織物及絹織物	3,400	3,300	△ 100
めりやす肌衣	2,300	1,000	△ 1,300
紙	9,900	6,900	△ 3,000
鐵 胚	3,600	4,700	△ 1,100
鐵 製 材 品	1,400	1,500	△ 100
木 材	1,500	1,100	△ 400

※ 昭和八年ニ於テ數量單位ヲ改正シタルタメ舊單位ヨリ換算シタルモノナリ

○ 布 袋

本港ハ單ニ其ノ附近ノ生産ニ係ル食鹽ノ移出港トシテ存スル所ニシテ本年ハ天候適順ナリシニ由リ其ノ生産豫想外ノ增收ヲ告ゲタルモ移出商勢思ハシカラザリシ折柄當局ニ於テ按配セラレタル爲本港移出ハ引續キ退嬰シ即チ前年ヨリ更ニ四二八〇七圓(一割二分)ヲ減ジ三〇三〇一〇圓ニ降レリ之ガ通商地及移出高左ノ如シ

内地貿易

港別貿易

布袋

移	昭和八年		昭和七年		増	△減	昭和八年		昭和七年		増	△減
	量	額	量	額			量	額	量	額		
小樽	13,870	2,870					13,870	2,870				
函館	2,800	7,500					2,800	7,500				
東京	8,025	3,433					8,025	3,433				
横濱	10,000	3,695					10,000	3,695				
神戶	13,766	3,695					13,766	3,695				
其ノ他ノ各地	10,100	3,877					10,100	3,877				
計												

移出重要品

食	單位	昭和八年		昭和七年		増	△減
		數量	價額	數量	價額		
鹽	疋	4,866,200	10,100	4,145,500	3,558,700	△ 720,700	△ 4,587

※昭和八年ニ於テ數量單位ヲ改正シタルタメ舊單位ヨリ換算シタルモノナリ

○北門

本港亦單ニ食鹽ノ移出ニ限レル處ナルガ本年ハ既述ノ如クソノ増産ヲ告ゲ再ビ過剩鹽増嵩ノ非勢ヲ呈スルニ至リタレバ極力處分ニ努メラレタル結果取引不味ナガラ本港積出ハ比較的順調ニ進捗シ移出額一三五、二三七圓トナリ前年ニ比シ三七三七三圓(三割八分)ノ増加ヲ示セリ即チ之ガ仕向先及移

出高左ノ如シ

通商地別貿易額

移	昭和八年		昭和七年		増	△減	昭和八年		昭和七年		増	△減
	量	額	量	額			量	額	量	額		
横濱	5,500	1,800					5,500	1,800				
朝鮮	7,000	5,800					7,000	5,800				
其ノ他ノ各地	5,500	2,200					5,500	2,200				
計	15,000	9,800					15,000	9,800				

移出重要品

食	單位	昭和八年		昭和七年		増	△減
		數量	價額	數量	價額		
鹽	疋	1,866,000	3,537	3,346,000	9,800	5,250	7,270

※昭和八年ニ於テ數量單位ヲ改正シタルタメ舊單位ヨリ換算シタルモノナリ

○蘇澳

元來當港ハ檜材ノ移出港タリシガ曩ニ宜蘭線ノ開通ヲ見ルニ及ビ同品ハ總テ鐵路基隆經由移出ニ轉ジ直接積出ハ全ク影ヲ潜メ其後ハ纔ニ漁港トシテ漁船往復ノ序便ニテ少量ノ鮮魚及漁業ニ要スル諸材料ノ出入ヲ見ルニ過ギザル状態ナリシガ本年ハ其レ等亦皆無ニ畢レリ

内地貿易

港別貿易

蘇澳

移出品

鮮魚介	單位 斤	昭和八年		昭和七年		増減 數量	△減額
		數量	金額	數量	金額		
		1	1	1	1	△	1
		340	1	340	1	△	1

備考 仕向地ハ下關ナリ

○大板埭

本港ハ東洋捕鯨會社ノ捕鯨根據地ナルガ内地輸送ノ便ナキヲ以テ鯨肉其ノ他所產品ノ出貨ハ陸路基隆又ハ高雄ヲ經由移出セラル、ヲ常例トシ貿易品トシテハ僅少ナル捕鯨用諸材料ガ捕鯨船廻航ノ序便ヲ以テ移入セラル、ニ過ギズ本年モ之等ノ移入ニ僅カ五一二圓ヲ計上セリ
即チ其ノ通商地ト主要移入品ハ左ノ如シ

通商地別貿易額

大板	移	昭和八年		昭和七年		増減 金額
		數量	金額	數量	金額	
計		1	1	1	1	△
關		1	1	1	1	△
阪		1	1	1	1	△

移入主要品

鐵錫鐵	單位	昭和八年		昭和七年		増減 數量	△減額
		數量	金額	數量	金額		
鐵	噸	2	2	2	2	△	
錫	噸	1	1	1	1	△	
鐵	噸	1	1	1	1	△	
製							
品							

※ 昭和八年ニ於テ數量單位ヲ改正シタルタメ舊單位ヨリ換算シタルモノナリ

○花蓮港

本港ノ内臺貿易ハ大正十年ノ開始ニ係リ移出ハ當初ヨリ木材ヲ主トシ中途即チ昭和四年砂糖移出場ノ設置ヲ見ルニ至リ新ニ砂糖酒精等ヲ加ヘ噸ニ移出額ヲ膨脹シ今日ニ及ベルモ移入ハ其ノ初年ニ於テ大量ナル製糖機械類ヲ計上セル以來急激ニ衰微シ踵イデ同十三年後ハ遂ニ影ヲ全ク潜メタルトコロ漸ク前年ニ迫ビテ復活シ本年ハ又築港用起重機等ノ入荷ヲ見六五〇〇〇圓ヲ算シタルガ之ヲ前年ニ比スレバ僅カニ減少セリ
然ルニ移出ガ出材事情等ニ因リ不振ナリシ木材ヲ除キ砂糖及酒精共減産ノ爲量的出減ヲ見タルニモ不拘相場ノ暴騰ニ助ケラレソノ價額増加シ膨脹ヲ告ゲタル結果移出入計ニ於テハ三二五九八〇圓七分ノ増加トナリ五〇二七六一五圓ト新記録ヲ示シタリ
當港貿易ノ通商地及移出重要品左ノ如シ

移	昭和八年		昭和七年		出	移	昭和八年		昭和七年		入
	量	額	量	額			量	額	量	額	
東	三〇三,三五四	三,五三三	△	三,四九六	△						
横濱	三七八,八〇〇	一,八八〇	△	三,七八五	△						
名古屋	一五五,三三六	一,八四八	△	三,〇四七	△						
大坂	七六,八五〇	二,九八〇	△	三,六八五	△						
神戸	三,七五〇	一五,〇〇〇		三,五〇〇							
下關	四九,二六五	四,六〇九		三,二九四							
其他各地											
計											

移出重要品

移入重要品	單位	昭和八年		昭和七年		増	移入重要品	單位	昭和八年		昭和七年		増
		數量	金額	數量	金額				數量	金額	數量	金額	
砂糖	斤	三,五二〇,〇〇〇	四,七〇一,一〇〇	五,二六五,〇〇〇	四,三三三,三〇〇	△	砂	斤	一〇,九三三,三〇〇	一,三三三,三三〇	一〇,六九九,九〇〇	八,三三三,三七〇	△
酒精	升	一四,〇〇〇	六,四〇五	一四,〇〇〇	四,九一九	△	糖	斤	一〇,九三三,三〇〇	一,三三三,三三〇	一〇,六九九,九〇〇	八,三三三,三七〇	△
木材	立方尺	九,七三五	一八,四九〇	一四,四三〇	三,三六四	△	鐵道車輛及同部分品						△
機械及同部分品			五,〇〇〇		七,〇九四	△							△

○臺東

本港モ昭和四年砂糖移出ノ設置以來應下生産品ノ直接移出ヲ見ルニ至リシモノナルガ本年ハ引續キ之ガ増産ヲ告ゲタル上特ニ糖價昂騰シタルタメ一三六三・八三五圓ヲ算シ前年ニ比シ更ニ四八〇・〇八圓五割四分ヲ増進セリ
其ノ通商地及移出高左ノ如シ

通商地別貿易額

移出重要品	單位	昭和八年		昭和七年		出	移	昭和八年		昭和七年		入
		數量	金額	數量	金額			數量	金額	數量	金額	
東京		一三,一三三	八,〇九〇	四,四四六	一,五三三							
大阪		八,三五〇	八,九八八	一,五三三	一,五三三							
計		二一,四八三	一六,〇七八	六,〇〇〇	三,〇六六							

○海口 (高雄州)

本港ハ臺灣製糖會社恒春製糖所々產品ヲ直接内地ニ積出ス目的ニテ昭和六年此處ニ移出場ヲ設置セ

内地貿易 港別貿易 臺東 海口(高雄州)

移出重要品	單位	昭和八年		昭和七年		増	移	昭和八年		昭和七年		入
		數量	金額	數量	金額			數量	金額	數量	金額	
砂	斤	一〇,九三三,三〇〇	一,三三三,三三〇	一〇,六九九,九〇〇	八,三三三,三七〇	△						

ラレ初メテ移出額ヲ計上スルニ至リシガ前年ハ天候其他船線ノ都合ニ依リ總テ高雄積出トナリ移出皆無ニ歸セリ然ルニ本年ハ積取季節ノ天候靜穩ニシテ且船線ヲ得タル爲一部直接積取ヲ見ルニ至リ一六一、二八六圓ノ移出額ヲ示スニ至レリ

當港本年ノ通商地竝ニ砂糖ノ移出高左ノ如シ

通商地別貿易額

神	計	移 出		移 入	
		昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
		二六三六	二六三六	二六三六	二六三六
		二六三六	二六三六	二六三六	二六三六
		二六三六	二六三六	二六三六	二六三六

移出重要品

砂	糖	單位	昭和八年		昭和七年		増	減
			數量	價額	數量	價額		
		斤	一三九一〇〇	二六三六				

四 金銀及通貨ノ移出入

本品ノ移出入ヲ前年ニ對照スレバ左ノ如シ

金	地	金	移 出		移 入	
			昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
			一四	一四	一四	一四

補助銀貨	銅貨、白銅貨及ニッケル貨	兌換券	臺灣銀行券	移 出		移 入	
				昭和八年	昭和七年	昭和八年	昭和七年
				一九〇〇〇	一九〇〇〇	一九〇〇〇	一九〇〇〇
				一六九五	一六九五	一六九五	一六九五
						三六〇〇〇	三六〇〇〇
						一一〇〇〇〇〇	一一〇〇〇〇〇
						一〇〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇
						三七一六	三七一六

本品ハ旅客ノ携帶ニ係リ或ハ小包郵便ニ依リ移出入セラレタルモノヲ含マズ即チ個人ノ旅銀タル通貨ハ勿論一般取引ニ係ル金銀地金ノ如キモ貨物トシテノ取扱ヲ受ケザル限り統計外ニ屬シ而モ大抵其ノ圈内ヲ出デザル實情ナリ、サレバ大正十四年以降ノ事象トシテ實際統計ニ表ハレタルモノハ昭和五年ノ金地金八萬八千餘圓ニ過ギザルナリ、本年ノ如キモ各種金製品ハ依然市場ニ放出セラレ其ノ大部分ガ内地ニ吸收セラレタルハ疑フベクモナク尙又斯ル需給ノ大勢中ニアリテモ島内需要ニ係ル金銀地金ガ總テ島内自給ニ俟チシトモ認メラレザルニ畢竟貨物トシテ統計セラル、モノ皆無ニ終レルナリ

次ニ補助貨幣ハ新舊貨幣ノ整理交換其他市場流通ノ繁閑ニ應ジテ移動スルモノナルガ本年ハ前年來市場ヨリ引上グラレタル舊貨相當増嵩シタル爲其ノ移出二一五、九七五圓ヲ算シタリ、斯クテ其ノ反面之ガ補充ヲ必要トセルニ當リ恰モ市況好轉シ流通高亦膨脹ヲ告ゲタルニ依リ之ガ移入ハ格段促サレ三九六、〇〇〇圓ニ上レリ

而シテ内地歸航者ニ對スル引替準備用タル兌換券ハ内地渡航前ニ於テ手當スルモノ比較的少ナカリシ爲移入減少シ一方内地ニ於テ回收移入セラル、臺灣銀行券ハ之ガ反映トモ見ルベク寧ろ増加ヲ示シタリ

五 船舶ノ入出港

本年ノ本島内地間往復船舶ハ前年ニ比シ隻數ハ出入共ニ著減シ噸數ニ於テハ出入ニ極メテ僅少ノ増減アリタリ即チ左ノ如シ

港別表

港	昭和八年		昭和七年		昭和八年		昭和七年	
	入	出	入	出	入	出	入	出
基隆	329,966	336,366	328,533	336,366	△	△	329,966	336,366
淡水	37,264	37,264	37,264	37,264	△	△	37,264	37,264
安平	3,322	3,322	3,322	3,322	△	△	3,322	3,322
高雄	76,322	76,322	76,322	76,322	△	△	76,322	76,322
後龍	86,755	86,755	86,755	86,755	△	△	86,755	86,755
馬公	4,476	4,476	4,476	4,476	△	△	4,476	4,476
布袋	40,755	40,755	40,755	40,755	△	△	40,755	40,755
北門	22,966	22,966	22,966	22,966	△	△	22,966	22,966
蘇澳	11	11	11	11	△	△	11	11
大板	52	52	52	52	△	△	52	52

種別表

種別	昭和八年		昭和七年		昭和八年		昭和七年	
	入	出	入	出	入	出	入	出
花蓮	27,264	28,476	27,264	28,476	△	△	27,264	28,476
臺東	15,966	15,966	15,966	15,966	△	△	15,966	15,966
海口	25,566	25,566	25,566	25,566	△	△	25,566	25,566
計	409,966	413,966	408,844	413,966	△	△	409,966	413,966

船舶出入ノ基調タル移出貿易ノ消長ニ就テハ已ニ概説セル所ナルモ今觀點ヲ更メ專ラ量の方面ヨリ之ヲ再檢討スルニ移出貨物ハ石炭ノ八萬五千噸増加ヲ筆頭トシテ芭蕉實切乾薯、米、鑛等ニ著増セル外木材、酒精、食鹽、鮮魚等ニ於テモ膨脹シタルガ砂糖ニ於テ一舉二十數萬噸ヲ失ヒタル上揮發油、腦油、鳳梨罐詰等ノ不勢モ加ハリテ其ノ總噸量(運送貨物ヲ合ハニ、〇六二、五八四噸トナリ前年ニ比シ六〇、二三七噸(三分)ヲ減少セリ次ニ入貨ニ於テ不振ヲ呈シタルモノハ米ノ約二萬噸減ヲ最モ甚シキモノトシ小麥粉

各種海産物、豚家屋橋梁等ノ建設材料、枕木、銅等ヲ數ヘタルモ他方せめんとニ約五萬噸ヲ激増シ以下肥料、小麥、鐵製帽原料、絹綿織物、めりやす肌衣、清酒、石鹼其他ノ諸雜貨ニ進境ヲ告ゲタル爲入貨噸量ハ前年ニ比シ九一、六四九噸(九分)ヲ増加シ、一三二、五三七噸ヲ算シタリ

抑モ本島ノ内地貿易ハ其ノ出入貨物ノ噸量ヨリ之ヲ觀ルモ極度ノ片貿易ナルガ故ニ一見船腹ノ需要ハ出貨量ノ支配スル所ナルガ如ク思考セラレザルニアラズト雖出貨ニハ季節的顯著ナル消長ヲ伴ヒ而モ積地及揚地ノ共通セザル關係等ヨリ同一船腹ニテ出貨ト入貨ヲ併セ處理スルノ困難ナル事情伏在セルヲ以テ必ズシモ出貨量ニ依リ船舶ノ出入狀況ヲトスルコト能ハズ假令入貨ハ出貨ニ比シ甚ダシク劣勢ナリト雖之ガ伸張ハ又單獨ニ船腹需要ノ好材料タリ得ルナリ、サレド最近ノ我が近海船腹ハ先年來ノ大不況時ヲ閱シテ著シク薄荷トナリ現狀ヨリ之ヲ節減セラル、餘地ハアルモ貨物ニシテ相當急激ナル膨脹ヲ見ザル限リ増配ノ必要ハ認メラレザル狀態ナルニヨリ敍上本年ノ如キ貨物ノ移動量ハ未ダ配船ヲ左右スルニ足ラズ畢竟出入船舶ノ消長ハ主トシテ一般海運事情ノ齎ラセル他動的結果ト見ルヲ妥當トスベシ

即チ昨年來ニ於ケル我が海運界ハ別項外國貿易船ノ項ニ於テ記述セル如ク比年ノ窮境ヲ漸ク脱シ船腹ハ寧ろ逼迫ノ狀態ニ轉ジタレバ處スルニ配船ノ合理化ヲ圖リ特ニ本島ニ對シテハ季節的大量貨物ノ出廻旺盛ナル實情ニ鑑ミ可及的大型船ヲ配シテ廻船數ヲ節スルノ方策ニ出デタルヲ以テ旁老朽船淘汰ノ進捗モ之ニ與リ噸數ニ於テハ殆ド前年ト徑庭ナキヲ得タルガ隻數ニ於テハ減少ヲ餘儀ナクセラレタルナリ

以上ハ大勢ヲ決スベキ汽船ニ就テノ觀察ナルガ更ニ本年ハ小型ナル發動機船ガ鮮魚ノ移入不振ニ因リ帆船亦基隆、八重山方面間ノ取引衰微ニ基キ共ニ出入閑散ナリシ爲隻數ノ減退ハ一層著シクナリ即

チ入港ニ於テ一六六隻(八分)ヲ減退セリ、出港ノ隻數ハ大體之ニ隨伴セルガ噸量ニ於テハ更ニ少シク前年ニ接近シ入港ニ九千五百餘噸ヲ減シ出港ニ九千四百餘噸ヲ増加セルニ過ギズ

尙之ヲ港別ニ觀テ特殊事情ヲ藏シ或ハ變調ヲ呈シタルモノニ就キ一言センニ淡水ニ於ケル隻數ノ激減ハ特ニ木材ノ輸送ニ對シテ大型船ヲ有利ニ運用シタル結果ニ外ナラズ、安平ノ噸數増加ハ食鹽積取船ノ増配ニ支ヘラレ隻數ニ殆ド減少ヲ免レタル關係上一般大型船配船ニ基ク當然ノ歸結ト觀ルベク、高雄港ハ小型發動機船ニ依ル鮮魚ノ移入反ツテ増加シ隻數ヲ比較的少減ニ止メ居ルモ汽船ノミニ就テハ前陳ノ事情ヲ窺フニ餘リアリ、布袋ハ貨物減少ニ反シ、臺東ハ貨物増加ニ反シタル結果ヲ各示セルモ備船其他運航採算等ニ職由セルモノナルベク其他ノ各港ニ於テハ何レモ順調ナル出入ヲ見タリ

六 移出重要品

〇米 (粳 共)

本品ノ移出ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕向地別表

昭和七年ノ數量ハ斤單位ヨリ換算シタルモノナリ

函	小	館	昭和八年		昭和七年		増	減	
			數量	價額	數量	價額			
			八四〇〇五	五三、八五	二六、八五	△	三、八七		
			一七〇	七、〇一八	九三〇	△	一、四一		
							△	三、七九七	
								△	三、三五

内地貿易

移出重要品

米

東 横 名 大 神 廣 下 門 三 長 鹿 沖 朝 其 京 濱 屋 阪 戸 島 關 司 池 崎 島 繩 鮮 他 計 古 各 地	昭和八年		昭和七年		増	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
東 京	四三六九四	三〇三八四九	三四八九九	二九八八三四	△	八二四三四
横 濱	四三三〇七	二八七六九	八六八八	五七六四四	△	二八九七三
名 古 屋	七七七五	五九二二三	九八六五	六六〇六八	△	一〇九四〇
大 阪	六三三〇四	四九四九七	六二七〇七	四六九七〇	△	一〇九四七
神 戸	一〇〇九七〇	七三三〇〇	一〇一八四一	九〇六三三	△	一五八七
廣 島	一〇一三四九	七三三〇〇	一四七八三	一四二四〇	△	一七三三六
下 關	三六八七	二八〇六五	四一七五	二九二九六	△	一八六四
門 司	六九三〇	四八五九八	一〇三九四	七二〇一〇	△	二二九四〇
三 池	一〇九	七〇〇	三〇〇〇	二二二八五	△	一三九七
長 崎	七六〇	五三三〇四	八二五	六三三四	△	七三三
鹿 島	三九五	二〇〇七〇	五〇三	三三三九	△	一四〇八
沖 繩	四二二五	三六八〇八	三三〇四	二五二五六	△	一一四七三
朝 鮮	九七五七	六三三六九	九三三	六九三三	△	一四七三
其 他 各 地	三六五九	二七四〇七	一六三六	一四三三	△	一五三三
計	九〇五七四	六〇六七〇〇	八七六四三	六〇〇四九	△	一五三三

種別表

種 別	昭和八年		昭和七年		増	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
粳 米	七二〇一七	五五〇	五三三	二六六	△	四四七
秈 米	一〇七五	五五〇	五三三	二六六	△	四四七
計	七二〇一七	五五〇	五三三	二六六	△	四四七

本年本島米ノ播收成績ハ一期米ニ於テ作付面積増加シタルモ早魃ニ累セラレ前年同期ヨリモ二八二、七二七石六%七〇ヲ減少シ三、九三八七三〇石トナリ次イデ二期米モ同様早害ヲ蒙リ作付面積ノ増大ニモ不拘收穫ハ前年同期ニ較ベ三〇四六六〇石六%四四ノ減少ヲ招キ四、四二二、一〇九石ニ止マリタルヲ以テ結局兩期ヲ通ジ前年ニ比シ五八七三七七石(在來梗米九一四、八八六石減、糯米一五五、八五六石減、蓬萊米四八三、三六五石増)即チ六%五六減ノハ三六一、八三九石(在來梗米三、九一四、七九五石、糯米一、〇二一、〇二二石)ニ降レリ

然ルニ本品ノ對外供給力ハ前年ニ於ケル未曾有ノ增收尻ヲ承ケ寧ロ増大シ而モ近年關東地方ノ嗜好ニ投ジタル蓬萊米ニ於テハ引續キ大增産ヲ告ゲタル爲外米輸入制限ニ依リ裾米拂底ノ折柄蓬萊米ニ對スル買氣頗ル旺盛ナリシ一方沖繩方面亦外米ノ代用品トシテ在來種ノ需要ヲ促進シタル爲上半年ニ於ケル移出ハ實ニ空前ノ活況ヲ呈シタルガ其後本年ノ内地産米未曾有ノ増産豫想トナリ前年ノ豊收ニヨリテ辛クモ需給逼迫ノ狀勢ヲ脱セントシタル米界ハ一轉シテ供給過剩ノ悲境ニ陥リタル爲旁一期米ノ早期出拂モ一因トナリ商勢頓ニ衰ヘタリ殊ニ年末ニ於テ米穀統制法ノ實施、關東畑糯凶作等ノ強材料ヲ入レ偶騰勢ニ向ヒタル米價ガ實米ノ重壓ト代用穀物ノ豐作トニ依リ俄然暴落ヲ演ジタル爲茲ニ産地賣惜ト内地筋ノ警戒トヲ誘致シ移出最盛期ノ商機ヲ甚シク逸セシメタルニ依リ竟ニ上半期ニ於テ出増シタルトコロヲ下半年ニ於テ大部分抹消シ結局前年ニ比シ數量三分、價額二分ノ増加ニ止マリタリ

基隆貨車上渡三等合格米月別平均相場(百斤建)左ノ如シ

種別	年別		月別											
	八	七	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
在來米	八	七	四八七	四八七	四八七	四八七	四八七	四八七	四八七	四八七	四八七	四八七	四八七	四八七
蓬萊米	八	七	五九四	五九四	五九四	五九四	五九四	五九四	五九四	五九四	五九四	五九四	五九四	五九四
丸籾米	八	七	七九三	七九三	七九三	七九三	七九三	七九三	七九三	七九三	七九三	七九三	七九三	七九三
計	八	七	一八七四	一八七四	一八七四	一八七四	一八七四	一八七四	一八七四	一八七四	一八七四	一八七四	一八七四	一八七四

○切乾薯

本品ノ移出ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ
仕向地別表

仕向地	昭和八年		昭和七年		増減
	數量	金額	數量	金額	
小樽	九〇〇〇〇	二九、四〇〇	九〇〇〇〇	二九、四〇〇	〇
函館	五〇〇〇〇	一八、五〇〇	五〇〇〇〇	一八、五〇〇	〇
東京	一、三〇〇〇〇	三七、五〇〇	一、三〇〇〇〇	三七、五〇〇	〇
横濱	一〇、八〇〇〇	三六、五〇〇	一〇、八〇〇〇	三六、五〇〇	〇
名古屋	五〇〇〇〇	一六、五〇〇	五〇〇〇〇	一六、五〇〇	〇
大阪	四、五〇〇〇	一五、七〇〇	四、五〇〇〇	一五、七〇〇	〇
神戸	三、五〇〇〇	一〇、八〇〇	三、五〇〇〇	一〇、八〇〇	〇
計	三、五〇〇〇〇	一〇、八〇〇	三、五〇〇〇〇	一〇、八〇〇	〇

仕向地	昭和八年		昭和七年		増減
	數量	金額	數量	金額	
廣島	一、五〇〇〇	四、五〇〇	一、五〇〇〇	四、五〇〇	〇
門司	四、五〇〇〇	一三、〇〇〇	四、五〇〇〇	一三、〇〇〇	〇
長崎	一、五〇〇〇	四、五〇〇	一、五〇〇〇	四、五〇〇	〇
鹿兒島	一、七〇〇〇	五、〇〇〇	一、七〇〇〇	五、〇〇〇	〇
沖繩	一〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	〇
朝鮮	五、〇〇〇	一五、〇〇〇	五、〇〇〇	一五、〇〇〇	〇
其ノ他ノ各地	三、〇〇〇	九、〇〇〇	三、〇〇〇	九、〇〇〇	〇
計	三、〇〇〇〇	九、〇〇〇	三、〇〇〇〇	九、〇〇〇	〇

本年ニ於ケル切乾薯ノ生産ハ一般酒精原料ノ高値ニ刺戟セラレ原料ノ栽培ヲ著シク促シ相當増加スベク豫想セラレタルトコロ測ラズモ早魃ニ禍セラレ原料不足トナリテ竟ニ豫期ノ生産ヲ見ルニ至ラザリシナリ

然レドモ本島糖蜜ノ供給激減セルニ當リ更ニ高粱、粟、包米等ノ對抗品相場奔騰シタル爲買氣本品ニ集中シ前年ノ不作相場ニ劣ラザル好値ヲ唱ヘタルヲ以テ製品ハ舉ゲテ之ヲ移出ニ引當テタル結果恰モ極度ノ不況ヲ呈シタル前年ニ比スレバ數價共ニ十三倍餘ノ激増トナレリ

本品ノ高雄倉渡相場左ノ如シ(裸百斤建)

年	最高	最低
昭和八年	三八五(八月)	二五三(三月)
昭和七年	四三〇(三月)	一五二(一月)

○芭蕉實

本品ノ移出ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

内地貿易

移出重要品

芭蕉實

仕向地別表

昭和七年ノ數量ハ斤單位ヨリ換算シタルモノナリ

仕向地	昭和八年		昭和七年		増減
	數量	金額	數量	金額	
函館	5,559	18,920	5,536	17,869	△
東京	10,444	56,557	9,991	54,912	△
横濱	4,434	23,966	4,207	22,087	△
大阪	4,333	22,966	4,076	21,074	△
神戸	7,750	34,145	7,835	35,375	△
下關	1	1	1	1	△
門司	3,355	16,826	3,355	16,826	△
長崎	1	3	1	3	△
沖繩	1	3	1	3	△
朝鮮	14,216	70,008	14,533	71,433	△
計	58,872	279,888	56,308	274,753	△

前年ノ苜蓿實ハ降霜ト冷氣ノ被害ヲ蒙リ品質不良、出廻遅延等ニ依リ商機ヲ逸シ移出極メテ不振ニ了リタルガ本年ハ栽培面積ノ著シキ擴大ニ主因シ稀有ノ増産ヲ告ゲ加フルニ内地ハ市況好轉シ需要概ネ好調裡ニ推移シタル爲取引ヲ圓滑ニ進メ旁滿洲ヘノ賣行良好ニシテ便船關係ニ依リ關門ヲ經由シテ輸送セラル、モノ夥シク増加セルト相俟チ本年ノ移出量ハ前年ニ比シ二割五分ヲ増進シ當ニ最高記録ヲ印シタリ、然ルニ價額ハ何分増産ノ弱材料アリテ相場前年ニ及バザリシ爲一割三分ノ増加ニ止マリタリ

〇紅茶

本品ノ移出ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕向地別表

仕向地	昭和八年		昭和七年		増減
	數量	金額	數量	金額	
小樽	3,573	6,344	3,701	7,101	△
函館	1,518	2,799	1,233	2,233	△
東京	11,073	25,133	7,706	19,579	△
横濱	8,377	23,311	9,636	33,859	△
大阪	3,855	22,455	7,377	9,033	△
名屋	2,722	12,456	3,506	36,746	△
大坂	2,722	12,456	3,506	36,746	△
神戸	2,039	10,873	9,886	100,655	△
下關	399	1,177	767	1,930	△
門司	2,344	10,946	4,436	6,409	△
沖繩	76	155	76	155	△
朝鮮	3,855	5,557	2,600	3,690	△
其ノ他ノ各地	4,089	26,440	1,133	2,110	△
計	56,688	233,437	33,044	225,191	△

本品ハ輸入紅茶ニ對スル費澤稅實施ニ刺戟セラレ爾來銳意品質ノ改善ニ努メラレタル結果最近内地市場ニ於テハ外國標準茶ト拮抗シ敢テ遜色ナキ程度ノ向上ヲ遂ゲタリ

斯クテ之ガ移出モ漸ク發展ノ機運ニ至リシ折柄本年ハ恰モ紅茶主産國間ニ於テ輸出制限ヲ斷行シタル爲本品ハ之ガ餘響ヲ蒙リ管内消費トシテノミニ止マラズ更ニ輸出茶ノ混合用トシテ大イニ歡迎セラル、ニ至リ入註繁忙ヲ呈シ前年ニ比較シ數量ニ於テ十四割ノ激増ヲ來セリ然シテ價額ハ標準茶以下ノ格安品ノ引合比較的旺盛ナリシニ主因シ十一割ノ増加ニ止マリタリ

○砂糖

本品ノ移出ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ
仕向地別表

仕向地	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
小樽	三三、七五〇	二、八八八	二六、三三〇	二、三九九	△七、四二〇	五、四九〇
函館	一〇、一九九	一、三九八	七、九五〇	七、九六〇	△二、九四九	五、〇一〇
東京	三九、四九九	四、一六四	四九、七二〇	四、二六四	△一〇、二二一	△二、四三二
横濱	三〇、五五〇	三、七〇二	三六、四五五	三、三九九	△六、〇九五	三、八八九
名古屋	八、七九四	一、一四九	一〇、七九四	九、五四九	△一、〇〇〇	一、六四二
大阪	一六、五六四	三、七五七	三〇、一五〇	三、四四六	△一四、五八四	三、三〇五
神戸	四、五〇〇	五、三〇七	三、九八四	三、七三九	△五、三一六	△一、五六三
廣島	一、三九九	一、四〇四	一、五七五	一、五〇一	△一、八一九	三、五四五
下關	三、三九九	二、七九〇	三、九〇〇	三、三二七	△一、三九〇	五、八二八
門司	五、〇七〇	六、六二七	七、二二八	六、三三〇	△一、〇四八	三、六四八
三池	三、七五〇	三、七九三	三、五二〇	三、四四六	△二、三〇〇	八、七〇〇

種別	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
長崎	八、九二〇	一、〇六一	一〇、〇五七	八、九二二	△一、一三七	二、四七五
鹿兒島	一〇、八九九	一、三九八	一一、七五五	一、四七四	△八、五五〇	三、一四六
沖繩	四、九〇〇	七、九五	七、〇〇〇	一〇、一〇〇	△二、一〇〇	三、三三七
朝鮮	一九、三〇四	二、二七〇	六、三三三	六、〇五八	△一三、九七一	三、八四九
其他各地	九、一六〇	二、一七四	一三、七〇〇	一〇、〇七六	△四、五三四	二、九九五
計	九八、〇六八	二、八四四	一三、七四七	二、二七八	△八四、三二一	三、〇四四

種別	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
含蜜糖	四、三九七	三、七〇一	—	—	四、三九七	三、七〇一
分蜜糖	二、一六〇	二、二七五	—	—	二、一六〇	二、二七五
計	六、五五七	六、〇七六	—	—	六、五五七	六、〇七六
一	一、四八三	一、四〇五	一、五九五	一、二九七	△九、三三〇	二、一〇八
二	四、九七九	三、二九〇	三、一六四	五、七九〇	△一、八一五	六、九八七
三	一、八四四	三、四〇四	四、七〇六	四、二七九	△二、八六二	一、七三三
四	一、四三六	一、八九五	一、五二七	一、四五四	△七、七四五	四、三九七
五	一、一〇〇	三、〇〇〇	一、九	—	△一、〇九一	二、八七
計	九八、〇六八	二、八四四	一、三九七	三、二八六	△九六、六七一	三、〇四四

本島産糖ハ比年殆ド増加ノ一途ヲ辿リ遂ニ前年期ハ躍進シテ一千六百五十萬擔ト實ニ斯業創始以來ノ新記録ヲ印シタルガ他方消費之ニ副ハズ兩三年來過剩糖累積シタルヲ以テ之ガ對策トシテノ各社ノ徹底的限産計畫ハ漸ク本年期ノ産糖ニ反映シ前年期ニ比シ一舉六百萬擔(三割六分)ノ激減トナレリ從ツテ本年ノ移出糖ハ當然之ニ隨伴シテ著減スベキ實情ナリシトコロ最近砂糖ノ國內消費増進セル

ニ加ヘ茲ニ本期ノ減産ヲ見更ニ來期ノ減産見越ト共ニ近ク需給ハ調整セラル、見込ミ立ツニ至リシヲ以テ有利ナラザル輸出ヲ控ヘラレタルト本期ノ減産ハ製糖期間ノ短縮トナリ越年後ノ産糖高比較的多量ナリシトニ依リ前年ノ移出ニ比スレバ四百十四萬擔即チ三割ノ減少ニ止マリ更ニ價額ニ於テハ海外糖況ノ見直ニ因ル糖價ノ昂騰ニ因由シ減退率僅ニ三分ヲ示シタリ

高雄港倉渡移出分蜜第二種糖保稅標準相場月別平均前年對照左ノ如シ(百斤建)

昭 和 七 年	昭 和 八 年	一 月	二 月	三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月
八五五	三三〇	八四〇	三三〇	八四〇	三三五	八三五	三六〇	二〇五	二〇五	三九五	二二〇	二二五	三三〇
八五五	三三〇	八四〇	三三〇	八四〇	三三五	八三五	三六〇	二〇五	二〇五	三九五	二二〇	二二五	三三〇

○糖蜜

本品ノ移出ハ前年ニ比シ數量ニ減退シ價額ニ増加セリ即チ左ノ如シ
仕向地別表

名 稱	仕 向 地	昭 和 八 年		昭 和 七 年		増 減
		數 量	價 額	數 量	價 額	
小樽	東	一六七〇九	一七七四	一七六四九	一三六四	△
東京	東	一七六七五	二〇六六	一七六四九	一三六四	△
横濱	東	一七六七五	二〇六六	一七六四九	一三六四	△
古	東	四〇一〇〇	七三三三	三〇一〇〇	六五	△
計		五〇一五〇	八五七五	四〇一〇〇	六五	△

名 稱	仕 向 地	昭 和 八 年		昭 和 七 年		増 減
		數 量	價 額	數 量	價 額	
大阪	廣	一三三三	一〇一〇九	一三三三	九七六六	△
關島	廣	一三三三	一〇一〇九	一三三三	九七六六	△
下關	廣	一三三三	一〇一〇九	一三三三	九七六六	△
門司	廣	一三三三	一〇一〇九	一三三三	九七六六	△
朝鮮	朝	一〇五九〇	一七一	一〇五九〇	一七一	△
其ノ他ノ各地	其	七三六三	八七五	七三六三	八七五	△
計		五〇一五〇	八五七五	四〇一〇〇	六五	△

本年ハ砂糖ノ大減産ニ伴ヒ糖蜜ノ生産亦激減ヲ招クコト、ナリ年初來其ノ相場續騰ヲ告ゲタル爲内地ニ於テハ一般消費ヲ抑制シタル一方新ニ比律賓方面ヨリ不可飲糖蜜ノ補充等行ハレタルニ依リ本島糖蜜ノ引合ハ僅ニ合成酒原料トシテ關東方面ニ對シ多少進境ヲ示シタル外各地一齊不振ニ畢レ

然ルニ朝鮮ニ於テハ近年糖蜜ヲ原料トスル酒造ノ有利ナルニ鑑ミ一般酒造ノ設備替行ハレタル折柄トテ一朝ニシテ之ガ使用ヲ縮減スルコト能ハザル事情アリ加フルニ昨年ニ至リ恢復ヲ兆シタル焼酎ノ需要亦本年ニ入りテ益好調ヲ辿リタレバ本品相場高ニモ不拘取引ヲ進メタルヲ以テ結局内地ノ不勢ト相殺シ數量ヲ極メテ僅少ノ減退ニ止メタルト共ニ價額ハ相場ノ暴騰ニ職由シ八割九分テフ激増ヲ來セリ

○鮮魚介

本品ノ移出ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕向地別表

仕向地	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
東京	一七六四〇	二八四六五	二〇五七九	三八〇六四	△	九六〇六九
横濱	一七六四〇	二八四六五	二〇五七九	三八〇六四	△	九六〇六九
大阪	一七六四〇	二八四六五	二〇五七九	三八〇六四	△	九六〇六九
神戸	一七六四〇	二八四六五	二〇五七九	三八〇六四	△	九六〇六九
下関	一七六四〇	二八四六五	二〇五七九	三八〇六四	△	九六〇六九
門司	一七六四〇	二八四六五	二〇五七九	三八〇六四	△	九六〇六九
其ノ他ノ各地	一七六四〇	二八四六五	二〇五七九	三八〇六四	△	九六〇六九
計	九〇八七一	二〇五五三	七四六三三	一四九三七	一六三三九	五二二六

本品ハ北部ノ旗魚及南部ノ鮪ヲ主トセルガ久シク沈滞ヲ持續シタル移出商況モ漸ク前年ヲ底トシテ氣配好轉シ殊ニ本年下半年ニ入り三陸方面ニ於ケル海嘯ノ被害ニ依リ同地方ノ出漁船減少シ魚價益騰勢ヲ迪ルニ至レリ

斯クテ本島漁業界モ之ヲ反映頓ニ不況ノ域ヲ脱シテ漁撈積極化シ特ニ漁場ヲ南洋ニ擴張シテ漁獲ヲ促進シ茲ニ需給ノ圓滑ナル進展ヲ見ルニ至リ前年ノ移出ニ比シ數量二割三分價額三割四分ノ著増ヲ示セリ

尙本年ハ魚價ノ變動ニ對シ内地中心市場阪神トノ取引有利ナリシ一方南洋漁業ノ進展ニ伴ヒ魚獲品ノ種類ニ變化ヲ來シ之ニ嗜好關係モ加ハリ特ニ關西地方ニ對スル移出般販ヲ呈シ反面關東方面ヘノ移出不振ヲ誘致セリ

基隆及高雄兩市場ニ於ケル糶値(百斤建)左ノ如シ

年	旗魚		鮪	
	最高	最低	最高	最低
昭和八年	三六〇	二二三	一九九	二九四
昭和七年	三六〇	二二三	一九九	二九四

○鯉節

本品ノ移出ハ前年ニ比シ數量減少シ價額増加セリ即チ左ノ如シ

仕向地別表

仕向地	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
東京	一六八	五〇	九四九	五三五	△	九四九
横濱	一六八	五〇	九四九	五三五	△	九四九
大阪	一六八	五〇	九四九	五三五	△	九四九
神戸	一六八	五〇	九四九	五三五	△	九四九
下関	一六八	五〇	九四九	五三五	△	九四九
門司	一六八	五〇	九四九	五三五	△	九四九
其ノ他ノ各地	一六八	五〇	九四九	五三五	△	九四九
計	六五	七五〇	九四九	五三五	△	七五〇

沖繩 其ノ他ノ各地 計	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
沖繩	一八	一八	六二	五〇	△	△
其ノ他ノ各地	一八	一八	五五	三〇	△	△
計	三六	三六	一一七	八〇	△	△

本品ハ財界ノ不況ニ基ク消費節減ト南洋産節進出ノ壓迫トニ依リ近年相場續落ヲ告ゲ殊ニ前年ニ於テハ奔落底止スルナキ状態ナリシ爲本島ニ於ケル之ガ製造ハ極度ニ抑制セラレ竟ニ斯業獎勵以來ノ記録的減産ヲ招致セリ

然ルニ本年ハ之ガ反動ト他面財界モ曙光ヲ兆シタルトニ依リ相場恢復シ自ラ本品ノ製造ヲ促シタルガ其ノ移出ハ一般先高氣配濃厚ナリシ爲賣惜商狀ヲ呈シ一部手持トナリテ生産ニ伴ハザリシヲ以テ之ヲ前年ニ比較スレバ前年ノ移出ハ偶之ト相反シ八重山節ノ仲繼取引ト持越品ノ處分トニ依リ生産以上ニ上リタル關係モアリ結局數量ニ於テハ反ツテ僅少ノ減退トナリ價額ノミ相場高ニ基因シ五割二分ヲ激進セリ

基隆ノ取引標準相場左ノ如シ

本節(十貫建)並品	昭和八年		昭和七年	
	最高	最低	最高	最低
本節(十貫建)並品	七五	五〇	四〇	三〇
龜節(同)並品	五五	四〇	三〇	二七
惣田節(百斤建)並品	四〇	三〇	二〇	二〇

○食 鹽

本品ノ移出ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕向地別表

昭和七年ノ數量ハ斤單位ヨリ換算シタルモノナリ

小樽 函館 東京 横濱 大阪 神戸 沖繩 朝鮮 其ノ他ノ各地 計	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
小樽	四四七〇八	二九七五七	一	一	四四七〇八	二九七五七
函館	七八八二五	二二七六四	五八〇〇〇	一三三〇四	△	△
東京	三三三〇六	四四三九	一四八五三	一五八六	△	△
横濱	一七五七六	一三三二四	一〇二五六	六四七	△	△
大阪	三〇〇〇〇	一九五〇	三八〇〇〇	八〇〇七	△	△
神戸	一五〇〇〇	一〇〇〇〇	一	一	一五〇〇〇	一〇〇〇〇
沖繩	一五三〇	一〇一四	三二四〇	八八	△	△
朝鮮	九〇一〇五	四〇六三	一七四四七	一四九七	△	△
其ノ他ノ各地	三三九三二	二〇三二	四六八五	三五五九	△	△
計	一〇三六五三	一〇三九七	九八四六四	九六六七	△	△

本年ニ於ケル本島鹽ノ生産ハ好天候ニ惠マレ顯著ナル増産ヲ告グ島内ハ再ビ過剩鹽累積ノ状態ヲ現出シタリ、茲ニ於テ當局ハ極力之ガ處分ニ努メタルモ過去二年多量ノ引合ヲ見タル工業用鹽ハ全ク絶望ニ歸シ朝鮮トノ取引亦不如意ニ畢レリ

然ルニ偶内地專賣局ニ對スル本年度引渡協定量ガ幾分増額セラレタル上特ニ下半年期ニ於ケル船線頗

ル順調ニシテ出荷ヲ豫定以上ニ進捗シタル結果本年之ガ移出ハ辛ジテ減退ヲ免レタリ、即チ前年ニ比シ數量ニ四分ヲ増加シ價額ハ工業用鹽等ノ割合品激減シタルニ因リ一割一分ヲ増進セリ

○鳳梨罐詰

本品ノ移出ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

仕向地別表

仕向地	昭和八年		昭和七年		増減
	數量	價額	數量	價額	
小樽	七三六八	一五三三五	八六九九	一六七四八	△
函館	一五六三	三三〇九	三三三三	七〇三九六	△
東京	八九五七	一八九九三	一一三九五	二六三三三	△
横濱	四〇三三	八〇五二	六八八七	二二九三三	△
名古屋	一五三二	三二八八	一四七三	三〇〇六	△
大阪	八五七八	一六八七九	七三三〇	一七六四七	△
神戸	六三九	一二七五	五二五	一〇三三七	△
廣島	二六六	四八九	一九九四	八七五	△
下關	九六八	一九八〇	七四四七	一九六五	△
門司	五八四九	一〇三六九	八九七三	一七二五	△
長崎	六〇三	一一五〇	五二〇	一〇四二	△
鹿島	四六三	九〇九	一六七	三三三	△
沖繩	八〇三	一七六	一五五	二七四	△
鹿兒	八〇八	一七六	九五二	一八三〇七	△
朝鮮	三〇〇六	五八八〇	二四六	四四九七	△
其他各地	三五四〇八	四九二二七	三九八〇七	五五二七三	△
計					

本年ニ於ケル本品ノ生産ハ原料生果ガ早魁ノ影響ヲ蒙リ成熟甚ダ遅延シタルト同時ニ高値ヲ唱ヘタルヲ以テ上半期ニ於テハ減産ニ歸シタルガ下半年ニ於テハ元來作付著シク増大シタル關係上出廻激増シ且相場モ崩落ヲ告ゲタル爲製造ヲ促シ全ク未曾有ノ増産ヲ擧ゲ結局検査總數前年ノ九十萬箱ヨリ百五萬餘箱ニ上レリ

之ガ爲島内ハ一時在庫五十萬箱ニ垂ントシ實ニ空前ノ事態ヲ現出シタレバ暫時業者等ハ銳意之ガ消化ニ奔走セルモ一方實需無視ノ供給ハ又市價ノ壓迫トナリ考慮ヲ要スルモノアリシヲ以テ旁冬物ノ減産ヲ見越シテ晩秋後ノ販賣方針ヲ一變シ極度ニ手控ヘタル結果年末約三十萬箱ノ在庫トナリ移出ハ數量ニ於テ九分ノ減退ヲ招クニ至リタルガ其ノ價額ハ右ノ如キ出荷ノ調節ト一般經濟狀態ノ良化トニ因リ好値ヲ維持シタル爲七分ノ減少ニ止マリタリ

高雄渡標準品月別平均相場左ノ如シ

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
昭和八年	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	六八〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇	五九〇
昭和七年	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三	六三三

○揮發油

本品ノ移出ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

仕向地別表

仕向地	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
横濱	10	50	10	50	△	△
下關	10	50	10	50	△	△
沖繩	100	500	100	500	△	△
其ノ他ノ各地	100	500	100	500	△	△
計	220	1,100	220	1,100	△	△

本品ノ移出ハ元來島内生產品ノ過剩處分トモ見ルベキモノナルヲ以テ之ガ地元消費ノ増加ト他方其ノ生産ノ減少トハ相俟ツテ移出ヲ控制スルノ結果ヲ招來スベキモノニシテ本年ハ特ニ其ノ傾向ノ顯著トナルモノアリシニ因リ到底前年ト比スベキモノナキ激減ヲ示シタリ

○樟腦

本品ノ移出ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ
仕向地別表

仕向地	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
大阪	1,010	12,480	1,010	12,480	△	△
神戸	1,010	12,480	1,010	12,480	△	△
朝鮮	1,010	12,480	1,010	12,480	△	△
計	3,030	37,440	3,030	37,440	△	△

種別表

種別	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
粗製	1,010	12,480	1,010	12,480	△	△
精製	1,010	12,480	1,010	12,480	△	△
計	2,020	24,960	2,020	24,960	△	△

粗製樟腦ハ專賣品ニ屬シ其ノ移出品ハ内地專賣局へ融通セラル、モノニシテ精製樟腦ハ日本樟腦會社ノ生産ニ係リ移出後其ノ大部分ハ更ニ海外ニ販賣セラル、モノナリ而シテ粗製ハ前年來山元ノ生産事情竝ニ工場操作ノ都合等ニヨリ總テ樟腦油ヲ以テ代用セラル、ニ至リ表示ノ如ク移出皆無ニ歸セルガ精製樟腦ハ爲替有利ニ惠マレ特ニ海外引合好調ニ向ヒタルヲ以テ生産ヲ促スト同時ニ移出亦前年ニ比シ數量二割價額二割二分ノ各増加ヲ告ゲタリ

○樟腦油

本品ノ移出ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ
仕向地別表

仕向地	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
大阪	3,935	33,010	3,935	33,010	△	△
神戸	3,935	33,010	3,935	33,010	△	△
計	7,870	66,020	7,870	66,020	△	△

種別表

種別	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
腦油	二七三三九	八〇五九三	三二四八八	一三三四〇	△ 九五三九	△ 四六七八
白油	四三三七九	二二八八九	八三三三六	一七〇九二	△ 三九五七	△ 四九〇九三
芳油	四八二四六	二六二四六	八五五九三	一五五九四	△ 四三三四	△ 四九七四
赤油	四六六七三	一〇七二〇	一〇三三八九	三三三九五	△ 五六〇六	△ 一六九五
芳油	四七三〇〇	三八一五七	三六二三三	二五九五五	△ 一一一七	△ 一三六九
藍色油	八八四四	二二三五	三八九九	一〇〇三	△ 四〇五三	△ 二五九四
計	四〇三九四三	一五四七三	六〇三三四七	二〇六三三四	△ 二二六四四	△ 五七五〇三

本品中最モ多量ヲ占ムルモノハ樟腦ノ再製原料タル腦油ニシテ其他ハ香料又ハ防臭劑驅蟲劑等ノ原料タル副産油ニ屬シ共ニ最近需要極メテ旺盛トナリ生産之ニ伴ハザルニ至レリ

斯ノ如キ状態ニシテ本年度ニ於ケル樟腦ノ内地專賣局ヘノ融通數量モ前年度ニ比シ約四割ノ減額ヲ餘儀ナクセラレタルト共ニ其ノ原料タル腦油亦出減ヲ招キタリ

而シテ一方副産油ニ於テモ需給不調ノ爲年初來再次ニ互リテ二三ノ値上ヲ見タル状態ニシテ獨リ芳油ガ比較的生产豊富且最近國內ニ於ケル之ガ處理技術進歩シタルヲ以テ寧ロ製品トシテ輸出スルノ得策ナルニ鑑ミ原料自體ノ輸出ヲ控ヘタルト相俟テ對内供給力ノ増大トナリ進境ヲ示シタル外ハ孰レモ在庫逼迫シ旁前年賣過ノ反動ヲ以テ衰頹顯著ナルヲ示シ結局總體ニ於テ數量ハ三割六分ノ激減ヲ招致シタルガ價額ハ値上ト高級品芳油ノ出増トニ職由シ二割五分ノ減少ニ止マレリ

○酒 精

本品ノ移出ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕向地別表

仕向地	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
小樽	四七二〇	一七四二	二七三四	五三九六	△ 一〇四〇	△ 三四五
函館	一五〇〇	六四四	六〇〇〇	一一四〇	△ 一〇〇〇	△ 五二六
東京	四七〇〇	一九九〇	三三六四	九五一五	△ 九六三二	△ 一〇七三四
東横濱	—	—	四〇〇〇	一一〇〇	△ 四〇〇〇	△ 一一〇〇
名古屋	七六二〇〇	三八九八	八八七〇〇	三三三〇六	△ 一一五〇〇	△ 六九七二
大阪	六三三九九	二六九八七	四五六五五	一三三〇一	△ 一七六九六	△ 一四三三
神戸	二二六七三	九二五	一三七五五	三四五五	△ 一〇五二三	△ 二四四三
廣島	八〇〇〇	三二五	—	—	△ 八〇〇〇	△ 三二五
門司	四二五〇〇	一五二五	四四一〇	一〇二八	△ 一六〇〇	△ 四三三
三池	四一〇〇〇	一六三六	四〇〇〇	二六〇	△ 一八〇〇	△ 一三三〇
長崎	九七〇〇〇	四〇三〇	一〇〇〇〇	三三〇	△ 七〇〇〇	△ 三六〇
朝鮮	四一〇二〇	一五二五	四〇〇〇〇	九六三	△ 一〇七〇	△ 三六八
其他各地	一六〇〇	七〇四	一四〇〇	二八二	△ 一〇〇	△ 四二三
計	三九八六六	五四三三	二二四九六	二九五四	△ 一六八七	△ 二四九三

種別表

普通酒精 變性酒精 計	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
普通酒精	九七九七六	四三九六二	八六七〇三	二四五〇三	一一一九四	一七七六〇
變性酒精	三六六〇〇	一二五七六	二六七八〇	五三三三	四六七〇	六九二九
計	三三六六六	五五五三七	一一四六三	二九八三四	二二一九四	二四七六三

昨秋來内地ニ於ケル本品ノ需要ハ軍需品セリゆゑいど其他各種酒精工業ノ勃興ニ伴レ著シク増加シ殊ニ變性酒精ノ消費激增ノ趨勢ヲ示シタリ茲ニ於テ本年度ノ之ガ内地供給量ハ持越權利ヲ加ヘ普通酒精ヲ前年ノ七萬五千餘石ニ對シ九萬餘石ニ變性酒精ヲ前年ノ二萬石ニ對シ一躍三萬五千石ニ増額スルノ協定成リタルガ島内ハ砂糖ノ大減産ニ伴ヒ原料糖蜜ノ不足ヲ來シ需要ニ應接スルノ餘裕ナク一部ニ於テ新ニ爪哇糖蜜ノ輸入ヲ圖リ之ガ補充的生產ヲ爲セルガ如キ業界未曾有ノ事象ヲ示現シ普通酒精ノ移出ハ竟ニ協定量ヲ超過スルノ豫期以上ノ成果ヲ示シタリ而シテ變性酒精ニ在リテハ相場ノ暴騰ニ因リ中途賣行難色ヲ呈シ當初ノ期待ニ及バザリシト雖前半ニ於ケル需要ノ激進ニ因リ其ノ移出増加ノ歩合ニ於テハ尙前者ヲ凌駕スルノ好況ヲ示シ結局前年ニ比シ數量一割四分ヲ増加シ更ニ價額ハ市價ノ奔騰ニ因由シ八割三分テフ激增ヲ告ゲタリ

○麻絲

本品ノ移出ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕向地別表

東 横 大 神 廣 下 門 沖 朝 其 京 濱 阪 戸 島 關 司 繩 鮮 他 計	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
東 京	一	五五五	一	二四〇	△	△
横 濱	二七六四	一五三三	二七六四	二七六四	△	△
大 阪	二二二四	一五三三	二二二四	二二二四	△	△
神 戶	八七五三	三六四八	八七五三	三六四八	△	△
廣 島	一〇	〇	一〇	〇	△	△
下 關	五五九〇	九八五	五五九〇	九八五	△	△
門 司	一五五〇	三二五	一五五〇	三二五	△	△
沖 繩	一九七	一三三	一九七	一三三	△	△
朝 鮮	五二〇	一〇九三六	五二〇	一〇九三六	△	△
其 他	三七	四六	三七	四六	△	△
計	三六四四	四八〇六	三六四四	四八〇六	△	△

本品ハ苧麻絲就中其ノ織布原絲ト疊表製造用黃麻絲トヲ主トセリ而シテ苧麻絲ハ滿洲事變以來支那麻布ノ對日輸出衰ヘ殊ニ朝鮮ニ於テ其ノ原絲ト共ニ努メテ輸入ヲ防遏シ本邦生産品ニ依ラントスルモノ増加シタル關係上直接間接好影響ヲ蒙リタルガ偶前年ハ原料ノ供給難ニ依リ移出不振ヲ呈シタリ然ルニ本年ハ苧麻ノ島内生産多カラザリシガ如キモ之ガ輸移出不況ニ原料買付有利ナリシ爲製絲ヲ助長シ旁内鮮共ニ其ノ需要亦益増加シタル爲移出自ラ促サレ一方黃麻ハ曩ニ絲價ノ崩落ニ會シ島内製絲不引合ニ陥リ一時移出衰微シタルトコロ最近黃麻ノ輸入原價高ヲ映シテ相場著シク恢復シ加フルニ本島産モ品質頗ル向上シタル爲需要ヲ喚起スルニ至リ本品亦移出活況ヲ呈シタル結果合計ニ於テ數量四割四分ノ激增トナレリ價額ハ割安ナル黃麻絲ノ數量ニ

特ニ著増シタル關係上増加率之ニ及バズニ割四分ヲ示シタリ
織布用苧麻絲標準物(花印八十番)ノ臺北工場渡相場左ノ如シ(一玉建)

昭和八年
昭和七年

最高

最低

○帽子

本品ノ移出ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕向地別表

種別表	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
東 京	17,955	1,052	1,910	955	1,635	20
大 阪	19,622	5,477	6,010	3,055	1,567	1,488
神 戶	101,259	2,568,835	70,252	1,101,117	31,007	1,467,718
廣 島	1	1	1,480	310	△	△
門 司	1,500	500	310	480	1,190	100
沖 繩	100	100	1	1	100	100
計	101,110	2,570,965	79,553	2,102,967	21,557	467,998

種別表	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
蘭 製	110,369	5,337	310,192	1,353	△	△
麻 製	25,996	3,793	18,057	538	107,135	3,255
紙 製	99,359	2,998,804	68,422	2,093,755	30,937	905,049
人 造	5,265	2,100	2,792	2,792	2,473	427
其 他	4,943	3,733	11,005	2,640	△	△
計	101,110	2,570,965	79,553	2,102,967	21,557	467,998

本品ハ僅少ナル再移出品ヲ除キテハ臺中、新竹兩州下ヲ主産地トスル家庭工業製産品ニ屬シ其ノ極メテ一小部分ガ内地ニ於テ消費セラル、外ハ神戸ヲ仲繼トシテ米國ヲ首メ佛國英國、加奈陀、濠洲其他廣ク海外ニ輸出セラル、モノニシテ之ガ移出ハ流行ノ變遷極リナキニ伴ヒ消長又常ニ顯著ナリ而シテ本年上半期ニ於テハ前年ノ買控ニヨリテ歐米筋ノ手持漸次消化シ買氣潜在セル折柄米國財界ニ於ケル好景氣ヘノ急速ナル轉換ヨリ期央來入註繁忙トナリ島内製帽界ハ再ビ活況ヲ兆シタルモ比較的指値安ナリシニ加ヘ偶農繁期ニ入りシ關係上期近物ハ入註ニ應ズルノ遑アラザリシ等ニ依リ移出実績ハ前年同期ニ比シ聊カ遜色ヲ呈シタリ

然ルニ下半期ニ及ビテハ主要輸出先米國ノ帽況愈高潮ニ達シ就中經濟的ナル八分立燃紙帽ノ需要著シク擡頭シ從ツテ之ガ帽價モ漸騰シ編製採算有利ニ展開シタル一方英佛其他ノ歐洲市場ニ於テモ從來殆ド需要ヲ見ザリシ七分以下ノ細物高級帽ガ俄然流行シ之等註文ニ對スル應接ニ製帽界ハ全ク空前ノ般賑ヲ呈シ茲ニ上半期ノ不勢ヲ挽回シ尙且前年ニ比シ數量四割六分ヲ激増シタリ、但シ價額ハ較

内地貿易

移出重要品

板紙

1110

上ノ如ク割安八分立燃帽ノ出増ニ因リ一割七分ノ増進ニ止マレリ
紙帽外其他ノ主ナル帽子ノ検査高前年對照並ニ本年ニ於ケル主要品ノ神戸取引標準相場左ノ如シ

検査高

昭和八年	紙帽	大甲帽	まじら麻帽	林投帽	びすこす帽
昭和七年	六五、四四	二八、五〇	一四、九四	二六、四五	三、七五
	六五、四四	五、六八	一九、〇六	一九、四四	五、九六

取引相場 (各三等品)

白立燃(八分)	白色せるろいど(八分)	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
二五	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六

○板紙

本品ノ移出ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

仕向地別表

東 横	昭和八年			昭和七年			増	減
	數量	價	額	數量	價	額		
東京	八、三〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、二〇〇	五、二〇〇	五、二〇〇	△	△
横濱	三、〇〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	九、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	△	△

名 古	昭和八年			昭和七年			増	減
	數量	價	額	數量	價	額		
大阪	六、三〇〇	三、四〇〇	三、四〇〇	三、一八〇	一、六七〇	一、六七〇	△	△
神戸	三、〇〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	△	△
下關	五、七〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	一、七〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	△	△
門司	三、七〇〇	一、〇七五	一、〇七五	一、七〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	△	△
鹿島	一、四〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	一、五〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	△	△
沖繩	八、一〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	一、八〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	△	△
朝鮮	三、七〇〇	一、〇七五	一、〇七五	一、五〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	△	△
其他各地	二、八〇〇	五、八七五	五、八七五	一、六〇〇	七、四〇〇	七、四〇〇	△	△
計	四、八三〇	二、八三三	二、八三三	六、七二七	三、〇一四	三、〇一四	△	△

本年内地板紙界ハ財界好轉氣構竝ニ先高見越ノ假需要擡頭等ニ依リ年初一、二月ノ間極メテ好調ヲ呈シタルモ内外實需ノ依然タル不振ニ再ビ頓挫シ爾來聯合會ハ極端ナル高率操短ヲ以テ低價ノ維持ニ狂奔シ漸ク晩秋後ニ至リテ小康ヲ得タリ斯カル實情ナリシ爲同社ノ製品ガ内地市場ニ於テ販路ヲ支持スルコトノ容易ナラザリシハ固ヨリ想察スルニ難カラザル所ナルガ他面海外殊ニ從來同社ノ主販路香港、南洋方面ニ於テモ内地地板紙ノ濫賣ヲ誘致セル折柄更ニ英領印度ニ於ケル二大板紙會社ノ新設、上海産板紙ノ南進等ニ依リ同社板紙ノ對立ヲ許サザリシ爲最近販路ヲ滿洲ニ轉ジタル同社ハ極力其ノ商權ノ確保擴張ニ努メタルトコロ取引意外ニ順調強イテ不利ナル内地販賣ヲ固執スルノ必要ナカリシトハ相俟ツテ移出ヲ退嬰セシメ結局前年ニ比シ數量二割七分ノ著減ヲ招キタルガ價額ハ高率操短ニ辛クモ紙價ヲ支ヘ得タル關係上減退歩合一割四分ニ止マレリ

内地貿易

移出重要品

板紙

1111

○石炭

本品ノ移出ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ
仕向地別表

種別表	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
東 京	4110	4650	2950	3840	1160	800
横 濱	4266	3756	399	3650	267	366
名 古 屋	5249	4935	510	2899	1039	2036
大 阪	1836	1336	—	—	1836	1336
神 戸	10	70	0	—	10	70
下 關	179	1006	78	5295	101	4771
沖 繩	1100	1406	—	—	1100	1406
朝 鮮	3535	3707	285	10035	60	1432
其ノ他ノ各地	2455	2533	285	4004	40	1571
計	2455	2533	285	4004	40	1571
塊 炭(切込共)	445	463	110	135	335	328

種別表	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
粉 炭	1070	7379	2840	3754	1770	6375
計	1465	2533	285	4004	40	1571

昨秋來滿洲ニ於ケル軍需品輸送ノ繁忙化ニ基因シ漸ク撫順炭ノ重壓ヲ免レ市況恢復ノ色ヲ現ハシタル内地炭界ハ本年ニ及ビ更ニ國內ニ於ケル輸出品竝ニ軍需品等ノ活躍ニ工業用炭ノ消費激進シタル一方斯ク工業ノ振興ハ動力ノ需要擡頭トナリ發電所ニ於ケル消費又旺盛ヲ致スニ至リ殆ド荷繰ニ逼追ヲ來サントスルノ好調状態ニ進展ヲ見タリ

サレバ本島炭ノ對内地引合モ自ラ有利ニ轉ジ移出稀有ノ盛況ヲ呈シ前年ニ比シ數量十四割價額十六割ヲ激增セリ

○鑛

本品ノ移出ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

昭和七年ノ數量ハ斤單位ヨリ換算シタルモノナリ

仕向地別表

仕向地別表	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
神 戸	—	—	—	—	—	—
下 關	—	—	—	—	—	—
門 司	—	—	—	—	—	—
其ノ他ノ各地	1465	61400	1379	496000	86	118000
計	1465	61400	1379	496000	86	118000

本品ハ金瓜石鑛山ノ産出ニ係ル金銅鑛大部分ヲ占メ總テ佐賀關日本鑛業會社ノ精鍊所ニ供給セラ
ルヲ例トセルトコロ本年ハ此ノ外新ニ英領印度及英領馬來ノ産ナル鐵鑛ノ仲繼移出一萬三千餘
噸ヲ算セリ

而シテ本年ニ於ケル鑛況ハ銅價ガ米國ノ景氣恢復ヲ主因トスル需要界ノ活動ニ依リ前年上半期末
底トシテ一變急騰ヲ告ゲタル一方政府ノ産金買上價格引上等ニ依リ極メテ好調ヲ呈スルニ至リタ
レハ同山ニ於テハ鑛區ヲ擴張シ採鑛施設ヲ整備スル等積極的産鑛ニ努メタル結果本年ノ産鑛量ハ前
年ノ十萬九千餘噸ヨリ十一萬七千餘噸ニ増加シ旁船線ノ順調ニ持越鑛ヲ加ヘ出貨増大シタルニ依リ前
述ノ新事情ト相俟ツテ本年ノ移出ハ前年ニ比シ數量二割價額二割四分ノ各増進ヲ示シタリ

○木材

本品ノ移出ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕向地別表

仕向地	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
小樽	1,000	100,000	1,000	100,000	0	0
東京	10,000	1,000,000	10,000	1,000,000	0	0
横濱	10,000	1,000,000	10,000	1,000,000	0	0
大阪	10,000	1,000,000	10,000	1,000,000	0	0
名古屋	10,000	1,000,000	10,000	1,000,000	0	0
大坂	10,000	1,000,000	10,000	1,000,000	0	0
計	40,000	4,000,000	40,000	4,000,000	0	0

種別表

種別	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
神戶	10,000	1,000,000	10,000	1,000,000	0	0
關島	10,000	1,000,000	10,000	1,000,000	0	0
門司	10,000	1,000,000	10,000	1,000,000	0	0
長崎	10,000	1,000,000	10,000	1,000,000	0	0
鹿島	10,000	1,000,000	10,000	1,000,000	0	0
沖繩	10,000	1,000,000	10,000	1,000,000	0	0
朝鮮	10,000	1,000,000	10,000	1,000,000	0	0
其他各地	10,000	1,000,000	10,000	1,000,000	0	0
計	70,000	7,000,000	70,000	7,000,000	0	0

本品ハ檜材殊ニ其ノ原木ヲ主トシ其他ニ亞杉材檜板楠板等ヲ數フルモ到底前者ノ比ニアラザルコト
内地貿易 移出重要品 木材 二三五

前表ニ示スガ如シ

而シテ内地ニ於ケル本島檜材ノ賣行ハ過去數年甚ダ難色ヲ呈シ之ガ爲島内ハ内地引當材ノ滯貨増嵩ノ一途ヲ辿リタリ從ツテ之ガ對策トシテ本島檜材ハ先年來屢次ニ互リ値下ヲ行ハレ漸ク前年末ニ及ビ從來ノ引合難ヲ緩和セントスルノ曙光現ハレタルニ當リ内地木材市況亦頓ニ硬化シタル爲之ガ需要採算ヲ有利ニ導キ一方爲替安ニヨル米檜米杉等ノ内地輸入不振ニ乘ジ旁多年ノ宣傳又效ヲ奏スル等需要ヲ本品ニ進メ以テ數量二割二分價額二割五分ノ各増加ヲ示セリ

七 移入重要品

○豚

本品ノ移入ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

鹿 長 門 下 廣 神 島 崎 司 關 島 戶	昭和八年			昭和七年			増減		
	數量	價額	増減	數量	價額	數量	價額	價額	
鹿島	五二五	一四二九〇	△	一五四七	四五三四	△	九八七	△	
長崎	九五	二二〇	△	一三三	二五〇四	△	一〇三	△	
門司	二八六	九二七	△	八五五	二九九七	△	五九九	△	
下關	一	一	△	一	二	△	一	△	
廣島	一〇〇	三六〇	△	九〇	九八〇	△	九〇	△	
神戶	一〇〇	三六〇	△	一四〇	五五五	△	一八五	△	
計	一、一〇六	三六七八	△	二、七四〇	一、二五四	△	一、〇七一	△	
	九八元	二五七六		二七五〇	六九四三	△	一七四二	△	
								五三三四	

○米 (粳共)

近年本島ノ養豚業ハ相當發達ヲ遂ゲタリト雖臺北州ノ如キハ未ダ其ノ生産ヲ以テ州下ノ需要ヲ充タスニ足ラズ例年他州下ニ之ガ補充ヲ抑ギツ、アルノ實情ナルヲ以テ内外相場ノ關係ニ依リテハ移入ヲ激成スルコト稀トセザルナリ

即チ前年ノ如キハ九州地方ノ豚ノ生産著増シ折柄一般市況ノ不振ヲ入レ相場崩落シ基隆沖着百疋二十五圓乃至三十圓ノ安値ヲ以テ商談成立シ移入ヲ促進シタルトコロナルガ本年ハ之ガ反動トモ見ルベキ生産ノ増加ヲ來シ且對抗品タル漁獲物ノ出廻豊富ナリシ爲島内市價軟調ヲ呈シタルニ内地ハ之ニ反シ夏季盛漁期ニ於ケル最低相場基隆沖着三十五圓ヲ降ラズ四五月ノ交高値ハ四十一・二圓唱ニシテ引合有利ナラザリシヲ以テ本年ノ移入商況ハ著シク沈滞シ前年ニ比シ數量六割五分價額六割八分ノ各激減ヲ招キタリ

○米 (粳共)

本品ノ移入ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

昭和七年ノ數量ハ石單位ヨリ換算シタルモノナリ

東 京	昭和八年			昭和七年			増減		
	數量	價額	増減	數量	價額	數量	價額	價額	
東	三〇	三〇	△	二二五	七七八	△	一三〇	△	
京								七七八	

地域	昭和八年			昭和七年			増減
	數量	價額	單位	數量	價額	單位	
横濱	11	11	11	11	11	11	△
名古屋	11	11	11	11	11	11	△
大阪	11	11	11	11	11	11	△
神戸	11	11	11	11	11	11	△
下關	11	11	11	11	11	11	△
門司	11	11	11	11	11	11	△
鹿島	11	11	11	11	11	11	△
沖繩	11	11	11	11	11	11	△
朝鮮	11	11	11	11	11	11	△
其他各地	11	11	11	11	11	11	△
計	11	11	11	11	11	11	△

前年ハ一時島内消費米不足ヲ告グ米價内地ト逆鞘ヲ示シタル爲俄然外米鮮米或ハ政府拂下故米等ノ移入乃至本島米ノ逆移入旺盛ヲ極メタルガ之レ固ヨリ異例ニ屬シ移入米ハ元來内地人引當ノ内地米ヲ以テ常態トセリ而モ近年ハ内地人ノ蓬萊米ニ對スル需要著シク普及シ内地米ノ消費範圍ヲ極限セラレタル爲其ノ移入凡調且數量亦寔ニ僅少トナレリ

而シテ本年ニ於ケル移入モ特筆スベキ事象全ク無ク之ヲ前年ニ比スレバ自ラ顯著ナル減差ヲ示シタ

肥前米ノ臺北市價左ノ如シ(一石建)

○小麥

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

昭和七年ノ數量ハ一石ニ付朝鮮仕出ノモノ一二二斤其他ノモノ一三一斤ノ割合ヲ以テ石單位ヨリ換算シタルモノナリ

地域	昭和八年			昭和七年			増減
	數量	價額	單位	數量	價額	單位	
神戶	75,560	75,846	1.00	58,286	55,379	1.00	△
下關	17,050	19,081	1.12	14,147	15,331	1.08	△
門司	25,278	26,238	1.04	26,103	26,326	1.01	△
鹿島	112,533	125,232	1.11	126,936	139,329	1.10	△
朝鮮	76,770	89,235	1.16	93,369	108,833	1.17	△
其他各地	35,617	36,566	1.03	40,666	43,633	1.07	△
計	350,565	445,216	1.27	373,779	477,241	1.28	△

本品ハ海南製粉會社ノ移入ニ係ル製粉原料大部分ヲ占メ其他ニ屬スルモノハ極メテ少量ナリ

而シテ本年海南製粉會社ノ製粉高ハ上半期ニ於テハ島内滞貨ノ重壓ヲ蒙リ僅ニ一九八七八一袋ニ過ギザリシモ下半期ニ於テハ在庫一巡消化シ且一般製粉界好調ニ趨キ内地粉ノ對本島販賣消極化セル

内地貿易

移入重要品

小麦粉

二四〇

ニ惠マレテ三〇二六五五袋ヲ算シタル爲結局兩期ヲ通シ前年ニ比シ一三二四八袋ノ増産ヲ告ゲタリ
從ツテ原料小麦ノ消費高モ略之ニ隨伴増加シタルガ外國小麦ハ昨年ノ關稅改正後内國小麦ニ對シ顯
著ナル値開ヲ生ジ其ノ使用不利トナリシ爲本年ハ内國産殊ニ增收ニヨリ最モ格安ナリシ朝鮮小麦ノ
使用ヲ進メ前年移入ニ比シ數量八割一分價額八割五分ノ各増加ヲ示シタリ

○小麦粉

本品ノ移入ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

昭和七年ノ數量ハ斤單位ヨリ換算シタルモノナリ

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
函館	1,000	10,000	1,000	10,000	△	△
東京	100	1,000	100	1,000	△	△
横濱	100	1,000	100	1,000	△	△
名古屋	100	1,000	100	1,000	△	△
大阪	100	1,000	100	1,000	△	△
神戸	100	1,000	100	1,000	△	△
下關	100	1,000	100	1,000	△	△
門司	100	1,000	100	1,000	△	△
朝鮮	100	1,000	100	1,000	△	△
其他各地	100	1,000	100	1,000	△	△
計	700	7,000	700	7,000	△	△

島内ニ於ケル本品ノ需要ハ逐年増加ノ大勢ヲ辿リツ、アリシガ本年ハ前年ノ關稅改正ニ依リテ相場
急騰ヲ告ゲ一方米價ハ依然軟調ヲ持續シタル爲需要意外ニ不振ヲ呈シタリ
而シテ本品ノ移入ハ昨秋來先高豫想ノ思惑ニヨリ實需要以上ニ之ヲ激成シ多量ノ在庫ヲ持越シタル
關係上敍上消費ノ減退ト相俟チ本年上半期ハ特ニ不振ヲ免レザリシガ更ニ下半期ニ入りテモ内地製
粉ノ對滿輸出盛況ト財界ノ好轉ニヨル地元消化ノ好調等ニ基キ從來ノ如キ本島ニ對スル濫賣ノ手ヲ
緩メ來リタル爲島内製粉ヲ促進シ移入依然不勢裡ニ推移シ結局前年ニ比シ數量ニ於テ一割七分ノ減
少ヲ招キタリ然ルニ價額ハ前年九月以降標準物相場最低三圓二十五錢最高三圓六十五錢程度ニ保合
ヒ前年上半期ノ最低二圓四十八錢最高二圓九十錢等ニ比シ著シク高値ナリシニ因リ殆ド遜色ナキヲ
得タリ

○生果

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
小樽	100	1,000	100	1,000	△	△
函館	100	1,000	100	1,000	△	△
東京	100	1,000	100	1,000	△	△
横濱	100	1,000	100	1,000	△	△
名古屋	100	1,000	100	1,000	△	△
大阪	100	1,000	100	1,000	△	△
神戸	100	1,000	100	1,000	△	△
下關	100	1,000	100	1,000	△	△
門司	100	1,000	100	1,000	△	△
朝鮮	100	1,000	100	1,000	△	△
其他各地	100	1,000	100	1,000	△	△
計	700	7,000	700	7,000	△	△

内地貿易

移入重要品

生果

二四一

大 神 廣 下 門 長 鹿 沖 朝 其 計 他 各 地	昭和八年		昭和七年		増 量	△ 減
	量	額	量	額		
東 京	一七二,六六六	二四八,三〇〇	三五〇,八八五	九三,三六六	△	一五〇,八八〇
濱 京	三九,九〇〇	一〇四,八五五	五五,五二〇	一三,七〇〇	△	一三,七〇〇
阪 屋	一三,八八三	四三,四六六	三〇,五五〇	八,六六七	△	八,六六七
戸 關	一四,九七五	四三,四六六	七六,〇〇八	三〇,三六四	△	三〇,三六四
司 關	六,六〇三	一四,八八九	四八,八五三	一五,九五五	△	一七,〇〇〇
島 司	一三,九〇八	一六,五九九	九〇,七〇〇	一六,一六八	△	一六,一六八
兒 島	一〇,〇〇〇	一七,三三三	九四,五〇〇	二五,四六五	△	二五,四六五
計	四三三,六四四	六六,〇〇五	二七五,一一一	六三,三八七	△	一〇三,二一六

由來本島ハ果物ノ生産ニ富ミ之ガ消費漸増ノ趨勢ナルモ一方又種類異ナル内地生果ニ對シテノ需要モ民度ノ發達嗜好ノ向上等ニヨリ年次旺盛ニ向ヒツツアリ本年モ其ノ主要品タル林檎及梨ガ引續キ豐穰ヲ告ゲ内地市場出廻激増シタルタメ自然本島ニ對シ販賣ヲ委託シ來ルモノ繁ク一方島内ハ敍上ノ趨勢ナルニ當リ財界モ幾分好轉シ消化一層良好ナルモノアリシニ依リ移入ヲ促進シ前年ニ比シ一割六分ヲ増進セリ

○砂糖

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

東 京 濱 京 阪 屋 戸 關 司 關 島 兒 計	昭和八年		昭和七年		増 量	△ 減
	量	額	量	額		
東 京	一七二,六六六	二四八,三〇〇	三五〇,八八五	九三,三六六	△	一五〇,八八〇
濱 京	三九,九〇〇	一〇四,八五五	五五,五二〇	一三,七〇〇	△	一三,七〇〇
阪 屋	一三,八八三	四三,四六六	三〇,五五〇	八,六六七	△	八,六六七
戸 關	一四,九七五	四三,四六六	七六,〇〇八	三〇,三六四	△	三〇,三六四
司 關	六,六〇三	一四,八八九	四八,八五三	一五,九五五	△	一七,〇〇〇
島 司	一三,九〇八	一六,五九九	九〇,七〇〇	一六,一六八	△	一六,一六八
兒 島	一〇,〇〇〇	一七,三三三	九四,五〇〇	二五,四六五	△	二五,四六五
計	四三三,六四四	六六,〇〇五	二七五,一一一	六三,三八七	△	一〇三,二一六

種別表

一 種 二 種 三 種 四 種 五 種 計	昭和八年		昭和七年		増 量	△ 減
	量	額	量	額		
一 種	一五,一六五	一六,一六六	七,五五五	七,三三九	△	一,五八七
二 種	二〇,三三三	二二,三〇〇	一八,〇〇〇	三,〇六八	△	二,〇五三
三 種	一六,七五五	三〇,四二六	九〇〇	一五	△	一五
四 種	九,〇七九	二六,一九三	一〇,七二四	三,七〇七	△	五,五九九
五 種	四三,三六四	八六,〇〇五	二七,〇一一	六三,三八七	△	二〇,三二六

島内消費ニ係ル砂糖ハ大體自給ヲ原則トスレドモ品質關係或ハ需給上ノ變調ニ依リ移入ニ俟ツ所亦

内地貿易

移入重要品

砂糖

尠カラザル状態ナリ
 而シテ本年ニ於ケル移入ノ状況ヲ糖種別ニ窺フニ本年期ノ本島産赤糖ハ著シク増加シタルモ島内ノ消費意外ニ旺盛ナリシ爲九月以降其ノ供給不足ヲ訴フルニ至リ之ガ代用品トシテ人造玉砂糖ノ移入ヲ促シ即チ第一種糖ニ激増ヲ來シタルガ尙其ノ外第二種糖ハ内地ト島内トノ相場ノ逆鞘ニ乗ジ一時本島産分蜜糖ノ逆送ヲ示現シ第四種糖ニ於テハ元來精糖ヲ主トシ本品ハ耕地白糖ノ品質改良ト消費者ノ自覺トニヨリ需要逐減ノ趨勢ナルトコロ偶本年ハ前年ノ移入特ニ不振ナリシ後ヲ承ケ在庫薄ナリシニ依リ入増ヲ示シタリ然ルニ第五種糖ニ於テハ角糖ノ移入増加ノ傾向ナルニ不拘本島民間ノ慣習的需要ニ屬スル冰糖ガ時勢ノ推移ニ伴ヒ衰頽ヲ兆シ旁移入手控ヘラレタルニ主因シ減少ヲ招キタリ以上ヲ總括シテ本年ノ移入ハ數量ニ於テ六割ヲ激増シタルガ價額ハ割安人造玉砂糖ノ入増顯著ナリシ爲三割二分ノ増加ニ止マリタリ

○菓子類

本品ノ移入ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ
 仕出地別表

仕出地	價額	
	昭和八年	昭和七年
小樽	1,000	500
東京	7,575	101,600
横濱	5,795	43,190
増減	△	△

仕出地	價額	
	昭和八年	昭和七年
名古屋	18,070	17,110
大阪	8,780	30,795
神戸	5,105	40,000
廣島	3,900	7,600
下關	4,300	38,700
門司	7,800	9,400
長崎	3,600	5,500
鹿島	2,900	10,600
沖繩	1,000	100
朝鮮	1,500	400
其他各地	18,300	1,400
計	126,840	182,400
増減	△	△

一般和洋菓子類ノ需要ハ島民ノ生活程度竝ニ嗜好ノ向上ヲ基調トシテ近時著シク増加シ本島ノ製菓業モ之ニ促サレ大ニ發展シ年次増産ヲ辿リツ、アリト雖未ダ生産費概ネ不廉ナルタメ内地移入品ヲ抑壓スルニ至ラズ而モ内地ノ供給筋ハ比年地元ノ賣行不良ナルニ鑑ミ極力消化ヲ本島ニ策シタルニ依リ本品ノ移入ハ近年著シク膨脹ヲ告ゲタルガ本年ハ製菓ノ主要原料小麥粉砂糖等ノ相場一齊暴騰シタルニ加ヘびすけつと工業組合ノ出現ニ依ル原料ノ精選吟味等ヨリ價格ヲ一層騰貴セシメ需要ヲ阻害セルノミナラズ群小會社ノ生産手控或ハ販賣代理店ノ引上等ヲ見取引自ラ沈靜シ前年ノ移入ニ比シ八分ノ減少ヲ招キタリ

○醬油

本品ノ移入ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

昭和七年ノ數量ハ石單位ヨリ換算シタルモノナリ

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
函館	六四〇	一〇〇	一三、一五〇	三、六五三	△	△
東京	六、二九〇	一〇	一、八四〇	四、七四八	△	△
横濱	五、七六	一〇	一、九〇三	四、五三八	△	△
名古屋	五、七	一〇	一、九〇三	四、五三八	△	△
大阪	一、〇〇九	一〇	二、三三三	五、三六九	△	△
神戸	一、四九七	一〇	一、〇六三	四、〇六三	△	△
廣島	一、四九七	一〇	一、〇六三	四、〇六三	△	△
下關	五、五〇〇	一〇	一、七三三	四、三三〇	△	△
門司	三、三三三	一〇	一、七三三	四、三三〇	△	△
長崎	三、三三三	一〇	一、七三三	四、三三〇	△	△
鹿兒島	三、三三三	一〇	一、七三三	四、三三〇	△	△
其ノ他ノ各地	五、七三三	一〇	一、〇七九	三、九九六	△	△
計	二七、〇三三	一〇	三、五五九	一〇、八九六	△	△

島内ニ於ケル移入醤油ト本島醤油トノ需要ハ略分野ヲ形成シ例年甚シキ消長ヲ認メザルモノナルガ大勢ニ於テ本島醤油ハ地理的ニ或ハ醸造設備技術等ノ關係ニ基キ生産費割高ヲ示シ發展ノ餘地無キ

ニ對シ内地醤油ハ其ノ大量生産ニヨル競争的濫賣ニ本島醤油トノ値開接近ト本島民度ノ向上同化ニヨル新規需要者ノ出現トニヨリ需要漸次増加ノ趨勢ナリ
然ルニ本年ノ移入ハ前年下半期ニ於テ著シク買進ミタル反動ヲ受ケ春來不振ヲ呈シ更ニ下半期ニ至リテハ商況前年ニ反シ先安氣配濃厚ナリシ爲業者一齊買付ヲ見送りタル結果前年ニ比シ數量二割四分價額二割三分ノ減退トナレリ
主要移入品ノ臺北市價(大樽一挺)左ノ如シ

年	龜甲萬		龜甲又		山サ		丸金	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
昭和八年	一、八〇〇	一、六三〇	一、八〇〇	一、六三〇	一、八〇〇	一、六三〇	一、八三〇	一、六三〇
昭和七年	一、八〇〇	一、七〇〇	一、六七〇	一、五七〇	一、四〇〇	一、七〇〇	一、八三〇	一、六三〇

○味ノ素類

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
函館	一	一	四〇	四〇	△	△
東京	八、九七	一、一〇	三、九〇	三、九〇	△	△
大阪	一、一〇	一、一〇	一、四八三	一、四八三	△	△
神戸	三、五三三	三、五三三	一〇、一四四	一〇、一四四	△	△

品名	昭和八年		昭和七年		増減額
	数量	金額	数量	金額	
廣島	500	600	1000	1000	△
下関	100	100	100	100	△
門司	1000	1000	1000	1000	△
其ノ他ノ各地	1000	1000	1000	1000	△
計	2600	2600	2600	2600	△

本品ノ島内需要ハ生活程度ノ向上ト販賣業者ノ宣傳努力トニ因リ近年著シク普及シタルガ競争品ノ濫出ニ相場崩落シタル爲實需増加セルニ不拘價額之ニ伴ハザルノ傾向ヲ呈シ殊ニ本年ハ先安見越ノ仕入手控ト前年買過ギニヨル手持ノ豊富トニ基キ移入不振裡ニ推移シタル結果之ガ價額ハ前年ニ比シ一割四分ノ減少ヲ招キタリ

○水産物

(一) 乾魚

本品ノ移入ハ前年ニ比シ數量減退シ價額増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

品名	昭和八年		昭和七年		増減額
	数量	金額	数量	金額	
小樽	663	844	666	256	△

種別表

品名	昭和八年		昭和七年		増減額
	数量	金額	数量	金額	
東館	12673	1930	12706	3356	△
京濱	2357	36	150	17	△
廣屋	5188	567	1000	165	△
大阪	4100	600	3000	883	△
戸阪	2689	636	3800	589	△
神戶	167500	2526	147101	63976	△
廣島	2670	326	8800	1583	△
下関	96063	107001	96350	35503	△
門司	234095	44860	206329	26663	△
長崎	174334	30755	128500	22109	△
鹿島	1100	50	259	706	△
沖繩	1100	50	100	7	△
朝日	1100	50	100	7	△
其ノ他ノ各地	55035	9536	35000	73005	△
計	974088	125562	1011256	156187	△

品名	昭和八年		昭和七年		増減額
	数量	金額	数量	金額	
鱈	26144	46876	27056	39923	△
鰯	65542	114074	70384	109661	△
其ノ他	47356	13373	49120	10743	△
計	974088	125562	1011256	156187	△

本品ハ表示ノ如ク例年鱈ト鰯トヲ以テ主要品トスルトコロナルガ本年ノ鱈ハ前年ニ引續キ薄漁ニ了リ鰯子モ魴及平子ニ不漁ヲ告ゲ一般品薄ヲ訴ヘタルニ當リ日支取引恢復ノ曙光ヲ示シタル爲相場

著シク強調ヲ迎リタリ
 從ツテ本年ハ内外共ニ消費ヲ抑制セラレタルガ本島ニ於テハ對支仲繼輸出引當ノ思惑ニ助長セラレ
 結果ニ於テ其ノ輸出ハ期待ニ反セルモ移入ハ甚シキ不勢ヲ免レ前年ニ比シ數量ニ於テ僅々五分ノ減
 額ニ止マリ價額ニ於テハ前陳ノ如キ相場高ニ依リ反ツテ八分ノ増加ヲ來シタリ
 移入主要品ノ基隆市價(百斤建)左ノ如シ

開 鱈、 無 頭道	昭和八年	最高	最低	昭和七年	最高	最低
	円	1700	1300	円	1500	1000
煎 子、 鮫、 中羽	昭和八年	最高	最低	昭和七年	最高	最低
	円	2400	1800	円	1650	650

(二) 鹹魚

本品ノ移入ハ前年ニ比シ數量減退シ價額増加セリ即チ左ノ如シ
 仕出地別表

名	小 函 東 横 古	昭和八年		昭和七年		増 減
		數量	價額	數量	價額	
樽	毛丸、九登	177100斤	5211円	107100斤	8410円	増
館	六九〇、三六六	326833斤	96083円	267386斤	67386円	増
京	一七五	43355斤	37455円	43355斤	37455円	同
濱	一五	644斤	25円	25斤	105円	減
屋	一五	1800斤	504円	1800斤	504円	同

種別表

大 神 廣 下 門 長 鹿 沖 朝 其	阪 戸 島 關 司 崎 島 繩 鮮 地	昭和八年		昭和七年		増 減
		數量	價額	數量	價額	
計		47833斤	6400円	37878斤	5775円	増
神	戸	565390斤	49555円	339273斤	22196円	増
廣	島	5000斤	408円	13333斤	2267円	減
下	關	2326497斤	22579円	200844斤	176165円	増
門	司	269556斤	23935円	296995斤	27781円	減
長	崎	4544斤	53円	2895斤	285円	増
鹿	島	4000斤	95円	1800斤	45円	増
沖	繩	910斤	95円	1200斤	105円	減
朝	鮮	505130斤	50377円	58330斤	49752円	増
其	地	69090斤	6335円	76890斤	24184円	減
計		19295433斤	180341円	33591272斤	1672955円	増

大 神 廣 下 門 長 鹿 沖 朝 其	阪 戸 島 關 司 崎 島 繩 鮮 地	昭和八年		昭和七年		増 減
		數量	價額	數量	價額	
計		47833斤	6400円	37878斤	5775円	増
神	戸	565390斤	49555円	339273斤	22196円	増
廣	島	5000斤	408円	13333斤	2267円	減
下	關	2326497斤	22579円	200844斤	176165円	増
門	司	269556斤	23935円	296995斤	27781円	減
長	崎	4544斤	53円	2895斤	285円	増
鹿	島	4000斤	95円	1800斤	45円	増
沖	繩	910斤	95円	1200斤	105円	減
朝	鮮	505130斤	50377円	58330斤	49752円	増
其	地	69090斤	6335円	76890斤	24184円	減
計		19295433斤	180341円	33591272斤	1672955円	増

内地貿易

移入重要品

水産物(鱈)

二五二

本年ハ鹽鯨ガ漁況恢復シ供給力ヲ増大シタル一方便船其他採算關係ニ基キ神戸ニ於テ一旦輸入セラレタル上本島へ轉送セラル、モノ多キヲ加へ移入激増ヲ示シタル外太刀魚ガ稀有ノ大漁ヲ齎シ鯖モ比較的豐漁ヲ告グ共ニ鱈ノ品薄高値ニ乗ジ取引好調ヲ呈シタルモ本項中ノ大宗品タル鱈ガ前年ノ不漁尻ヲ承ケ上半期ノ移入振ハザリシノミナラズ越エテ下半期ニ於テハ本期漁狀更ニ前年以上ノ凶漁ヲ傳へ供給全ク圓滑ヲ缺ギ之ガ爲出廻期ニ入りテ相場反ツテ續騰ヲ告グルノ状態ニシテ其ノ移入不振ヲ極メタル結果前述鱈太刀魚等ノ増加モ之ニ蔽ハレ竟ニ數量ニ於テ一割四分ノ減少ヲ招クニ至リ價額ノミ魚價ノ昂騰ニ援ケラレ一割ヲ増加セリ

移入主要品ノ基隆市價左ノ如シ

品名	昭和八年		昭和七年	
	最高	最低	最高	最低
鱈 (一俵、十二貫) 建	九〇	七〇	六七	四五
鱈 (本島人向) 同	八〇	六〇	七八	四三
鯖 (本島人向) 同	二〇〇	一五〇	一五〇	一〇〇
太刀魚 同	二〇〇	一〇〇	一五〇	一〇〇

(三) 錫

本品ノ移入ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ
仕出地別表

小樽	昭和八年		昭和七年		増減
	數量	價額	數量	價額	
小樽	四八〇斤	一五八	四八〇斤	一五八	△

移入地	昭和八年		昭和七年		増減
	數量	價額	數量	價額	
函館	二四八、五五	六八、〇〇	二九五、四〇	六四、三三	△
東京	四、五〇	一、八〇	一、〇〇	四、七五	△
大阪	二、三三	一、八〇	一、五五	七、三三	△
神戸	三、三三	六、六九	四、〇四	三、八四	△
廣島	三、五五	一、〇七	七、五〇	二、五八	△
下關	一、七六	五、九二	三、九三	一、〇九	△
門司	一、〇〇	二、七〇	七、〇〇	二、五八	△
長崎	五、六〇	一、七二	一、七四	五、六四	△
沖繩	一	一	五	二〇	△
朝鮮	一	一	四	一三	△
其他各地	三、八七	一、〇九	九、九六	二、〇五	△
計	三、八七	一、〇九	四、九四	一、〇一	△

本品ハ茲數年不漁續キニ依リ移入甚ダ不振ヲ呈シタルガ偶前年ハ相當ノ漁事ヲ見タル爲商勢恢復シ殊ニ昨冬以來相場ハ對支輸出ノ不況ヲ眺メ著シク軟化シタルニ依リ島内需要ヲ促シ本年上半期ノ移入ハ顯著ナル進境ヲ示シタリ

然ルニ下半期ニ於テ五月末成立ノ日支停戰協定ヲ入レ相場硬變シ其後本年ノ漁期ヲ迎ヘテ一時落調ニ轉ゼントセルガ廳又晚漁ノ凶獲ヲ傳ヘテ九月末以降奔騰ヲ累ネタル爲取引全ク杜絶ノ悲境ニ陥リ結局下半期ノ入貨激減ヲ招キタルニ因リ上半期ノ入増モ抹殺セラレ前年ニ比シ數量一割二分價額一割六分ノ各減退トナレリ

本品ノ基隆市價(百斤建)左ノ如シ

内地貿易

移入重要品

水産物(鱈)

二五三

内地貿易

移入重要品

水産物(乾鰈)

二五四

北海道産二番鰈

昭和八年
最高 11月(11) 3500(円)
最低 3月(3) 3300(円)

昭和七年
最高 1月(1) 3000(円)
最低 5月(5) 2900(円)

(四) 乾鰈

本品ノ移入ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ
仕出地別表

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減
	数量	金額	数量	金額	
小樽	150	100	150	100	0
函館	150	100	150	100	0
横濱	150	100	150	100	0
名古屋	150	100	150	100	0
大阪	150	100	150	100	0
神戸	150	100	150	100	0
廣島	150	100	150	100	0
下関	150	100	150	100	0
門司	150	100	150	100	0
長崎	150	100	150	100	0
鹿児島	150	100	150	100	0
鹿兒	150	100	150	100	0
沖繩	150	100	150	100	0
計	1500	1000	1500	1000	0

仕出地	昭和八年	昭和七年	増減
朝鮮	1569	1756	△ 187
其他各地	188	375	△ 187
計	1781	2131	△ 350

前年ハ内地産剥鰈ガ未曾有ノ増産ヲ告ゲタル外朝鮮ニ於テモ櫻鰈又相當豐漁ヲ傳ヘ其ノ安値ニ島内需要ヲ大ニ喚起シ移入稀ニ見ル盛況ヲ呈スルト共ニ勢ヒ例年ニ比シ多量ノ在庫ヲ本年ニ持越スノ結果トナリタリ

從ツテ本年ハ既ニ買氣ニ於テモ一般沈滞ノ色ヲ現ハシ加フルニ漁況又前年ニ及バズ而モ對支輸出ノ好勢ヲ加味シテ相場昂騰ヲ告ゲタレバ需要亦抑制セラレ旁前年移入ガ般販ヲ極メタル關係モ與ツテ本年移入ハ數量一割五分價額一割ノ減少ヲ示スニ至レリ

本品ノ臺北市價(百斤建)左ノ如シ

品名	昭和八年		昭和七年	
	最高	最低	最高	最低
機械鰈	800	500	750	450
金釣鰈	700	400	650	350
小間鰈	300	200	250	150
刺鰈	250	150	200	100
櫻鰈	300	200	250	150

(五) 貝柱

本品ノ移入ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

内地貿易

移入重要品

水産物(貝柱)

二五五

仕出地別表

種別	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
小樽	13,244斤	2,110円	28,110斤	3,351円	△	1,506円
函館	29,896斤	5,561円	29,033斤	3,268円	△	1,935円
大阪	600斤	555円	1,000斤	1,501円	△	1,000円
神戸	3,929斤	3,340円	28,750斤	2,875円	△	3,101円
廣島	100斤	100円	100斤	100円	△	100円
下関	2,025斤	1,799円	4,440斤	400円	△	1,110円
門司	95斤	83円	100斤	70円	△	13円
朝鮮	4,835斤	589.92円	15,300斤	2,240円	△	2,555円
其ノ他ノ各地	4,477斤	4,650円	6,039斤	4,193円	△	2,559円
計	107,626斤	16,533円	107,626斤	76,825円	△	16,337円

本年ニ於ケル貝柱ノ産額ハ前年ノ豊漁ニ反シ凶漁ヲ告ゲタル爲著シキ減産ヲ招キタルガ産地ニ於ケル在庫豊富ナリシニ依リ減産ニモ似ズ相場比較的安値ヲ唱ヘタリ
然レドモ之ヲ前年ノ角柱高値八十二三圓安値五十七八圓テフ暴落相場ニ比較スレバ各七八圓高ニ當リタル爲島内需要ヲ幾分阻害シ加フルニ前年ニ於テ買進ミタル輸出引當品モ相當手持トナリ越年セルトニ依リ盛況ヲ呈シタル前年移入ニ及ブベクモナク數量ニ二割價額ニ一割五分ノ各減少ヲ招致セリ

(六) 其ノ他ノ魚介類及水産物

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ
仕出地別表

種別	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
小樽	13,244斤	2,110円	28,110斤	3,351円	△	1,506円
函館	29,896斤	5,561円	29,033斤	3,268円	△	1,935円
大阪	600斤	555円	1,000斤	1,501円	△	1,000円
神戸	3,929斤	3,340円	28,750斤	2,875円	△	3,101円
廣島	100斤	100円	100斤	100円	△	100円
下関	2,025斤	1,799円	4,440斤	400円	△	1,110円
門司	95斤	83円	100斤	70円	△	13円
朝鮮	4,835斤	589.92円	15,300斤	2,240円	△	2,555円
其ノ他ノ各地	4,477斤	4,650円	6,039斤	4,193円	△	2,559円
計	107,626斤	16,533円	107,626斤	76,825円	△	16,337円

品名	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
乾貝	二五七九斤	一七〇七六	二三四八三斤	三〇三二七	△	三一九二
其ノ他	三四六六	一七三九〇	五二四二四	一四八六九	△	三三二
昆布	三四三三	三三九	六九七六五	八八七三	△	三六〇四
寒天	四〇八〇	五〇六二	四九一〇	七〇五四	△	一九九三
其他	九五五九	九四八七	九四八七	七〇〇〇	△	二六九七
計	一四九八四	一四九八四	一五三九四	一五三九四	△	四一五〇

鯉節ハ直接島内消費ノ目的ヲ以テ移入セラル、モノ極メテ少ク其ノ大部分ハ八重山方面ノ生産品ニシテ本島市場ヲ介シテ更ニ内地ヘ仕向ケラル、モノナルガ本年ハ商機關係ニ依リ其ノ取引前年ニ及バズ一方小賣向用トシテノ移入亦島内品ニ押サレテ減少セリ

乾貝類ハ北海道産小粒鮑引續キ豊漁ヲ告グ安値ニ島内需要ト仲繼輸出ヲ促進シタルガ前年ノ買進ニ手持豊富ナリシ爲入荷ハ聊カ減少シ其他ニ於テハ馬刀貝が大連方面ニ吸收セラレ本島ヘノ供給餘力衰退セル外概ネ前年ニ劣ラザル豊産ヲ告グ絹貝淺利貝等ニ於テ鮑ト同様ノ條件ヲ以テ移入最モ顯著ナル増加ヲ示シタリ

昆布ハ主ニ對岸輸出引當品ニ屬シ本年相場高ニ加ヘ内地ヨリノ直接出廻品ニ抑制セラレ其ノ輸出不振ヲ極メタルニ因由シテ激減シ寒天ハ一般需要ノ不勢ト先安見越ノ買控トニヨリ移入衰頽セリ

而シテ其他ニ屬スルモノハ例年鮮魚冷凍魚各種海藻類季節物タル鮭、明太子等ヲ主トシ以下種類甚ダ廣汎ニ互レルガ需要ニ著シキ變調ヲ認メズ價額僅少ノ増加ヲ示シタルガ移入總額ニ於テハ結局四分ノ減少ヲ招キタリ

〇こんでんすどみるく

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ仕出地別表

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
小樽	一三六八五	六六九三	七、四四四	三〇、八〇六	?	三六、二七
函館	三九〇六	一六六三	五、五九〇	一五、五五	?	一三、〇八
東京	七〇三	二九三三	四、四八	一〇、七四	?	一九、四四
横濱	八八六	一五九七	一〇、六六七	三、四五四	?	七、一五七
名古屋	一	一	二、八四	八五	?	八五
大阪	一七、八八	六、七五	三、四四七	一、二四	?	四、五二五
神戸	三、三六	三、〇五三	一、五〇三	五、〇九七	?	三、〇五三
下關	一一三	四、五	三、〇	一、五〇	?	九、九
門司	二八〇三	一〇、五八六	一、七三三	四、七五〇	?	五、八六
長崎	二四	八〇	四〇	三、〇	?	一、四〇
沖繩	四	一、五〇	一、九三	九、九元	?	九、八元
朝鮮	八	三〇	四〇〇	一、五〇	?	一、六〇
其他各地	一三〇	四、七五	一	一	?	四、七五
計	三三、三九	一、三六、六六	三三、三〇七	一、二七、四〇	?	一、九、四八

從來本品ノ移入ハ常ニ輸入ト因果關係ヲ有シ比較的顯著ナル消長ヲ辿リ來リタルガ前年ノ關稅改正内地貿易 移入重要品 こんでんすどみるく 二五九

内地貿易

移入重要品

各種ノ罐詰食物

二六〇

ニ依リ輸入極度ニ不利ヲ招クニ至リタルヲ一轉機トシテ移入ハ増大スルト同時ニ大勢安定スルコト、ナレリ殊ニ本年ハ前年下半期來外國産ノ輸入殆ド杜絶セル後ヲ承ケ其ノ消化一巡セルヲ見テ内國産ヲ以テスル補充買擡頭シタル爲旁文化ノ發達嗜好ノ向上ニ伴フ實需ノ伸展ト相俟テ前年ノ移入額ニ比シ一割七分ノ増加ヲ示シタリ

○各種ノ罐詰食物

本品ノ移入ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減額
	價	額	價	額	
小樽	三三七八	△	一六八四	三三〇九	△
函館	三五一六	△	二四一四	一〇一一	△
東京	二五〇九	△	三三〇八	三三〇九	△
東洋	二五〇七	△	一八五三	三三〇九	△
名古	一六四三	△	一六〇〇	三三〇九	△
大阪	五〇三二	△	四七四九	三三〇九	△
神戸	三三三〇	△	二八二四	三三〇九	△
廣島	二八五三	△	三三〇六	三三〇九	△
下關	二二六四	△	九一七八	三三〇九	△
門司	一六〇七	△	一五七二	三三〇九	△
長崎	二二一八	△	八五三	三三〇九	△

仕出地	昭和八年	昭和七年	増減額
鹿兒島	七八〇	一五	七六五
沖繩	三三	一〇	二三
朝鮮	一五九九	四九〇	一一〇九
其他ノ各地	四二八五	三〇〇三	一二八二
計	一六三三九	一六五〇〇	△一六六

本品ノ島内需要ハ民度ノ向上ニ伴ヒ一時急速ナル伸展ヲ告ゲタルモ近來交通著シク發達シ地方農山村ニ生鮮ナル獸肉魚肉蔬菜果實等ノ食料物資ガ容易ニ且低廉ニ配給セラル、ニ至リ之等用途ノ利便上ヨリ需要セラレタル方面ニ於テ其ノ必要性ヲ漸次減少シ來リタルニ依リ氣配聊カ鈍狀ヲ呈スルニ至レリ

而シテ本年ニ於ケル本品ノ移入ハ一般財界稍見直シタルニ當リ軍部ノ需要ト對外輸出好調ヲ呈シタル爲相場殆ド一齊騰貴シ就中類中ノ主要品鮭及鯖罐詰ノ如キハ輸出ノ激増ニヨリ稀有ノ暴騰ヲ告ゲタルヲ以テ消費ヲ控制セル一方移入業者モ買付ヲ見送りタル結果移入不振ヲ呈シ前年移入額ニ對シ四分ノ減退ヲ來セリ

主要移入品ノ臺北市價四打ノ一箱建左ノ如シ

品名	昭和八年		昭和七年	
	最高	最低	最高	最低
牛肉大和煮(特上)	三〇〇〇	三三〇	三〇〇〇	三〇〇
鮑 (三十匁入)	二二五	一〇五	二二五	一〇〇〇
蝶 (上)	一〇一〇	九七〇	一〇〇〇	七五〇
鮭 (星印)	二二五	一一〇〇	一一〇〇	八五〇

内地貿易 移入重要品 各種ノ罐詰食物 二六一

内地貿易

移入重要品

礦水及其他ノ諸飲料

二六二

鮭	最高	昭和八年	最低	最高	昭和七年	最低
鮭大東(百二十匁入)	九八〇		九二〇	八三〇		七五〇
鮭大東(百二十匁入)	九二〇		八三〇	七五〇		六五〇
鮭小(五十匁入)	一六五		一六五	一九〇		一六〇

○礦水及其他ノ諸飲料

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減額
	数量	金額	数量	金額	
小樽	1,000	1,000	1	1	1,000
東京	5,676	5,676	7,378	7,378	1,702
横濱	5,010	5,010	6,527	6,527	1,517
名古屋	2,680	2,680	6,940	6,940	4,260
大阪	2,370	2,370	10,718	10,718	8,348
神戸	1,370	1,370	11,019	11,019	9,649
廣島	2,700	2,700	2,494	2,494	(76)
下關	1,200	1,200	700	700	(500)
門司	4,016	4,016	3,444	3,444	(572)
沖繩	31	31	1	1	30
朝鮮	1,114	1,114	1,150	1,150	36

其他ノ各地

種別表

種別	昭和八年		昭和七年		増減額
	数量	金額	数量	金額	
其他ノ各地計	2,940	2,940	3,076	3,076	(136)
さいだ	3,636	1,010	1,434	1,137	2,503
しとろん	8,540	2,024	687	5,028	3,516
其他ノ諸飲料計	12,176	3,034	3,121	11,195	1,839

昭和七年ノ數量ハ打單位ヨリ換算シタルモノナリ

本品ハ前掲ノさいだー及しとろんト其他ニ屬スル類似ノ清涼飲料並ニ果汁糖水乳酸飲料等ヲ包含セ
 ルガ先年來需要ノ特ニ急速ナル發展ヲ告ゲタルハ乳酸菌飲料ナリトス
 然レドモ右ハ之ガ製造販賣元ノ宣傳努力ト同種品ノ簇出ニ依ル競争的濫賣等ニ激成セラレタル一時
 的現象ニシテ前年來再ビ割安ナル清涼飲料ニ需要復歸シ殊ニ本年ニ至リテ其ノ傾向顯著ナルモノア
 リ旁農村ノ景氣好轉ト天候ニ恵マレ清涼飲料ノ消費増大シタル爲島内生産ヲ促スト同時ニ移入ニ於
 テモ表示ノ如クさいだー及しとろん等ニ進境ヲ齎シタルガ最近更ニのーびーるノ需要普及シ前述乳
 酸菌飲料ノ不勢ヲ補ヒタルヲ以テ結果全體ノ移入額ハ前年ニ比シ二割六分ヲ増加セリ

○清酒

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

内地貿易

移入重要品

清酒

二六三

昭和七年ノ數量ハ打單位ヨリ換算シタルモノナリ

仕出地別表	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
大 阪	一六、四三三	二、一〇六〇	一六、六六六	一、七五五	二二七	一四九
神 戸	一、九三六	三、〇七二	一、六九七	一、八八〇	二三九	一、七〇八
廣 島	一、〇八六	一、〇四四	九、四六三	七、〇七九	八、三七七	四、三三三
其ノ他ノ各地	三、〇三三	六、一〇五	一〇、〇九一	二、二八五	四、〇四〇	四、三三三
計	二、三三三	二、九八七	二、〇五三	二、五五三	二、七七七	三、九四四

本品ノ移入ハ先年來財界ノ不況ヲ反映シ一時頓挫セルガ本年ハ前年下半期來島内市況漸次恢復シタルニ當リ民度ノ向上ニ依リ本島人ニシテ内地清酒ヲ需要スルモノ多キヲ加ヘタレバ旁當局竝ニ業者ノ販賣努力ト相俟ツテ消費ヲ著シク助長シ結局前年ニ比シ數量價額共ニ一割四分ノ増進ヲ示セリ

○麥 酒

本品ノ移入ハ前年ニ比シ數量増加シ價額減退セリ即チ左ノ如シ

昭和七年ノ數量ハ打單位ヨリ換算シタルモノナリ

仕出地別表	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
東 京	九、三六九	一、七三三	三、三六七	三、三九九	四、〇二二	一、六三三
横 濱	一、三九〇	一、八八四	一、七九一	二、六三九	二、二九一	一、六三三

仕出地別表	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
大 阪	一、七〇〇	二、二七八	三、〇〇一	五、二四三	一、三〇一	三、〇六四
神 戸	四、〇〇七	六、五八六	三、五七七	六、八七一	三、六〇〇	四、五〇〇
下 關	七	一一〇	八四	一、四七六	八九	一、三六八
門 司	一一、〇三	一、〇〇三	一、五四九	三、四九三	三、〇一七	六、四八三
長 崎	三、六七	五、八三四	一、七	九、七三三	三、七七	八、八三四
沖 縄	二、六二〇	一、八四四	二、五六四	一、九五八	四三	七、二七八
計	二、六二〇	一、八四四	二、五六四	一、九五八	四三	七、二七八

先年一時消費減退ヲ示シタル本品モ前年ニ追ビテ稍恢復ノ氣配ヲ呈シ踵イデ本年ヲ迎ヘテ市況更ニ好調ニ趨キ天候亦比較的良好ナリシ爲相消費ノ増進ヲ期待セラレ殊ニ下半期ニ入りテハ思惑的假需要サヘ誘致シタルヲ以テ前年ノ移入高ニ對シ僅少ナガラ増加ヲ來シタルガ價額ニ於テハ割安ナル低級品ガ高級品ヲ驅逐シテ進出シタル外金融關係ニ依ル處分品ノ流入等ニ主因シ反ツテ四分ノ減少ヲ招キタリ

○葡 萄 酒

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
東 京	一一、三六	三、五八〇	一、四三三	三、〇六九	?	一、四七九

品名	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
横濱	三、四〇〇	九、〇〇〇	—	—	—	—
名古屋	九、四二五	一八、六三九	—	—	—	—
大阪	四、四九三	一〇、六三六	—	—	—	—
神戸	四、四九三	一〇、六三六	—	—	—	—
計	三、五七九	一〇、九〇〇	三、五七九	一〇、九〇〇	—	—

文化ノ發達嗜好ノ向上等ニ伴ヒ漸次需要普及シツ、アリシ本品ハ數年前ニ於ケル經濟界ノ深刻ナル不況ニヨリ狀勢ヲ一轉シ遂ニ消費ノ減退ヲ醸シタルトコロ偶前年ニ及ビテ市況恢復ヲ兆スト共ニ漸ク類勢ヲ脱スルニ至リ旁輸入ノ手控ヲ副因トシテ前年ノ移入ハ著シク進境ヲ告ゲタルガ更ニ本年ハ需要一層好調ニ趨キタル爲原料葡萄酒ノ輸入ヲ促進セルト同時ニ移入亦増大シ價額ニ於テ前年ニ比シ一割一分ヲ増加セリ

○紙卷煙草

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

品名	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
東京	一〇、七〇〇	六、〇七〇	—	—	—	—
計	一〇、七〇〇	六、〇七〇	—	—	—	—

品名	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
名古屋	一、一〇〇	二、六〇〇	—	—	—	—
大阪	一、一〇〇	三、三〇〇	—	—	—	—
神戸	一、一〇〇	三、三〇〇	—	—	—	—
鹿兒島	一、一〇〇	三、三〇〇	—	—	—	—
計	四、四〇〇	一三、〇〇〇	—	—	—	—

本島ニ於ケル煙草ニ對スル嗜好ノ趨勢ハ臺灣刻ヨリ内地刻ヘ更ニ紙卷口付ヘ踵イデ兩切ヘト順次變遷シ且需要量ニ於テ自然増加ヲ迎リツ、アルトコロ此ノ過程ニ於テ大部分口付ナル内地移入品ノ需要ハ先年來本島産兩切ニ牽制セラレ不勢ニ傾キタルガ本年ハ割安ナル朝日ノ供給豊富ナリシ爲旁市況ノ好調ニヨル一般消費ノ増加ヲ副因トシテ聊カ類勢ヲ挽回シ加フルニ當局亦賣行ノ成績ニ鑑ミ當用移入主義ヲ革メ新年度ヨリ多量ノ在庫ヲ準備シ以テ配給ノ圓滑ヲ期セントセル爲假需要ニ又膨脹ヲ來シタルト相俟ツテ本年移入ハ前年ニ比シ數量八分價額五分ノ各増加ヲ告ゲタリ

○燈油及輕油

本品ノ移入ハ前年ニ比シ數量減退シ價額増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

品名	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
東京	一、三三〇	五、五五〇	—	—	—	—
横濱	一、五二〇	六、一〇〇	—	—	—	—
計	二、八五〇	一一、六五〇	—	—	—	—

名 古	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
大 阪	70,000	2,710	100,000	3,300	△ 30,000	△ 590
神 戶	19,600	790	65,000	2,310	△ 45,400	△ 1,520
廣 島	110	7	6,910	296	△ 6,800	△ 290
下 關	26,500	98	90	3	△ 26,410	△ 95
門 司	3,396	127	38,330	1,390	△ 34,934	△ 1,263
其 他ノ各地	17,932	677	59,830	2,163	△ 41,898	△ 1,486
計	179,528	6,375	266,863	9,969	△ 87,335	△ 3,594

種別表

燈 油	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
計	1,906,670	66,332	2,105,440	84,251	△ 198,770	△ 18,919
輕油	2,456,000	95,600	2,512,370	68,256	△ 56,370	△ 27,344
油	395,670	15,816	404,740	15,995	△ 9,070	△ 1,625

本品ハ昨冬來相場著シク昂騰シタル爲一般消費方面ニ於テ濫費ノ防止乃至カーバイトノ利用増加等ヲ見剩ヘ電化ノ普及ニ祟ラレ需要不振ヲ極メタルニ依リ尙高値見送商狀ヲモ呈シ上半期ノ移入甚ダ不況ヲ示シタリ

下半年期ハ相場軟化シタルト上半期ニ於ケル手當不足ヲ加味シ幾分買進ノ傾向ヲ示シタルモ實需依然

昂ラズ以テ前半ノ不勢ヲ補フニ足ラズ結局前年ノ移入量ニ比シ四分ノ減少ヲ招ケリ而シテ割安ナル輕油ヲ以テ燈油ニ代用セントスル近來ノ傾向ハ本年ノ相場高ニ因リテ益助長セラレ本年引續輕油ハ遞増シ燈油ハ著減シタルニ不拘相場騰貴シタル關係上價額ニ於テハ尙且三分ノ増加ヲ示シタリ移入主要品タル日本石油會社製品ノ基隆沖渡相場(一箱建)左ノ如シ

燈油	昭和八年		昭和七年	
	最高	最低	最高	最低
白 編 蝸	5.00	4.00	5.00	4.00
青 全 勝	4.00	3.50	4.00	3.00
輕油	4.00	3.00	3.50	3.00
二號發動機油	4.00	3.00	3.50	3.00

○機械用油

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ
仕出地別表

小 東 東 小	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
東 京	29,500	1,295	50,200	2,020	△ 20,700	△ 725
東 京	2,820	113	3,600	144	△ 780	△ 31
大 阪	570	23	770	31	△ 200	△ 8
計	33,090	1,431	54,570	2,195	△ 21,480	△ 764

種別表	昭和七年		昭和八年		増減額
	数量	金額	数量	金額	
神戶		4,100		4,100	
廣島		5,200		5,200	
下關		3,400		3,400	
門司		3,400		3,400	
長崎		10		10	
沖繩		510		510	
其ノ他ノ各地		2,265		2,265	
計		10,655		10,655	

種別表	昭和八年		昭和七年		増減額
	数量	金額	数量	金額	
車軸油	3,745	10,393	3,960	10,676	△
ましん油	8,955	25,526	6,324	28,809	△
ぐりーん油	5,696	7,040	8,354	8,777	△
其ノ他ノ機械用油	4,064	4,510	4,380	3,807	△
計		10,655		8,332	△

島内ニ於ケル機械用油ノ需要ハ先年來産業ノ萎靡經費ノ節減其他自動給油装置ノ普及等ニ依リ一時頹勢ヲ示シタルガ前年ニ至リ一般市況ノ見直ニ伴ヒ恢復ノ道程ニ轉ジタリ而シテ本年ニ於ケル一般消費界ヲ觀ルニ製糖業ヲ除ケバ漁業運輸工業方面ハ勿論其他土木電力等ノ

諸施設ニ前年以上活況ヲ加ヘ就中休眠状態ニアリシ漁船ノ出動自動車ノ運輸繁劇化電力工事ノ般賑等ニ基キましん油ぐりーん油だいなも油とらんすふおーまー油たーびん油等ノ消費ヲ著シク促進シタリ從ツテ移入ハ此ノ趨勢ニ隨伴セル外從來輸入ニ仰ギシ領分ヲ配給其他競争關係等ニ因リ移入ニ讓ズルモノ多カリシト一般相場ノ昂騰トニ助長セラレ前年ニ比シ更ニ二割二分ノ著増ヲ示シタリ

ましん油(C)	最高 四七五	最低 四四五	最高 四〇〇	最低 三〇〇
車軸油(濃厚)	最高 三三五	最低 三〇五	最高 三〇〇	最低 二六〇

○硬化油及硬化蠟

本品ノ移入ハ前年ニ比シ數量減退シ價額増加セリ即チ左ノ如シ
仕出地別表

東名大下	昭和八年		昭和七年		増減額
	数量	金額	数量	金額	
東京	3,545	5,571	3,248	5,557	△
名古屋	1,906	3,956	1,717	3,995	△
大阪	3,833	6,235	1,041	1,883	△
神戸			1,600	3,123	△
下關				1,600	△

品名	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
門司	七七六八斤	二四七六	四三〇〇斤	六三九五	二八四三三斤	五七八四
朝鮮	二五〇〇	一八七五	三三三四	六三四	二〇八四	四四九
其ノ他ノ各地	一五二〇〇	四〇〇〇	一	一	一五二〇〇	四〇〇〇
計	三四五二八	七〇五五	三三三〇	五九五六	△ 八八八	五三九〇

硬化油ハ大部分石鹼ノ製造ニ供セラル、外硬化蠟ト共ニ一部蠟燭原料トシテモ需要セラル、モノナ
 ルガ近年本島ニ於ケル石鹼製造業ノ顯著ナル發達ハ本品ノ消費ヲ大ニ促進シ之ガ移入急激ニ膨脹シ
 タリ

然ルニ本年ハ前年ニ於テ幾分買進ミタル關係上既ニ反動的傾向アリタルニ加ヘ昨冬來急騰シタル相
 場依然高値ヲ持續シタル爲一層見送商狀ヲ呈シタルガ更ニ相場高ハ石鹼製造ノ手控ヲ誘致シ實需ノ
 不振モ一因シ前年移入ニ比シ數量二分ヲ減少シ價額ノミ反ツテ一割ノ増加ヲ告ゲタリ

○石 鹼

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

小	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
門司	七七六八	二四七六	四三〇〇	六三九五	二八四三三	五七八四
朝鮮	二五〇〇	一八七五	三三三四	六三四	二〇八四	四四九
其ノ他ノ各地	一五二〇〇	四〇〇〇	一	一	一五二〇〇	四〇〇〇
計	三四五二八	七〇五五	三三三〇	五九五六	△ 八八八	五三九〇

品名	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
東京	四二四四	一七五	四二四四	一七五	△	二九七
横濱	一七五	三九八	一七五	三九八	△	七〇九
名古屋	五三二八	六八三	五三二八	六八三	△	一〇四九
大阪	二二〇	四三	二二〇	四三	△	四六三
神戸	二二〇	四三	二二〇	四三	△	四六三
廣島	二二〇	四三	二二〇	四三	△	四六三
下關	二二〇	四三	二二〇	四三	△	四六三
門司	七三六	一〇四	七三六	一〇四	△	五三三
長崎	三三九	四三	三三九	四三	△	八四四
鹿島	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	△	一〇四
沖繩	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	△	一〇四
朝鮮	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	△	一〇四
其ノ他ノ各地	一〇〇	一〇	一〇〇	一〇	△	一〇四
計	二二四三	三六六	二二四三	三六六	△	三六六

本島民度ノ向上衛生思想ノ發達等ニ加ヘ供給筋ノ宣傳並ニ競争的濫賣ハ比年本品ノ需要ヲ増大シ之
 ガ移入ト又一面島内ノ生産トヲ漸次促進シ來レリ
 然ルニ本年ハ需要ニ於テハ農村ノ景氣漸次良好トナリタル爲益好調ニ趨キタルモ原料暴騰セル結果
 未ダ利潤ニ於テ内地生産品ト匹敵ヲ容サハル島内生産品ハ壓迫ヲ受ケ之ガ減産ヲ餘儀ナクセラレ一
 方内地ハ最近石鹼業ノ有利ニ乗ジ原料製造會社ニシテ之ヲ兼營スルモノ増加シ勢ヒ製品ノ本島競争
 的移入トナル等彼是相倚リ本年ノ移入額ハ前年ニ比シ三割一分ノ激増ヲ示セリ

○だいなまいと

本品ノ移入ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減
	数量	金額	数量	金額	
東京	5,500	40,700	5,300	39,700	△
横濱	7,500	54,000	7,500	54,000	△
大阪	2,900	21,000	2,900	21,000	△
神戸	700	5,000	700	5,000	△
門司	3,500	26,300	3,500	26,300	△
長崎	1,300	10,500	1,300	10,500	△
其ノ他ノ各地	6,200	46,800	5,900	42,200	△
計	26,100	193,500	25,800	190,400	△

島内ニ於ケル本品ノ常時消費者ハ金山、炭礦等ニ限レルガ築港、道路開鑿等ノ臨時的需用ノ閑繁ニ依リ之ガ移入ノ消長常ナキ状態ナリ、殊ニ前年ハ日月潭工事引當用トシテ新規ニ大量入荷ヲ示現シタルトコロ本年ハ常用方面ノ需要ハ概シテ好調ヲ迎リタルガ如キモ日月潭工事用ノ手當一段落ヲ告ゲタル爲移入自ラ衰へ前年ニ比シ數量八分、金額六分ノ各減少ヲ示セリ

○燐 寸

本品ノ移入ハ前年ニ比シ數量減退シ金額増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

昭和七年ノ數量ハ哥單位ヨリ換算シタルモノナリ

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減
	數量	金額	數量	金額	
小樽	1,500	12,000	1,500	12,000	△
東京	1,500	12,000	1,500	12,000	△
大阪	1,200	9,600	1,200	9,600	△
神戸	1,100	8,800	1,100	8,800	△
廣島	500	4,000	500	4,000	△
下關	200	1,600	200	1,600	△
門司	300	2,400	300	2,400	△
沖繩	100	800	100	800	△
其ノ他ノ各地	3,400	27,200	3,300	26,400	△
計	10,700	86,000	10,500	83,200	△

本品ハ先年來販賣競争ノ激化ト不況トヲ反映シ廉價ナル不良燐寸ガ市場ヲ風靡セントシタルガ最近漸ク消費者ノ自覺ニヨリ採算有利ナル優良品ニ需要復スルノ徴候ヲ現ハシタリ
 従ツテ本品ノ移入ハ一時量的ニ著シク膨脹ノ趨勢ナリシモ本年ハ右事情ニ基キ多少之ヲ抑止シ得タル一方從來ノ濫賣ハ回收状態ヲ甚ダ不良ナラシメ之ガ是正ニ販賣ヲ自重セザルベカラザルニ至リ取引自ラ消極化シタル等ニ依リ一般需要遞増ノ大勢ナルニモ不拘本年ノ移入ハ量價何レモ二分内外ノ減少ヲ招キタリ

○絲類

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減額
	數量	價額	數量	價額	
小樽	5076	350	1779	390	△
東京	1084	110	1779	683	△
横濱	110	3100	1100	910	△
名古屋	463	6410	6410	1500	△
大阪	1544	112101	112101	20110	△
神戸	3758	10565	10565	7410	△
廣島	404	387	387	117	△
下關	360	219	219	166	△
門司	365	1800	1800	793	△
長崎	110	110	110	110	△
朝鮮	308	3736	3736	349	△
其他各地	195	15483	15483	315	△
計	1951	3081	15483	4031	△

種別別表

種類	昭和八年		昭和七年		増減額
	數量	價額	數量	價額	
綿織物	5076	6417	3413	1081	△
毛織物	1058	770	373	611	△
其他	105	105	105	105	△
計	6239	8292	3891	1797	△

本品ハ表示ノ如ク綿絲及毛絲ヲ主トセルガ本年ニ於ケル綿絲ハ米棉ノ減收爲替ノ暴落踵イデ印棉不賣紡績操短等ノ強材料ヲ入レ昨秋來相場殆ド續騰ノ一途ニ出デタル爲之ガ大量消費筋タル織布業者及靴下製造業者等ハ固ヨリ一般絲商モ買付ヲ警戒シ常用以外ノ手當ヲ見送リタルモ上述ノ如ク價格暴騰シタルト最近織布業者ガ從來ノ小巾生地綿布ノ行詰ニ鑑ミ大巾綿物ノ織布ニ乗替ヘ需要ヲ喚起シツ、アリシ折柄市況亦好轉之ガ生産ヲ促シ織絲ノ實需ニ進境ヲ見タルトニ因リ移入額ヲ激増シタリ、一方昨夏來急騰歩調ヲ迎リタル毛絲ハ本春一時反落ヲ示シタルモ其後産地羊毛ノ減收ヲ傳ヘ再ビ騰勢ニ轉ジ九月途ニ昭和四年初頭來ノ新高値ヲ示現シタル状態ナリシヲ以テ幾分需要ヲ阻止シタル憾ナキニアラザリシモ高値ニ支ヘラレ其ノ移入額増加シ尙其他ノ絲類モ大體消化良好ニシテ入荷ヲ進メタリ此ノ結果總移入額ハ前年ニ比シ三割ノ増加ヲ示シタリ

○綿織物及絹織物

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

内地貿易

移入重要品

綿織物及絹織物

仕出地別表	昭和八年		昭和七年		増減額
	價	額	價	額	
小樽	1000	1000	1000	1000	0
東京	735	735	735	735	0
横濱	35	35	35	35	0
名古屋	595	595	595	595	0
大阪	961100	879335	879335	879335	811765
神戸	437744	380446	380446	380446	57298
廣島	737	506	506	506	231
下関	36755	33035	33035	33035	3720
門司	4965	3675	3675	3675	1290
長崎	4	30	30	30	26
鹿児島	50	35	35	35	15
鹿兒島	50	100	100	100	50
沖繩	233	202	202	202	31
其ノ他ノ各地	150563	135445	135445	135445	15118
計					

本品ハ大部分綿布ニ屬シ本年内地ニ於ケル其ノ生産ハ前年ノ輸出好況ニ刺戟セラレ工場擴張ノ後ヲ承ケ著シク増産ヲ告ゲタルニ當リ本年ノ輸出期待ニ反シ且工賃激落ヲ見タル爲之ガ相場綿絲ノ暴騰ニ比シ意外ニ安値ヲ示セリ

從ツテ年初數月間ハ先行綿絲三百圓臺出現豫想サヘ行ハレ一時値惣買進ノ商況ヲ呈シタリ然ルニ島

内賣行ハ米價ノ不味及早魃等ニ祟ラレ豫期ノ伸展ヲ見ル能ハズ加フルニ對支伸繼輸出亦極度ノ不振ニ陥リタレバ手持筋ハ賣抜キニ焦慮シ辛ジテ滞貨ヲ免レタル状態ナリシヲ以テ上半期後半ノ移入ハ手控ヘラレタルガ下半年期ハ市況漸次恢復シ而モ先高氣配ヲ呈シタル爲幾分思惑モ出デ移入稍活況ヲ帶ビタリ

斯クテ本年ノ移入量ハ大體前年ニ比シ遜色ナキヲ得タル程度ニ止マリタルヲ以テソノ移入額ハ主トシテ相場ノ支配ヲ蒙リ前年ニ比シ一割三分ノ増加ヲ示シタルモノトス

○毛織物

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

仕出地別表	昭和八年		昭和七年		増減額
	價	額	價	額	
函館	205	205	205	205	0
東京	3108	3108	3108	3108	0
横濱	38	38	38	38	0
名古屋	2485	2485	2485	2485	0
大阪	156250	156250	156250	156250	0
神戸	3335	3335	3335	3335	0
門司	1110	1110	1110	1110	0
其ノ他ノ各地	965	965	965	965	0
計					

長崎 其ノ他ノ各地 計	昭和八年		昭和七年		増減額
	数量	金額	数量	金額	
	11,510,000	4,100,000	11,100,000	3,700,000	△ 400,000

本年ニ於ケル原糸ノ相場ハ年初來一時急暴落ヲ告ゲタルガ五月以降俄然姿勢ヲ革メタル爲一般製品ノ先高氣構ヨリ一齊冬物ノ手當ヲ急ギタルトコロ果シテ絲價ハ續騰ノ一途ヲ辿リ漸ク十月以後ニ至リテ些カ軟化セリ而シテ之ヲ前年ニ比較スレバ平均二割五分以上ノ高値ニ相當シタルガ移入毛織物ハ前述ノ如ク概ネ安値ノ仕入ニ係リ取扱業者ヲ利セルト共ニ需要ヲ阻止スルガ如キ相場ニアラザリシナリサレドモ實需前年ノ好況ノ反動トモ見ルベク意外ニ振ハザリシ爲其後補充買ノ必要ヲ多ク見ザリシノミナラズ高値ニ成ルベク手當ヲ見送ラレ畢竟前年ノ盛況ト對照シ量ノニ相當減差ヲ招キタルガ如キモ市價ノ昂騰ニ補ハレタルト舊臘來ノ隨性的商狀ニヨリ年初ノ移入比較的多カリシトニヨリ價額ニ於テ僅少ナガラ二分ヲ増加セリ

○がんに一囊 (故共)

本品ノ移入ハ前年ニ比シ數量減退シ價額増加セリ即チ左ノ如シ
仕出地別表

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減額
	數量	金額	數量	金額	
東京	64,000	1,376	30,500	7,288	△ 24,368
横濱	3,700	695	3,900	6,755	△ 9,400
名古屋	3,700	773	1,700	3,355	△ 10,000
大阪	37,300	1,476,700	33,700	948,733	△ 558,000
神戸	36,135	844,133	47,500	1,270,000	△ 1,938,867
廣島	700	110	3,500	2,000	△ 1,890
下關	26,400	520	10,150	7,833	△ 3,800
門司	4,000	912	10,150	7,833	△ 3,800
鹿兒島	380	70	100	30	△ 40
沖繩	1	1	100	30	△ 29
其ノ他ノ各地	2,500	535	1,150	30	△ 505
計	79,315	3,496,611	89,500	3,200,501	△ 296,110

種類	昭和八年		昭和七年		増減額
	數量	金額	數量	金額	
新がんに一囊	49,325	1,848,845	50,710	1,538,840	△ 1,400
故同	29,000	648,766	38,790	756,667	△ 97,901
計	78,325	2,497,611	89,500	2,295,507	△ 202,104

本品中新袋ハ主トシテ移出米及直接消費糖ノ包装ニ供セラレ故袋ハ一部雜用ヲ除キ殆ド原料糖ノ包装ニ使用セラル
本年ハ別項輸入ノ項ニ於テ記述セル如ク移出米用トシテノ需要ハ稍増加ヲ見タルモ内地製麻界ガ軍内地貿易 移入重要品 がんに一囊 二八一

種別	昭和八年		昭和七年		増減
	價	額	價	額	
横濱	17,754	7,600	17,754	7,600	△ 5,950
名古屋	6,876	6,000	6,876	6,000	△ 876
大阪	110,007	76,688	110,007	76,688	△ 33,319
神戸	1,466,355	2,092,344	1,466,355	2,092,344	△ 625,989
廣島	28,344	49,955	28,344	49,955	△ 21,611
門司	15,191	20,333	15,191	20,333	△ 5,142
長崎	5	300	5	300	△ 295
其ノ他ノ各地	103,968	9,000	103,968	9,000	△ 104,968
計	60,556	78,668	60,556	78,668	△ 18,112

種別表

種別	昭和八年		昭和七年		増減
	價	額	價	額	
地下足袋	36,944	53,379	36,944	53,379	△ 1,435
其他	33,622	16,659	33,622	16,659	△ 17,001
計	60,566	70,038	60,566	70,038	△ 9,963

本島民度ノ向上、衛生思想ノ發達等ニ伴ヒ本品需要ハ逐年遞増シツ、アルトコロ本年ハ更ニ市況ノ好轉農産土木事業ノ活況等ニ助成セラレ一層實需好調ヲ呈シタリ
從ツテ靴足袋ノ如キ即チ地下足袋以外ノ足袋類ハ之ニ順應シ且原絲高ニヨル相場ノ昂騰ヲ副因トシ

○履物類

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減
	價	額	價	額	
小樽	15	15	15	15	△ 0
東京	1,236	1,236	1,236	1,236	△ 0
横濱	490	96	490	96	△ 0
名古屋	83,344	7,083	83,344	7,083	△ 0
大阪	69,376	5,422	69,376	5,422	△ 0
神戸	600,333	5,978	600,333	5,978	△ 0
廣島	2,261	1,000	2,261	1,000	△ 0
門司	61	137	61	137	△ 0
下關	4,763	7,653	4,763	7,653	△ 0
其ノ他ノ各地	13,555	7,333	13,555	7,333	△ 0
計	2,296,556	23,595,654	2,296,556	23,595,654	△ 0

種別表	昭和八年		昭和七年		増額
	價	額	價	額	
靴	一三九四八三	一五四四五四	一三九四八三	一五四四五四	△
其他	九六一五	八三三〇〇	九六一五	八三三〇〇	△
計	一三九四八三	一五四四五四	一三九四八三	一五四四五四	△

本品ハ民度ノ向上ニ連レ需要比年膨脹ヲ累ネ移入モ殆ド之ニ随伴シテ伸展ヲ辿リツ、アリシガ本年ニ於テハ運動靴ノ大量供給者タル日本足袋會社ガ前項足袋ト同様前年本島ニ對シテ取扱高相應ノ原價割戻商策ヲ以テ引合ヲ進メ來リテ買氣ヲ大ニ煽リタル結果意外ニ多量ノ手持ヲ擁シテ本年ヲ迎フルコト、ナリ茲ニ相當手當ノ必要ヲ減ジ居リタルニ當リ更ニ護謨ノ生産制限、綿絲ノ暴騰爲替ノ低落等ヲ入レ製品相場著シク騰貴シタル爲見送商狀ヲモ呈シ靴類ノ移入極メテ振ハザリシヲ以テ其他ノ履物類ニ於テ市況ノ好調ヲ反映シ移入額益躍進ヲ告ゲタルモ以テ前者ノ不勢ヲ補フニ足ラズ結局前年ニ比シ三分ノ減退トナレリ

○紙

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ
仕出地別表

昭 和 八 年	昭 和 七 年	増 額
價	價	額
額	額	△ 減

小樽	函館	東京	横濱	名古屋	大阪	神戸	廣島	下關	門司	長崎	鹿児島	朝見	其他各地	計
四〇〇	四〇〇	一五三三	一六〇〇	一八〇〇	二二〇〇	二七〇〇	三〇〇〇	三三〇〇	三六〇〇	三九〇〇	四二〇〇	四五〇〇	四八〇〇	五一〇〇
△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

比年不振ニ傾キツ、アリシ本邦紙界ハ三大製紙會社ノ合同ニ依リテ生産ノ調節濫賣ノ矯正等ヲ見ルニ至リ旁對外特ニ滿洲輸出ノ盛況ヲ加味シテ面目ヲ一新シ紙價モ昨秋來年初ニ至ル間急步調ヲ以テ騰貴シ爾來大體高値安定裡ニ本年ヲ經過シタリ
而シテ島内ニ於ケル需要ハ先年來財界不況ニ因ル經理緊縮節約思想ノ高調等ニ聊カ抑制セラレタルガ本年ハ市況好轉シ文化ノ向上ニ拍車ヲ加ヘテ相當恢復ノ色ヲ表ハシタリ然ルニ從來ト異リ販賣方針ノ消極化ニヨリ之ガ移入ハ寧ロ逼迫狀勢ヲ示シ爲ニ島内ハ在庫ノ繰合セニ依リテ需給ヲ調節シ年

來ノ手持品ヲ一掃シ得ルノ好結果ヲ齎シタル状態ニシテ入荷ハ實需ニ伴ハザリシガ紙上紙價ノ強調ナルニ主因シ前年ノ移入額ニ比シ一割四分ヲ増加シタリ

○書籍及雜誌

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

移入地	昭和八年		昭和七年		増減額
	數量	價額	數量	價額	
小樽	100	100	6	6	94
函館	30	30	1	1	29
東京	104,893	5,553	101,005	3,100	3,880
濱京	2,524	310	2,105	97	419
大屋	84	97	1,492	361	267
神戶	34,374	3,010	31,005	2,905	105
大阪	19,096	1,492	14,923	4,173	369
關島	1,523	177	1,577	26	54
下關	218	26	266	48	48
廣島	16,551	533	15,330	1,221	1,008
門司	30	3	3	0	3
長崎	6	1	3	2	3
鹿兒島	100	100	1	1	99
沖繩	100	100	1	1	99

朝鮮	其他各地	計
50	310	360
185	310	495
30	670	700

本項ニハ標題ノ如ク雜誌ヲ包含スト雖速達ヲ要スル關係上其ノ大部分ハ船車連絡荷物又ハ小包郵便物トシテ取扱ハレ茲ニ計上セラレタル移入額ハ殆ド書籍ニ限レリ而シテ本品ノ需要ハ文化ノ向上ニ伴ヒ年々増加ノ趨勢ナルハ言ヲ俟タザレドモ最近ハ一時流行シタル全集圓本ニ對スル世人ノ興味著シク廢レ豫約購讀者減退セルト雜誌ノ附録戰旺盛トナリ單行本ノ賣行ヲ阻害シタルトニ依リ移入頓挫ノ情景ヲ呈セリ

サレド偶本年ニ於テハ發賣元ニ引上ダラレタル新刊圖書ニシテ割安ニ仕入レラレ之ヲ携へ本島出張販賣ヲ試ミタルモノアリシト前年ノ顯著ナル不況ノ反動トニ依リ前年ニ比シ七分ノ増加ヲ來セリ

○せめんと

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

昭和七年ノ數量ハ斤單位ヨリ換算シタルモノナリ

移入地	昭和八年		昭和七年		増減額
	數量	價額	數量	價額	
東京	49,320	1,846	10,173	310	38,147
東					10,576

地域	昭和八年		昭和七年		増減	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
横濱	二五〇〇〇	六〇〇	一	一	二五〇〇〇	六〇〇
大阪	五〇一九	二〇四	一	一	五〇一九	二〇四
神戸	三三三三	一三〇	一	一	三三三三	一三〇
廣島	四七六〇	一〇〇	一	一	四七六〇	一〇〇
下關	五三〇四	二九六	一	一	五三〇四	二九六
門司	三九四八	九七	一	一	三九四八	九七
其ノ他ノ各地	四二五六	一〇三	一	一	四二五六	一〇三
計	九三三三	二〇〇	一	一	九三三三	二〇〇

近年本邦ノせめんと界ハ各社ノ生産施設ノ競争的擴張ニ伴ヒ他ニ殆ド類例ナキ高度ノ操短ヲ餘儀ナクセラレ殊ニ前年九月乃至十一月ノ如キハ實ニ五割七分五厘テフ記録的減産ヲ行ヒタル状態ナルガ其ノ後時局匡救事業ノ恩惠ヲ蒙リ旁右高率操短ノ效果ヲ副因トシ漸ク愁眉ヲ開キ本年ハ年初二箇月ニ於ケル五割五分ノ生産制限ヲ最高ニ四月ノ四割ヲ最低ニ其他概ネ五割程度ニ緩和セラレタリ本島ニ於テハ直接時局匡救事業ニヨル需要トシテ見ルベキモノナカリシモ官廳工事ヲ首メ會社民間ニ於ケル土木建築工事著シク活況ヲ呈シ就中日月潭發電工事ニ於テ巨額ノせめんとヲ消費シタル爲島内ニ唯一ノ工場ヲ有スル淺野せめんと會社ノ如キ其ノ生産ヲ以テ同社ニ割當テラレタル島内需要ヲ充スニ足ラズ内地工場生産品ヲ多量ニ補給シタル状態ナリシヲ以テ旁別項記述ノ如ク小野田せめんと會社ガ大連産ニ代ヘ内地品ヲ供給セル事情ト相俟ツテ前年ニ比シ數量八割一分價額八割五分ノ激増ヲ招來セリ

○陶磁器

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

地域	昭和八年		昭和七年		増減	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
東京	七三三七	四三六三	一	一	七三三七	四三六三
横濱	二二四四	七三三	一	一	二二四四	七三三
名古屋	九〇九三	三二七三	一	一	九〇九三	三二七三
大阪	二九二五	二二八五	一	一	二九二五	二二八五
神戸	九八三〇	八三〇四	一	一	九八三〇	八三〇四
廣島	三三六六	三〇七六	一	一	三三六六	三〇七六
下關	二二五九	八七〇	一	一	二二五九	八七〇
門司	一三〇八	一四五三	一	一	一三〇八	一四五三
長崎	五七	五四六	一	一	五七	五四六
鹿兒島	五八	二二	一	一	五八	二二
沖繩	一三三	六六	一	一	一三三	六六
其ノ他ノ各地	九六八	一〇	一	一	九六八	一〇
計	一三七八	二九三	一	一	一三七八	二九三

本品ハ日用ノ食器及器物類ノ外碍子たいる等各種ノ施設材料ヲモ包含シ文化ノ向上ニ伴ヒ需要自然増加ヲ迎リ本年モ大勢其ノ例ニ漏レズ唯碍子以外ノモノニ於テハ概ネ技術ノ進歩ニヨル價格ノ低廉

化ガ移入額ノ伸展ヲ抑止シ其ノ進境ヲ認メ得ザリシガ如キモ臺灣電力會社ガ日月潭發電所建設ニ伴
 フ送電或ハ變電等ノ諸施設ニ大量ノ碍子ヲ要シ其ノ移入激増シタルニ職由シ前年移入額ニ對シ更ニ
 一割七分ノ増加トナレリ

○鐵

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ
 仕出地別表

昭和七年ノ數量ハ斤單位ヨリ換算シタルモノナリ

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減
	數量	價額	數量	價額	
小樽	15,000	5,400	11,700	6,200	△
函館	63,671	13,707	76,581	9,680	△
東京	14,449	2,100	7,713	9,566	△
横濱	11,500	1,100	3,696	1,179	△
名古屋	30,000	5,300	30,000	4,800	△
大阪	6,935	1,300	9,137	1,878	△
神戸	5	0	4,610	5,490	△
廣島	1,954	705	978	404	△
下關	4,787	1,193	3,457	6,169	△
門司	3,350	2,000	4,757	2,000	△
長崎	29	184	475	754	△
鹿兒島	29	184	475	754	△

種別表

種別	昭和八年		昭和七年		増減
	數量	價額	數量	價額	
沖繩	25,610	9,500	6,018	1,670	△
朝鮮	11,047	3,790	8,126	3,169	△
其他各地	10,000	3,450	6,373	3,366	△
計	45,657	16,740	19,517	8,205	△
塊錠	19,821	10,865	14,435	5,568	△
條及	18,353	24,599	20,310	21,040	△
板及	35,939	14,659	7,650	4,843	△
線及	9,184	1,734	10,690	1,673	△
葉及	26,475	9,735	21,037	5,795	△
筒及	9,919	2,060	8,607	1,540	△
其他	5,904	1,471	6,766	1,437	△
計	133,896	71,270	110,567	42,277	△

昨冬來鐵價急騰ヲ演ジタル爲爾來本春ニ互ル取引ハ極端ナル實需本位ノ商狀ヲ呈シ更ニ四月以降相
 場一變落調ニ轉ズルヤ又先安ヲ豫想セシムルニ至リ在庫品ヲ以テ需要ニ應ジ新規買付見送ノ現象ヲ
 持續シ畢竟本年ノ移入ハ徹頭徹尾消極的ニ終始セリサレバ實需ニ於テ相當進展ナキ限リ移入減少ノ
 已ムナキニ至リシモノアリ即チ條鋼類鐵板類鐵管類ノ三者之ニ屬セルガ前記以外ノ各種鐵類ハ消費

ノ激進ニ依リ相當増加ヲ告ゲタリ、就中れゝるハ官線ヲ首メ鑛山其他土木方面ニ需要旺盛ナリシ爲旁前年ノ入貨過少ノ反動ヲ以テ激増シ又鐵線ハ主トシテ治水及埤圳工事ニ銑鐵ハ機械工場等ノ手入改修ニ各消化良好ヲ示シ葉鐵ハ主トシテ輸入ノ不利ヲ入レ國産品ニ替リ尙其他ノ鐵ニ於テハ鐵工業ノ進歩發展ニ依リだらい粉切鐵等ノ需要著シク據頭シ夫々移入膨脹シ結局合計ニ於テ數量五分ヲ増進シタルガ價額ハ相場高ニ基キ三割一分ノ増加ヲ示シタリ

○銅

本品ノ移入ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

昭和七年ノ數量ハ斤單位ヨリ換算シタルモノナリ

東 横 名 大 神 廣 下 門 沖	京 濱 屋 阪 戶 島 關 司 繩	昭和八年		昭和七年		増減	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額
		476,696	5,459,900	497,497	7,483,000	△	1,900,000
		156,650	1,623,500	276,670	9,500,000	△	7,876,500
		43,350	4,100,000	34,900	3,100,000	△	977,000
		306,311	3,688,000	83,499	2,000,000	△	3,688,000
		199,930	1,970,000	311,111	2,655,000	△	3,111,000
		1,230	1,200,000	1	1,000,000	△	200,000
		1,150	1,150,000	336	330,000	△	820,000
		176,600	1,718,000	5,520	4,550,000	△	3,550,000
		300	300,000	1	1,000,000	△	700,000

種別表

其ノ他ノ各地	計	昭和八年		昭和七年		増減	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額
		60	900,000	5	300,000	△	900,000
		99,994	1,019,994	100,177	1,438,770	△	1,013,776
		39,950	73,735	17,937	129,888	△	55,953
		27,411	113,133	1,586	26,126	△	28,717
		17,133	17,542	10,183	7,767	△	10,775
		99,994	1,019,994	110,017	1,468,771	△	1,013,776

本品中線ハ送電線及電話線用ヲ主トシ、板ハ家屋建築、造船等ニ、其他ニ屬スルモノハ少量ノ條竿、筒管等ヲ除キ大部分銅塊ニシテ機械器具、車輛部分品等ノ鑄造ニ供セラル、モノ最モ多シ

而シテ本年ハ米國財界ノ好轉ヲ入レ銅ノ價格著シク騰貴シタル爲例年實需ニ大差ナキ板類ニ於テハ一般買付ヲ手控ヘラレタルガ需要極メテ好調ナリシ銅塊ハ旁前年ニ於ケル手當不足ノ反動ト共ニ移入ヲ激進シタリ、然ルニ線ニ於テ其ノ大量需要者臺灣電力會社ガ日月潭ニ電源ヲ開發シタル關係上之ガ送電其他ノ諸施設ニ本年モ尙多量ノ銅線ヲ要シタルガ既ニ大量手當濟ノ後トテ到底前年ノ比ニアラザリシヲ以テ其ノ移入激減シタル爲畢竟計ニ於テ數量五割一分價額三割一分ノ各顯著ナル減退ヲ招キタリ

○釘類

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ
仕出地別表

種別表	昭和八年		昭和七年		増減額
	數量	價額	數量	價額	
東京	42,511	2,951	45,131	2,425	△3,616
横濱	29,544	9,755	29,966	2,966	△3,211
名古屋	59,184	16,964	38,777	3,044	△20,387
大阪	36,866	3,866	9,966	2,066	△16,800
神戸	110,810	3,666	113,666	2,066	△2,856
廣島	10,544	6	5,166	1,366	△9,178
下關	6	6	5,166	5,166	△5,160
門司	10,544	10,544	5,166	5,166	△5,378
沖繩	10,544	10,544	5,166	5,166	△5,378
其ノ他ノ各地	9,755	9,755	6,844	6,844	△2,911
計	335,811	104,066	344,333	64,066	△39,267
丸	335,811	104,066	344,333	64,066	△39,267
其ノ他ノ釘	1	1	1	1	△

昭和七年ノ數量ハ斤單位ヨリ換算シタルモノナリ

本品中前掲丸釘ノ外ハ鐵骨建物、橋梁、船舶、車輛等ノ建造用竝ニ鐵道敷設用ノりべつと、ぼーるとなつと、すばいく等ヲ主トシ本年丸釘ニ於テハ家屋ノ建築改修其他製函荷造等ノ繁忙ナルニ伴ヒ消化益良好ニ趨キタルモ相場暴騰セル爲之ガ移入ハ著シク手控ヘラレ價額ノミ増進セリ而シテ其他ノ釘類ハ鐵道部ノ松山工場、臺灣電力會社ノ送電用鐵塔其他三五公司ノ製糖工場等建設ニ伴フ二三ノ大口需要殆ド影ヲ潜メタルモ之ニ代リ架橋工事ノ進展、鐵道建設或ハ其ノ改修工事ノ擡頭、日月潭水門工事着手等ニ大量需要ヲ見ルニ至リタル外一般小口消費亦旺盛ナリシ爲旁相場ノ昂騰ヲ入レ移入額激增シタルヲ以テ結局計ニ於テ四割一分ヲ大膨脹ヲ告ゲタリ

○家屋、橋梁、船舶、船渠等ノ建設材料

本品ノ移入ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ
仕出地別表

昭和七年ノ數量ハ斤單位ヨリ換算シタルモノナリ

種別表	昭和八年		昭和七年		増減額
	數量	價額	數量	價額	
東京	131,180	4,034	126,833	4,622	△508
横濱	119,900	2,530	114,733	1,559	△931
名古屋	263,556	4,749	247,400	5,740	△1,991
大阪	257,733	3,942	260,335	3,044	△1,093
神戸	180	180	180	180	△
下關	27,944	27,944	28,494	3,534	△5,550
門司	27,944	27,944	28,494	3,534	△5,550
沖繩	27,944	27,944	28,494	3,534	△5,550
其ノ他ノ各地	68,554	1,303	98,333	1,303	△29,779
計	685,554	13,033	683,333	13,033	△2,221

本品ハ從來橋梁材ヲ主トシ外ニ工場ノ建築材又ハ電線支架用鐵塔材等ヲ交ヘ前年ニ於テハ架橋工事引續キ繁忙ノ折柄日月潭電源ノ開發ニ伴フ送電變電等ノ諸施設擡頭ト鐵道部松山工場並ニ三五公司新式製糖工場ノ新設等トニ入津殺到未曾有ノ記録ヲ示シタリ

然ルニ本年ハ産業道路ノ擴充ニ伴フ架橋工事ハ更ニ伸展シ橋梁材ノ需要一層旺盛ヲ極メタル外新ニ金瓜石鑛山選鑛及精練工場ノ建設、日月潭發電所水門ノ著工等ヲ見而モ一般建築界ニ於テ近時鐵骨式建物多キヲ加ヘツ、アル等好材料尠カラザリシモ松山鐵道工場、三五公司製糖工場等ニ對スル手當已ニ前年ヲ以テ一段落ヲ告ゲンノ大口需要ヲ失ヒタル結果竟ニ數量於テ三割一分ノ著減ニ歸シ價額ハ主トシテ鐵價ノ騰貴ニ支ヘラレ僅ニ二分ノ減少ニ止マリタリ

○絶縁電線

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ
仕出地別表

東 横 名 大 神 下 京 濟 屋 阪 戶 關	價 額		
	昭 和 八 年	昭 和 七 年	増 減
東 京	二五八六	二四七九	△ 一〇六
横 濱	八〇〇四	七三〇〇	△ 七〇四
名 古 屋	二四	一	△ 二三
大 阪	三六五	四一九八	△ 一八三
神 戶	七九三	一〇六六	△ 二七三
下 關	一	一四	△ 一三
計	三六〇〇	三六〇〇	△ 〇

門 朝 其 司 鮮 地 各 他 其	價 額		
	昭 和 八 年	昭 和 七 年	増 減
門 司	一六四六	一七〇七	△ 六一
朝 鮮	一〇〇	一〇〇	△ 〇
其 他 各 地	三四	三〇〇	△ 二六六
計	一六八〇	二〇〇七	△ 三二七

本品ハ送電用架空線、引込線室内コード及電話用鉛被紙けいぶる等ヲ主トシ例年臺灣電力及其他ノ電燈會社並ニ遞信部ニ於テ最モ多ク需要セラレ固ヨリ年ニ消長ハアレドモ近年移入著シク増加ノ大勢ニアリ、然ルニ本年ハ電力電燈關係ノモノニ在リテ臺灣電力會社ガ前年多量ノ見越移入ヲ行ヒテ持越在庫豊富ナリシトコロ偶豫定ノ送電施設ニ模様替ヲ企劃シタル爲右手持ノ一部ニ相當ノ用品ヲ生ジ之ヲ島内實需方面ニ轉賣シタルニ由リ一般ノ對内地仕入ヲ控制シタルニ加ヘ電話線ニ於テ遞信部ノ架線或ハ地下線工事等亦閑散ヲ呈シ需要不振ナリシ結果前年ノ移入好調ナリシヲ副因トシテ茲ニ一割三分ノ減差ヲ齎シタリ

○工匠具、農具及同部分品

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ
仕出地別表

東 小 京 樽	價 額		
	昭 和 八 年	昭 和 七 年	増 減
東 小	一〇〇	一〇〇	△ 〇
京 樽	一〇五八二	六五三九	△ 四〇四三
計	一〇六八二	六六三九	△ 四〇四三

内地貿易 移入重要品 鐵製品

地	昭和八年		昭和七年		増減
	價	額	價	額	
横濱	五、七五	三、七五	九、四三	一、八五〇	△
名古屋	五、四二	三、七〇	九、四三	一、八五〇	△
大阪	一、五〇〇	一、八四八	一、七六七	一、八三〇	△
神戸	一、五三七	一、八〇〇	一、七六七	一、八三〇	△
廣島	八	二〇九	二、七四	二〇九	△
下關	五七〇	一八四	七、五四	一八四	△
門司	三、七四	一、九七九	三、五三	一、九七九	△
長崎	八	二〇	一〇〇	二〇	△
鹿兒島	二〇〇	一〇	三五〇	一〇	△
沖縄	一	一	三五〇	一	△
朝鮮	三、三〇八	九七九	九七九	三、三〇八	△
其他各地	四、九七一	四、〇六六	四、〇六六	四、〇六六	△
計					

農工業ノ發展土木建築業ノ振興等ニ伴ヒ本品ノ需要ハ比年激進シ移入亦略之ニ隨伴シ發展ヲ告ゲ來リタルガ最近ニ至リ大農式ノ發達農耕法ノ機械化其ノ他島内ニ於ケル割安生産品ノ對抗的進出等ニ阻マレ農具類ノ移入ニ於テ聊カ衰色ヲ兆シタリ

サレド一方諸工業並ニ土工事業ニ般販ヲ呈シ之等方面ノ需要益旺盛ニ趨キ旁市況ノ好轉ニ入荷ヲ誘ヒタル爲鐵價ノ騰貴ニ因ル一般相場高ヲ副因トシテ本年移入額ハ尙四分ノ増加ヲ來セリ

○鐵製品

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ
仕出地別表

地	昭和八年		昭和七年		増減
	價	額	價	額	
小樽	九〇五	九三	八〇	九三	△
函館	六、二五〇	三、四九七	三、四九七	三、四九七	△
東京	四、二二五	一、一四八	三、四九七	一、一四八	△
横濱	九、七九	三、五四八	七、四三	三、五四八	△
名古屋	一、六八三	一、八五二	一、四六八	一、八五二	△
大阪	五、七七三	一、八五二	五、四三	一、八五二	△
神戸	三、三九七	一、四八八	一、九四九	一、四八八	△
廣島	三、九六	一、三九	三、八〇	一、三九	△
下關	六、一六八	一、九〇五	四、七〇九	一、九〇五	△
門司	四、〇五	三、八〇	三、八〇	三、八〇	△
長崎	六六	六六	一〇	六六	△
鹿兒島	二七	一七	一〇	一七	△
沖縄	三〇	一七	一〇	一七	△
朝鮮	三、八二〇	三、四九	四、五九	三、四九	△
其他各地	三、七〇八	八、五七六	三、九五六	八、五七六	△
計					

本品ハ種類頗ル廣汎ニ及ビ其ノ需給ノ狀勢ヲ具ニ究ムルコト極メテ困難ナルガ文化ノ向上ニ伴ヒ一般物資ノ需要旺盛ニ向ヘルト同一ニ本品亦逐年顯著ナル増勢ヲ辿リツ、アリ

内地貿易 移入重要品 鐵製品

而シテ本年ハ經濟界ノ動向ニ觀テ一般日用品ノ需要好調ナリシハ疑ヲ容レザル所ナルガ更ニ工業界ノ著シキ躍進就中鑛山及油田ノ開發竝ニ其レ等施設ノ擴充ニ於テ多大ノ鐵器類ヲ需要セラレ又鳳梨罐詰大增産ハ之ガ半製容器ノ内地供給量ヲ夥シク増大シタリ

斯ノ如ク本年ハ總括的ニ需要激進シタル上昨夏來ノ鐵價高ヲ入レ一般相場著シク騰貴シタル爲本品移入額ハ一層助長セラレ二割八分ノ著増ヲ示セリ

○蓄音器、同部分品及附屬品

本品ノ移入額ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減
	價	額	價	額	
小樽	175	14	14	175	△
東京	10110	658	10090	658	△
横濱	118	133	133	118	△
名古屋	612	336	336	612	△
大阪	4440	3090	3090	4440	△
神戸	4440	3090	3090	4440	△
廣島	470	309	309	470	△
下關	82	115	115	82	△
門司	82	115	115	82	△
長崎	82	115	115	82	△
鹿兒島	82	115	115	82	△
其他各地	30100	5350	5350	30100	△
計					

本品ハらぢおノ發達ト殆ド竝行的ニ需要増進シタルガ最近器械ニ於テハ一巡普及シタルモノ、如ク稍頽勢ヲ兆セリ

然ルニレコードノ需要ハ益好調ヲ辿リ此ノ間新會社ノ格安品ヲ多量加へ來リシニ不拘尙其ノ移入額ヲ増大シタル爲辛ジテ之ヲ補ヒ僅少ノ増加ヲ告ゲタリ

○鐵道車輛及同部分品

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

仕出地	昭和八年		昭和七年		増減
	價	額	價	額	
東京	1616	3400	1110	3400	△
横濱	50	978	978	50	△
名古屋	4000	597	597	4000	△
大阪	833	474	474	833	△
神戸	3105	586	586	3105	△
門司	450	332	332	450	△
其他各地	5949	315	315	5949	△
計	1493	315	315	1493	△

本品ハ例年鐵道部ノ所要品最モ大量ヲ占メ其他ニ於テハ製糖會社鑛山營林所方面ノ需要ニ屬スルモノヲ主トセリ

然ルニ鐵道部ニ於テハ前年來車輛部分品ノ買付漸減シ且ガそりん機動車ニ在リテモ本年ノ移入僅ニ二輛ニ過ギズ前年ノ七輛ニ對シ甚ダ不勢ニ畢レリ
 斯ル實情ナルニ加ヘ更ニ一般ノ需要品モ偶前年ニ於テ概ネ手當濟ナリシ爲移入閑散ヲ呈シ結局五割一分ノ激減ヲ見ルニ至レリ

○自動車、同部分品及附屬品

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

仕出地	價		増減
	昭和八年	昭和七年	
小樽	100	100	0
函館	155,576	149,335	6,241
東京	333,876	445,576	-111,700
横濱	7,777	8,803	-1,026
名古屋	1,455,555	1,355,955	99,600
大阪	48,533	46,999	1,534
神戸	326	336	-10
廣島	1,555	400	1,155
下關	5,555	29,266	-23,711
門司	5,555	110	5,445
長崎	5,555	110	5,445

仕出地	價		増減
	昭和八年	昭和七年	
鹿兒島	155	100	55
沖繩	55	55	0
朝鮮	84,222	33,333	50,889
其他各地	3,457,971	2,265,055	1,192,916
計	3,457,971	2,265,055	1,192,916

本品ノ需要ハ時勢ノ進運ニ伴ヒ益普及シツ、アルニ當リ近年時代ノ要求ニ應ジテ廉價ナル低級車ガ提供セラレ、ニ至リテ一層新陳代謝ヲ旺シナラシメ移入急速ナル進展ヲ告ケ來レリ然ルニ本年ハ前年來ノ鐵價暴騰ト護謨市況ノ回復トニ因リ製造元ニ於テ屢次値上ヲ策シタル爲越年後モ値上未然ニ手當セントスル思惑買依然活況ヲ呈シタルガ懸テ手持意外ニ増嵩シ俄然反動的手控商勢ニ轉ジ下半期ニ於ケル移入極メテ不振ニ傾キタル結果前半ノ盛況モ殆ド抹消セラレ僅ニ三分ノ増加ニ止マリ需要界ノ實勢ヨリ看ルトキハ甚ダ不勢ヲ示シタリ

○自動車、同部分品及附屬品

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

仕出地	價		増減
	昭和八年	昭和七年	
東京	333,876	445,576	-111,700
横濱	7,777	8,803	-1,026
計	341,653	454,379	-112,726

地名	昭和八年		昭和七年		増減額
	数量	金額	数量	金額	
名古屋	1,309	5,849	1,559	6,494	△
大阪	5,503	23,394	3,894	16,449	△
神戸	1	10	10	10	△
下關	187	751	1,442	5,285	△
門司	5,000	19,000	1	5	△
長崎	26	106	1	5	△
朝鮮	5,425	21,750	1	5	△
其他各地	27,464	104,130	1,413	5,354	△
計					

前年上半期ニ於テ市況好轉ヲ氣構ヘラレ旁爲替ノ落調ヲ眺メ一般先高ヲ豫想シ買進ミタル爲一時本品ノ移入ハ恢復ノ氣配ヲ呈シタルモ其後對米爲替奔落ヲ累ネ加フルニ關稅ノ増課ヲ見ル等二重ノ強材料ニ驅ラレ相場逐月騰貴シ昨冬來途ニ金輸出再禁止前ニ比シ殆ド倍値ヲ唱フルニ至リシ爲商勢全ク頓挫シ本年自動車ノ移入臺數ハ前年ノ三百二臺ニ對シ一舉百五臺ノ激減ヲ招キタリ然ルニ斯ノ如キ新車購入ノ手控ハ應急修繕ニ依ル故車ノ活動ヲ誘致シ部分品ノ需要ヲ特ニ促進スルノ現象ヲ呈シタルト新ニ交通局ガ乗合自動車ノ營業ヲ開始シ二十七臺ノ大型自動車ヲ移入シタルトニ基キ相場高ヲ映シテ移入價額ハ反ツテ一割八分ノ増加ヲ來シタリ

○木材

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ仕出地別表

地名	昭和八年		昭和七年		増減額
	数量	金額	数量	金額	
小樽	5,477	110,000	3,350	33,111	△
函館	1	1	1	110	△
東京	3,348	5,369	3,255	4,334	△
横濱	935	1,893	1,611	3,771	△
名古屋	3,652	3,483	3,013	2,009	△
大阪	1,474	11,380	2,550	15,569	△
神戸	11,019	11,035	3,494	19,825	△
廣島	7,496	4,534	7,839	4,489	△
下關	8,462	7,599	4,233	4,258	△
門司	19,371	14,069	3,634	16,363	△
長崎	3,404	5,104	4,074	3,571	△
鹿兒島	3,504	1,504	1,696	1,007	△
沖繩	3,504	1,484	4,605	1,510	△
朝鮮	5,425	21,750	5,585	5,011	△
其他各地	5,425	21,750	4,413	25,785	△
計	87,636	327,336	87,525	549,196	△

内地貿易 移入重要品 木材

種別表	昭和八年		昭和七年		増減
	數量	金額	數量	金額	
杉材	丸太	三二五、八三三	一八六、六三三	四九〇、三六三	△
	其他ノ杉材	二四八、〇三二	二二九、四四五	三四七、五五五	△
計	五七三、八六五	四一六、〇七八	八三七、九一八	△	
松材	丸太	一八七、四二六	一〇〇、一四三	三六二、四四〇	△
	其他ノ松材	六八、一三三	六〇、一四二	一七〇、七六六	△
計	二五五、五六八	一六〇、二八五	五三三、二〇六	△	
其他ノ木材	丸太	四三、〇〇三	一九、二九〇	三三、六七五	△
	其他ノ木材	三九、七七五	三三、三三三	三三、六七五	△
計	八二、七七八	五二、六二三	六七、三五五	△	
合計	八四六、二二二	六二九、三三八	一、四三九、一四五	△	

前年來島内土木建築工事漸ヲ逐フテ活況ヲ加ヘ木材ノ需要亦之ニ伴ヒ遞増セリ
 從ツテ本年ニ於ケル本品移入ハ恰モ輸入困難ナル福州材ノ需要ヲ移入材ニ轉向セルモノアリシニ依
 リ一層促進セラルベキ實勢ナリシトコロ偶前年ニ於テ先高豫想ノ思感買擡頭シ本年へ多量ノ在庫ヲ
 持越シタル折柄本島檜材ノ内地引合著シク増加シ之ガ爲其ノ餘材タル下級材ノ割安提供ヲ可能ナラ
 シメ島内需要ガ相當之ニ向ヒタルノミナラズ木材市價ノ上騰ニ刺戟セラレ植林地ノ各種新造成材亦
 市場ニ出廻リ更ニ又内地ニ於テハ北海材ノ出材制限ヲ見越シテ賣惜ノ傾向ヲ呈シ相場亦極メテ強調
 ニシテ引合不利ナリシ爲彼是取引ヲ阻害シ竟ニ入貨ハ前年ト擇ブ所ナキ結果ニ終リ價額ニ於テ一割

四分ノ増加ヲ告ゲタリ
 尙材種及仕出地ニ就キ消長顯著ナルモノヲ擧グレバ前述ノ如キ事由ニ依リ北海松材最モ割高ナリシ
 爲一部需要杉材ニ替リ前者ノ主要取引地大阪及神戸ニ減退シ後者ノ大量供給地即チ前表中其ノ他ニ
 屬スル勝浦ニ著増シ其他ノ木材ハ金山炭坑等ヲ消費者トスル沖繩産杭木ガ相場高ニ依リ島内雜木又
 ハ内地産松材等ニ掣肘セラレタルニ主因シ減少セリ

枕木

本品ノ移入ハ前年ニ比シ數量減退シ價額増加セリ即チ左ノ如シ
 仕出地別表

種別表	昭和八年		昭和七年		増減
	數量	金額	數量	金額	
東京	古	一三三、五三	一三三、五三	九七、〇〇	△
	京	一	八五、三〇	九七、〇〇	△
名古屋	古	二九七、八	二〇八、六	一四、六	△
	阪	三三八、八	三三九、五	一、〇〇	△
大分	戸	三六、二七	四二、三九	三三、九	△
	島	一	一四、六五	二、八	△
廣門	司	一	一	一	△
	地	一	一	一	△
其他ノ各地	計	三三、七五	一五、四〇	九、六七	△
	計	六三、六二	四三、三九	四四、九	△

本品ハ例年製糖會社ノ需要ニ屬スルモノ最モ多ク鐵道部所要品之ニ亞ゲルガ近年ハ各方面共施設一

内地貿易

移入重要品

枕木

巡シタル爲纒ニ鐵道部複線工事用ノモノ、外ハ殆ンド補給用品ニ止マレリ
 而シテ前年ニ於テハ鐵道部所要品ノ多クガ島内品ニ轉向シタル反面製糖會社々線用ガ糖況好轉ノ折
 柄先高豫想ニ誘ハレ買付旺盛ナリシ爲本品ノ移入ハ數量ニ於テ増加シ價額ニ於テ退嬰シタルトコロ
 ナルガ本年ハ果シテ相場急騰ヲ告ゲタル爲一般社線用ハ在庫豊富ヲ一因トシテ著シク買控ヘラレ又
 官線用ニ於テモ常用買ニ止メラレタルト共ニ可及的島内材ヲ使用セラレ竟ニ數量ニ於テ一割二分ノ
 減退ヲ招クニ至レリ
 然レドモ右ハ主トシテ私線用小枕木ノ入減ニ基ケルモノニシテ價額ニ對シテノ影響輕微ナルヲ得タ
 ルニ當リ相場騰貴ノ反響大ナリシ爲價額ハ僅カ二分ニ過ギザレドモ反ツテ増加セリ

○仕組板 (各種)

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

仕出地	昭和八年		昭和七年		増額
	價	額	價	額	
小樽	1.00	1.57	1.57	1.57	△
東京	9.7	2.55	2.55	2.55	△
名古屋	3.9	3.9	3.9	3.9	△
大阪	2.2	2.2	2.2	2.2	△
神戸	2.2	2.2	2.2	2.2	△
廣島	3.8	5.0	5.0	5.0	△
下關	3.8	5.0	5.0	5.0	△
計	33.0	33.0	33.0	33.0	△

仕出地	昭和八年		昭和七年		増額
	價	額	價	額	
鹿島	5.9	3.3	3.3	3.3	△
沖繩	5.5	2.7	2.7	2.7	△
朝鮮	1.4	2.6	2.6	2.6	△
其他各地	5.1	1.7	1.7	1.7	△
計	17.9	10.3	10.3	10.3	△

本品ハ鳳梨罐詰酒精茶、酒類樟腦、鮮魚等ノ包装用箱板ヲ主トセルガ近年ハ移入北海松ヲ以テスル島内
 製板ヲ促シツ、アルニ加ヘ本島産紅檜、梅等ノ餘材ヲ利用シ或ハ雜木ヲ以テ生産セラレ、モノ亦著シ
 ク増加セリ、是レ採算關係ニ基クハ言ヲ俟タザルモ特ニ本年ハ北海松材ノ相場漸騰ヲ辿リタル爲後
 即チ材料共ノ島内自給ヲ著シク促進シタリ、之ガ爲本品ノ需要ニ於テハ鳳梨罐詰茶、酒精鮮魚其他本品
 消費筋ノ一齊的好況ニヨリ増進ヲ告ゲタルモ移入ハ抑壓セラレ相場高モ竟ニ反響ヲ齎スニ足ラズ四
 分ノ減退ヲ示シタリ

○製帽原料

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

仕出地	昭和八年		昭和七年		増額
	價	額	價	額	
大板	1.0	1.5	1.5	1.5	△
神戶	3.9	3.9	3.9	3.9	△
計	3.9	3.9	3.9	3.9	△

本品ハ極メテ少量ナル麥稈真田ヲ除キテハ殆ド歐米向タル紙帽麻帽ビすこす帽等ノ原料ニ屬シ本島製帽界ノ盛衰ハ即チ本品ノ移入消長ニ關與スルトコロナルガ近年神戸商館ノ海外帽況並ニソノ流行等ニ對スル機敏ナル觀察ト應接ハ今日ノ如キ本島製帽業ノ大ヲナサシメ同時ニ之ガ移入ヲ著シク増大セシメタリ殊ニ本年ハ別項移出帽子ノ項ニ於テ記述セル如ク歐米筋ノ前年ノ買控反動景氣ノ恢復紙帽ノ流行等ニ依リ入註殺到シ島内製帽界ハ未曾有ノ活況ヲ呈スルニ至リ本品ノ消費ヲ激進シタレバ旁假需要ヲモ促シ且相場ノ昂騰ト相俟チ八割一分ノ激增ヲ來セリ

らんぶ提燈及同部品

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

名	昭和八年		昭和七年		増減
	價	額	價	額	
東京	三三三	三三三	九四五	九四五	△
横濱	三三六	三三六	六二七	六二七	△
大阪	三二七	三二七	六一三	六一三	△
神戸	三三九	三三九	二四四	二四四	△
廣島	四一九	四一九	三九六	三九六	△
下關	一一五	一一五	四〇	四〇	△
門司	一〇三	一〇三	七四	七四	△
計		五七九		五〇四	△

名	昭和八年		昭和七年		増減
	價	額	價	額	
長崎	一六	一六	一〇	一〇	△
朝鮮	一五	一五	一〇	一〇	△
計		三二		二〇	△

〇玩具、遊戲具及運動具

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

仕出地別表

名	昭和八年		昭和七年		増減
	價	額	價	額	
小樽	二〇	二〇	一〇	一〇	△
東京	一九九	一九九	一五二	一五二	△
横濱	八二	八二	一〇五	一〇五	△
計		二〇一		二二七	△

文化ノ向上ニ伴ヒ電燈施設愈擴大シ特ニ電球ノ消耗旺盛ニ趨キタル外自轉車用らんぶ其他懷中電燈等ノ需要モ著シク伸展ヲ告グ更ニ最近ニ至リテハねおんらいとモ漸次普及シツ、アルノ趨勢ニシテ本品移入ノ増加ハ當然ノ歸結ナルベキ所本年ノ如キ其ノ増加ノ歩合僅ニ五分ヲ出デザリシハ寧ロ期待ニ反セリ蓋シ本消息ハ供給競争ノ激化豫期セル輸出ノ不振技術ノ進歩ニヨル生産費ノ低下等ニ基ク一般相場ノ低落ニ職由セルモノニシテ實量ニ於テハ相當増大セルモノ、如ク觀測セラル、所ナリ

大 神 廣 下 門 長 鹿 沖 朝 其 計	大 神 廣 下 門 長 鹿 沖 朝 其 計	昭和八年		昭和七年		増減	
		價	額	價	額	△	減
大阪	大阪	三三〇八三	三三〇一〇	三三〇一〇	三三〇一〇	△	二八三四
兵庫	兵庫	一四二〇八	一四七五五	一四七五五	一四七五五	△	六四七
京都	京都	二五二一	三三三	三三三	三三三	△	一三三
神戶	神戶	一三〇八	五〇	五〇	五〇	△	一〇六
關東	關東	一〇〇五	一〇七	一〇七	一〇七	△	一〇六
門司	門司	二五〇	一	一	一	△	二五〇
長崎	長崎	一〇	一	一	一	△	一〇
鹿島	鹿島	一〇	一	一	一	△	一〇
沖繩	沖繩	一	一	一	一	△	一〇
朝鮮	朝鮮	一	一	一	一	△	一〇
其他各地	其他各地	三九	四〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	△	三九
計	計	六二五九	六九七三	六九七三	六九七三	△	六二五九

本項ニ屬スル種類ハ多岐多様ニ互リ一々枚舉ニ遑アラザル状態ナルガ何レモ文化ノ發達、世態ノ變遷、趣味ノ廣汎化、運動熱ノ昂進等ニ伴レ需要著シク伸展ノ道程ヲ辿リツ、アリ
 スクテ本年モ實需ニ於テ例ニ漏レザリシコトハ社會相ニ徴シ明カナルトコロナルガ之ガ移入ハ前年ノ入荷過多ナリシ反動ヲ承ケ豫期ノ進境ヲ見ルニ至ラザリシト供給元ノ自家出張販賣或ハ販賣店開設等ニ依リ原價移入品多キヲ加ヘ而モ競争ニ依リ一般相場モ低落シタルトニ基因シ其ノ價額ハ反ツテ六分ノ減少ヲ招ケリ

○木製品

本品ノ移入價額ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ
 仕出地別表

小 函 東 横 名 大 神 廣 下 門 長 鹿 沖 朝 其 計	小 函 東 横 名 大 神 廣 下 門 長 鹿 沖 朝 其 計	昭和八年		昭和七年		増減	
		價	額	價	額	△	減
樽	樽	三二五	四三〇	四三〇	四三〇	△	七九
館	館	五	八〇	八〇	八〇	△	七九
京	京	七四八	六五三九	六五三九	六五三九	△	七九
濱	濱	九一三	二四〇元	二四〇元	二四〇元	△	一四八
屋	屋	六八三	六八四	六八四	六八四	△	一五
阪	阪	一〇〇一〇	三三三三	三三三三	三三三三	△	五四
戸	戸	一六六	一七〇六	一七〇六	一七〇六	△	三二
關	關	二二六	三〇五七	三〇五七	三〇五七	△	九三
司	司	四三六	四三九	四三九	四三九	△	三
崎	崎	一〇一〇	一三六	一三六	一三六	△	一七
島	島	三三	三三〇	三三〇	三三〇	△	三
島	島	三三〇	六〇	六〇	六〇	△	三
繩	繩	九八四	一〇八四	一〇八四	一〇八四	△	一〇〇
鮮	鮮	一八九三	一四七〇	一四七〇	一四七〇	△	四三
其他各地	其他各地	七九六	七九七	七九七	七九七	△	八三
計	計	七九六	八三三	八三三	八三三	△	八三

本品ハ日用家具及指物類ヲ主トシ文化ノ發達、民衆ノ向上、生活ノ改善等ニ由リ需要逐年膨脹ヲ告グ其ノ移入モ管テハ之ニ隨伴シ遞増シタルトコロナルガ近年内地製作品ハ運賃其他中間諸經費ヲ多大ニ

要シ販賣上島内地元製作品ト拮抗スルノ困難ナル事情ニ逢着シ移入ノ機先著シク難色ヲ呈スルニ至
 レリ
 殊ニ本年ノ如キハ材料一般騰貴シ相場強調ナリシ爲仕入ヲ手控フル向一層増加シ入荷不振ニ歸シ其
 ノ價額ニ於テ竟ニ一割ノ減少ヲ來セリ

○肥料

(一) 過燐酸肥料

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ
 仕向地別表

昭和七年ノ數量ハ斤單位ヨリ換算シタルモノナリ

大東大	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
東京	四〇八三三	一四〇五八	三三、七五三	三三〇五九	三、〇八〇	二八、四五〇
大阪	二四〇、五四六	八二、二四一	二〇、五六七	六八、三五四	三、四六六	一〇、七九三
神戸	一五、七、四九	五、三三七	一〇、七、七八	三、五七五	四、七四三	一、八三七
下關	一、五八六	五、三三	—	—	一、五八六	五、三三
其ノ他ノ各地	六六、三〇七	二、六二六	—	—	六六、三〇七	二、六二六
計	五、二八、二五	一、七四、六九	四、一〇、三、七五	一、四〇、三、六四	一、一七、九、六〇	三、四〇、三、〇五

舊臘末ヨリ本春ニ互リテ一時急騰ヲ告ゲタル本品ノ相場ハ二月以降逐月ノ如ク崩落シタルガ六月需
 要期ニ向フニ及ビテ反撥シ其後人肥製造十一社ヨリ成ル懇和會ノ成立ヲ見賣値協定ニ支ヘラレ前年

ニ比スレバ大體好値ヲ持續シタリ
 驟テ本島ニ於ケル之ガ需要ヲ觀ルニ近時蔗作ニ歡迎セララル、外稻作用トシテモ著シク普及シ配合單
 肥兩様ニ益増加ノ趨勢ナルニ當リ本年ハ一般農作物ノ好況ニ單位施肥量増加シ一層消費ヲ促進セリ、
 而シテ内地ハ紋上ノ如ク市價ハ人爲的ニ維持セラレシト雖八月以降五分方ノ減産緩和ニ市場在庫増
 嵩シタル爲本島ニ對シ潜行の賣込ヲ策シ來レルモノアリ殊ニ前記懇和會加盟社外ナル一有力會社ノ
 積極的販路擴張ハ更ニ實需以上ニ入荷ヲ進メタルヲ以テ本年移入ハ引續キ活況ヲ呈シ數量二割價額
 二割四分ヲ顯著ナル進境ヲ示シタリ

(二) 硫酸あむもにうむ (粗製)

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ
 仕出地別表

昭和七年ノ數量ハ斤單位ヨリ換算シタルモノナリ

東横大	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
東京	一、六八、六三〇	一、六三、六七七	一、二四、九三三	七、四九、三三四	五、四三、七〇七	六、二三、四〇〇
大阪	一、一〇、一、〇八	一、三三、一〇	四、七、二一四	三、九、五三	八、四、四九三	一〇、一、五八八
名屋	一、四、一、一〇	一、三、四二	一、五、五九	九、四一	二、七、九一	三、九、五
大戸	一、五〇、一、五六	一、四、五、五三	三、〇〇、六〇六	三、七、九七	一、五〇、三、七〇	一、三、三、三
神司	一、〇、五、八六	四、五、五二	六、八、〇、六六	四、八、二、九七	二、七、〇、九八〇	七、四、〇、八
門池	一、〇、九、七六	一、〇、五、〇七	六、五、七	四、三、〇、八	四、六、八、五	六、一、八、九
三	四、三、七、一〇	四、四、八、〇一	四、一、六、〇三	三、四、八、三三	三、五、七、四七	一、七、一、九七

品名	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
長崎	一、五七〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、五七〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇
朝鮮	一、七六二、八〇〇	一、六四三、三三〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、八五四、〇〇〇	一、五三三、八〇〇	一、四八八、八七〇
其他各地	九三三、三三五	九〇〇、三三四	三、八一〇、〇〇〇	一、五九三、〇〇〇	△ 三、四四三、一五〇	△ 六、九〇〇、〇〇〇
計	五、二三六、一三五	五、〇四三、六六六	五、〇〇〇、〇〇〇	三、六九四、三三〇	△ 六、〇二九、一〇一	△ 一、九三三、七三三

本年ニ於ケル本品ノ實需ハ米作用トシテハ米價ノ不味ニ加ヘ早害ノ影響ヲ受ケ頓挫ヲ招キタルガ如キモ十年期糖ノ増産計畫ニ依ル蔗園ノ恢復ニ蔗作用トシテ進展シ且高値ナル大豆油糟ヨリ一部需要ヲ之ニ移シタル爲結局相當進境ヲ示シタリ

而シテ本品ノ移入ハ別項輸入ノ項ニ於テ述ベタル如キ政策ニ依リ前年ニ於テ急激ナル増加ヲ告ゲ同時ニ國産硫酸ノ施用ニ馴致セシメタル爲前陳需要ノ膨脹ニ伴ヒ本年モ相當増加スベキ實勢ニアリシトコロ昨冬來ノ相場暴騰シタル爲前年ノ假需要ニ全ク反シ極度ノ見送商狀ヲ呈シタル一方輸入制限ノ撤廢ニ依リ幾分外安ニモ抑制セラレ前年ニ比シ數量ハ一割二分ノ増加ニ止マリタリ但シ價額ハ敍上相場ノ暴騰ニ因由シ五割三分ヲ激進セリ

(三) 調合肥料

本品ノ移入ハ前年ニ比シ増加セリ即チ左ノ如シ
仕出地別表

昭和七年ノ數量ハ斤單位ヨリ換算シタルモノナリ

品名	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
東京	一〇七、一三三	八、八八五	一五、一五九	一〇、四五六	△ 四、四七三	△ 一、三六九
横濱	六、〇〇〇	八〇〇	三、〇〇〇	二二五	三、〇〇〇	五、五五
大阪	一〇、八二二	八、五二一	四、三二四	三、七三四	六、五〇〇	五、一〇七
神戸	一、四三三	一、〇九四	六、三六三	三、五八四	△ 〇、九七六	七、三三三
下關	三、六〇〇	三、三九八	—	—	三、六〇〇	三、三九八
門司	一、六二〇	三、四七七	五、二三五	四、〇〇〇	一、四一〇	八、四七七
其他各地	二、八二五	八、四四二	二、六九二	一、七九四	九、八五六	七、〇七二
計	三、四四三	三、七四七	三、三九九	一、五三九	三、五二二	一、三八六

本年ハ蔗園ノ恢復ト一般耕地ノ擴大トニ依リ肥料ノ需要著シク膨脹ヲ告ゲタルトコロ大豆油糟及硫酸ハ偶相場暴騰シタル爲願ラレズ他ノ割安ナル肥料ヲ索ムル傾向顯著ナルヲ示シタルニ當リ一方供給者側ニ於テモ既述ノ如ク過磷酸ガ協定ニ阻マレンノ自由販賣ヲ認メラレザリシニ依リ之ヲ配合肥料トシテ過磷酸ノ協定賣値ヨリ採算セル價格以下ノ安値ヲ以テ處分セントシタル爲需要本品ニ集中セルノミナラズ斯ノ如キ販賣者ノ積極的賣込ハ假需要ヲモ刺戟促進スルノ結果トナリ本年ノ移入ハ更ニ躍進シ前年ニ對スル増加ノ歩合數量ニ於テ五割五分價額ニ於テ八割一分ニ達セリ

(四) 其ノ他ノ肥料

本品ノ移入ハ前年ニ比シ減退セリ即チ左ノ如シ

内地貿易

移入重要品

肥料(其ノ他ノ肥料)

種別表	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
函館	八三〇六	三三三五	一〇〇	一〇	△	△
東京	八〇四四	四六五	九五〇五	一一六	△	△
横濱	三三三	一四六	一七九二	一三六	△	△
名古屋	三三三	一四六	一七九二	一三六	△	△
大阪	三三三	一四六	一七九二	一三六	△	△
神戸	一〇三二四	一五三三	八五四三	二五〇七	△	△
廣島	三三三	一四六	一七九二	一三六	△	△
下關	三三三	一四六	一七九二	一三六	△	△
門司	一〇四七九	一〇四三	六四八四	八三三	△	△
長崎	一一〇〇〇	八〇	三九三六	六〇二六	△	△
鹿児島	三三三	一四六	一七九二	一三六	△	△
朝鮮	三三三	一四六	一七九二	一三六	△	△
其他ノ各地	九〇四七	六二八四	四七五八	三〇二七	△	△
計	一〇四九五七	一三三〇七五	三三九四五六	一三三〇三三	△	△
大豆	九四〇一〇	一三六八六	八七二〇	三三六七	△	△
油						
加里						

鹽化加里	昭和八年		昭和七年		増減	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
あんもほす	三二八五五	五四四四	二〇七七	二四六〇〇	△	△
其他ノ肥料	九四〇七三	一〇一七五	一一一〇三	一〇〇五七	△	△
計	一〇四九五七	一三三〇七五	三三九四五六	一三三〇三三	△	△

本品中大豆油糟ハ其ノ商況ニ甚シキ波瀾ナキ限リ產地直接輸入ヲ常態トシ本年之ガ移入ノ引續キ絶無ニ畢レル蓋シ説明ヲ要セザルトコロナリ

硫酸加里及鹽化加里ハ共ニ根肥トシテ最近重視セラル、ニ至リ蔗作以外ニモ普及ノ傾向表ハレタル折柄特ニ本年ハ蔗園擴大シタルヲ以テ旁前年ニ於ケル手當不足ヲ副因トシテ輸入ト共ニ増加ヲ告ゲタリ

而シテ其他ノ肥料トシテハ各種合成肥料ヲ主トシ前年ハ一部製糖會社ノ買進ニ職由シ激増ヲ告ゲタルトコロ本年ハ割安ナル調合肥料ノ消費ヲ促シあんもほすト共ニ其ノ賣行衰ヘ尙石灰窒素モ割高視セラレ不振ヲ呈シタリ

此ノ結果移入總額ニ於テ數量ハ二割五分ノ入減トナレルモ價額ハ一般肥價ノ騰貴ニ補ハレ極メテ僅少ノ減退ニ止マリタリ

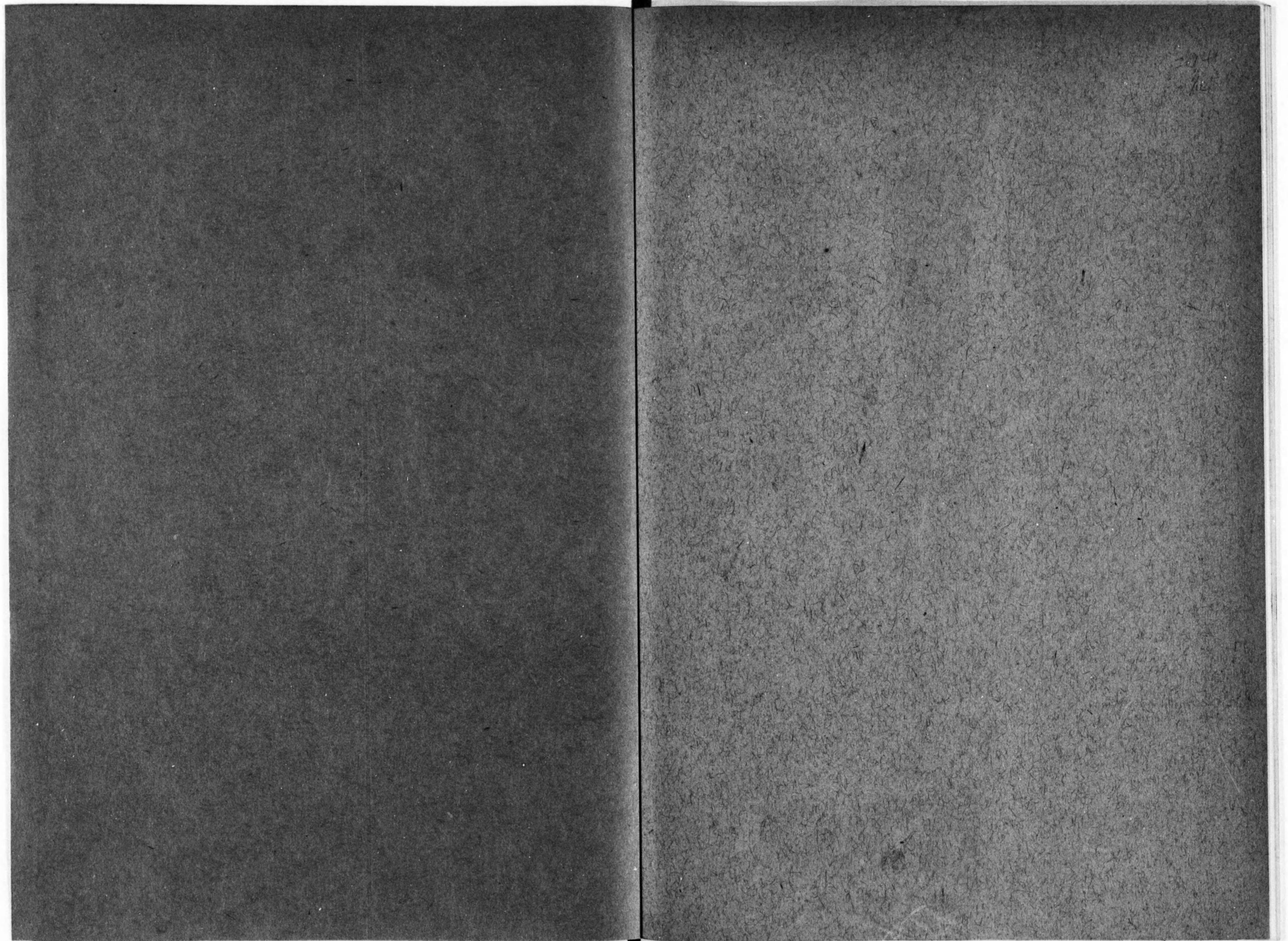
Table with multiple columns and rows, containing faint text and numbers, likely a ledger or account book. The text is mostly illegible due to fading.

昭和十一年五月七日印刷
 昭和十一年五月十日發行

臺灣總督府財務局稅務課

印刷人 臺北市榮町一丁目二十八番地 中村誠道

印刷所 臺北市榮町一丁目二十七番地 松浦屋印刷部



14.4
223

終